



子供のASQ研究

5068 田川 ゆう子

5400 熊田 圭子

◆ 1, 序論

- ・ [日本における子供の現状とストレスについて](#)
- ・ [説明スタイルについて](#)
- ・ [ストレス尺度について \(内容説明と用いた根拠\)](#)
- ・ [説明スタイル尺度について \(内容説明と用いた根拠\)](#)

◆ 2, 調査1 : 日本版CASQの作成

- ・ [目的](#)
- ・ [方法 \(被験者・材料・手続き\)](#)
- ・ [結果](#)
- ・ [考察](#)

◆ 3, 調査2

- ・ [目的](#)
- ・ [方法 \(被験者・材料・手続き\)](#)
- ・ [結果](#)
- ・ [考察](#)

◆ [SAS統計分析結果総覧](#)

◆ [質問紙実施版](#)

◆ [参考文献リスト](#)

日本における子どもの現状とストレス

近年、学校生活においては登校拒否・不登校・いじめ・荒れ等、また日常生活においても、“キレル”子ども・しつけ不足・家庭内暴力等、子ども達を巡ってさまざまな問題が取り上げられている。これらの問題に関してさまざまな調査・研究が行われており、子どもが学校生活や日常生活において感じているストレスが問題の一因であることが示唆されている。1998年6月5日の国連子どもの権利委員会においても、日本政府に対して「極度に競争的な教育制度によるストレスのため、子どもが発達上の障害にさらされていること、および、教育制度が極度に競争的である結果、余暇、スポーツ活動および休息が欠如していることを懸念する」として、その改善の勧告が行われた。このことから、現代の日本社会における子どものストレスが重要な問題とされていることがうかがわれる。長根(1991)の研究によると、小学校高学年の子ども達についてでさえ、学校生活におけるストレスに関して友人関係、授業の発表、学業成績、失敗という4つのストレス因の存在が明らかになっている。さらに、高度に発達した欧米の大人社会の中においても現代の病気の80%はストレスが原因であるとされており、ストレス状態にある子どもが成人した時にストレスが大きな障害となることは想像に難くない。

「ストレス」という言葉はあまりにも多用され、概念が希薄になりつつあるので、ここで見なおしてみる。ストレスとは、元来は生理学的な立場から論議されてきたものである。Cannon(1932)は精神的な感情の動きが身体に影響を及ぼすメカニズムの研究を行い、生理学の一大テーマとして位置付けた。この学説は「ストレス学説」と呼ばれている。生理学的立場における定義では、ストレスは生体に対する外的負荷または外的要求が過剰な状態において生じるものであるとされている。また生理学的立場からストレスは

1. 身体的ストレス(運動強度、温度環境等)
2. 感覚的ストレス(騒音、光等)
3. 心理的ストレス(快不快、人間関係、情緒、やりがい等)
4. 緊急的ストレス(不安、恐怖等)

の4つに大別されるが、いずれの場合も類似した過程を経て類似の結果に発展するとされている。

ストレスに対する心理学的立場からのアプローチについては、Lazarus以降、特に発展させられてきた定義によると、ストレスは刺激、反応および脅威の評価、対処のスタイル、心理的防衛規制、社会的環境のような介在的過程の相互に影響し合う諸因子の全スペクトルを包括するものであるとされている。この定義は心理学的ストレス分野における他の多くの研究者達の一般的な概念的アプローチを反映しているといえる。Masonは1975年に、この定義は語義の上で「ストレス」という言葉に抽象的性格を与えていること、生体に作用する力として用いてきた趨勢に反していることを批判してはいるが、同時に、現在の混乱を脱出するには、この組織化した研究が必要だとも述べている。

ストレスを心理学的に捉えられるようになった後、精神分析理論と自我心理学を土台として

対処理論が発生した。能動的かつ創造的な対処はコーピングと呼ばれ、一般にストレスへの対処行動を意味するが、その定義は多様であり、概念的には「日常生活において直面する様々な問題状況に対して、対処・克服し、あるいは解決しようとする態度」とされている。コーピングと対立するストレス対処としては自我防衛規制が挙げられており、心理学者の間ではストレス対処を、この2つの処理にわけるのが常識化しているように思われる。また、Kobasaは1982年に、ストレスに強い人々の研究をつうじて、ストレスに強くあるための要因として

1. 物事の要因を外的なものではなく、内的なものに求め、自己統制ができる
2. 自我関与がある、つまり、何事にも積極的に関わっているという感覚を持つことができる
3. 障害を自己の成長の機会と捉え、積極性・チャレンジ精神を持っている

という3要因が重要であると述べている。これらのことから、ストレスに対処するための方法として、単にストレス因を断つだけでなく、個人の考え方のスタイルを変えることが有効であることが分かる。

個人が、さらされている要求・環境に十分な対処ができなければ、ストレス状態になりうる。そして更には身体的症状や精神的症状をも誘引することになりうる。1990～1991年に Powell and Enrightの作成したストレス状態の一覧表においては、ストレス状態で見られる症状として

1. 身体的なもの（心拍数の増加、過呼吸、めまい、胃痛・吐き気、下痢、喘息など）
2. 精神的なもの(集中力の低下、決断力の低下、健忘症、破局的思考など)
3. 行動上のもの（引きこもり、不眠、苛立ち、嗜好の変化、酒・タバコ等の摂取量の増加など）

が挙げられている。また、身体的症状については心身症と呼ばれており、日本心身医学会が発表した定義によると「身体に症状が現れることは身体の病気と同じだが、その診断や治療には心理的な配慮も重要な意味を持つ病的状態」とされている。子どもの代表的な心身症としては胃潰瘍、気管支喘息、どもり、過食、登校拒否、不安神経症、円形脱毛症、睡眠障害などが挙げられる（甲賀、1990）。精神的症状つまり心因性精神障害については、心理社会的要因が主たる原因で引き起こされるものである。ストレスは内因性精神障害を誘引するとされており、内因性精神障害とは精神分裂病(破爪型、妄想型、緊張型)と躁鬱病(単極性うつ病、双極性うつ病、躁病)を示す。

説明スタイルについて

説明スタイルとは、Seligman(1990)の定義によると、物事の原因に対する説明スタイルには楽観的なものと悲観的なものとがあるとされている。楽観的な説明スタイルとは、自分にとって良い出来事（正の事象）が起きたとき、その出来事の原因を内的（自分自身に原因があるとする）・永続的（これからも長く続く）・普遍的（あらゆる場合に作用する）に捉えるものである。それに対して、悪い出来事については、これとは逆に外的・一時的・特異的に捉えるものである。

このような説明スタイルの応用が最も有効であるのは、健康増進、成績や業績の向上、鬱病の治療の3分野においてである。とりわけ、鬱病の治療に対しては学習性無力感などの学説が唱えられ、多くの研究が行われている。これらの3分野における説明スタイルについて以下にまとめていく。

i. 健康増進

一般に肉体的な健康は完全に肉体的なもので、体質や健康習慣、衛生状態の改善によって決定されると考えられている。しかし、考え方つまり説明スタイルによって健康状態が変わることが指摘されている。具体的には楽観的説明スタイルを持つ人（オプティミスト）の方が悲観的説明スタイルを持つ人（ペシミスト）よりも感染症にかかりにくく、健康的な習慣を持ち、免疫力があり、長生きであるということが証明されている。

ii. 成績や業績の向上

Seligmanらが長期にわたって行った様々な研究によると、学齢期の子どもを対象として行った研究においてはオプティミストが好成績をあげた。同様に、大学生や保険の外交員、兵隊を対象とした調査においてもオプティミストがペシミストよりもよい成績・業績を上げたことが明らかになっている。この原因として、楽観主義は失敗しても挫折しないねばり強さを引き出すこと、勉強や仕事が辛くなったときの支えとなることなどが考えられている。しかし、オプティミストはしばしば物事を自分の都合の良いように解釈する傾向があり、現実を正確に評価するという点においてはペシミストの方が優れた能力を示す。そのため、組織の中においてはオプティミストとペシミストが互いの長所を生かすことが重要となることが指摘されている。

iii. 鬱病の治療

鬱病は様々な分類されるが思考・気分・言動・肉体的反応において否定的になる変化を伴うという点で同じ特徴を持ち、このような変化が鬱病全般の診断の基準となる。1978年のSeligman、Abramson、Teasdaleの学習性無力感仮説の改訂に伴い、抑うつ傾向と説明スタイルとの関係が重要視されるようになった。この改訂版学習性無力感仮説は抑うつ傾向の強い人には特定の説明スタイルがあるとするものである。これに基づき、Seligman, Abramson, & Semmelは1979年に説明スタイルを測定する尺度（Attributional Style Questionnaire : ASQ）を開発し、説明スタイルと抑うつ傾向との関係を調べることによって、負の抑うつの説明スタイルを発見した。同様にSeligman, Peterson, Kaslow, Tannebaum, Alloy, & Abramsonは1984年に、児童に対する

調査を行い、正・負両方の抑うつ的説明スタイルを見出した。更に1986年のNolen-Hoeksema, Girgus, & Seligman では、子どもたちの持つ正・負の抑うつ的説明スタイルが抑うつ傾向に影響していることが確認された。また、Seligman.M.E.Pら(1995)の研究によると、アメリカでは全体の4分の1の子供たちがうつ状態にある。この問題を解決するため、Seligmanは同僚たちとともにPenn Depression Prevention Projectと呼ばれる長期の調査を行った。調査結果に基づき、彼らはうつ状態の解決法として子供たちに楽観的説明スタイルを身につけさせることを考案し、両親や教師がすべての年代の子供たちに楽観的説明スタイルを教える方法を開発した。説明スタイルを楽観的なものに変えることによる鬱病の治療が大きな成果をあげたことにより、悲観的説明スタイルが鬱病の原因となることが明らかになった。

日本においては桜井(1989)が児童用絶望感測定尺度を作成し、樋口ら(1983)の原因帰属様式測定尺度を用いて子どもの抑うつ傾向と説明スタイルの関係を検討している。その結果は絶望感の高い者ほど成功の原因を外的に捉えるという点は改訂版学習性無力感仮説に合致していたが、絶望感が高い者ほど失敗の原因を努力(内的・一時的要因)に帰属していた点では矛盾していた。この研究結果は、樋口ら(1983)や桜井(1987)と通じる点があり、桜井(1989)はこの結果に対して日本に特有の“努力万能主義”や自己防衛的な説明スタイル傾向、社会的望ましさの原因があるという考察を行っている。しかし、サンプル数が188名と少ないことを始め、質問項目が日本の文化にそぐわない物を含んでいる点、説明スタイルの領域が学業達成に限られている点、分析が相関分析しか行われていない点など様々な課題が残されている。

前項で述べた通り、ストレスは内因性精神障害を引き起こすものであるが、そのうちの1つである鬱について、上述のような説明スタイルとの関係を調べた研究が数多く行われている。抑うつに対して楽観的説明スタイルを身につけることは、抑うつに陥る危険性を減らすだけでなく、学校生活の質を高め、精神病を解決し、子供たちに必要な独立独歩を身につけさせ、彼らが思春期の青年や大人としてやっていく力を与える。また、上述のように、個人の考え方の改革がストレス軽減に大きく貢献するであろうことが推測される。また、ストレス状態の結果として想定されている社会的不適応についても、桜井(1991)により説明スタイルとの関係性が示唆されている。

以上のことから、本研究においては日本の子どもたちのストレスと楽観的説明スタイルとの関係を調べることにする。

ストレス測定尺度について

ストレスに関する測定尺度は様々であるが、日本で用いられてきた測定尺度としては、ストレスサーに関する尺度のほか、Goldbergら(1972)によるGeneral Health Questionnaire (GHQ)、新名ら(1990)による心理的ストレス反応尺度(PSRS)、阿部ら(1989)によるストレス反応尺度、鈴木ら(1996)によるストレス反応尺度短縮版など、ストレス反応を測定するものと、木島ら(1997)によるストレス・コーピング・スキル尺度 (SCSS) や三浦・坂野(1995)による中学生用コーピング測定尺度、寺下ら(1989)によるストレス対処尺度など、ストレスコーピングに関する尺度が挙げられる。

本研究は、ストレス状態と説明スタイルの関係を測定することを目的としており、これを測定するための尺度として1972年にGoldbergらが開発したGeneral Health Questionnaire(日本名：精神健康調査票、略称：GHQ)を用いた。日本版GHQ手引き(中川・大坊、1985)によれば、GHQは非気質性、非精神病性の精神障害のスクリーニングテストであり、神経症症状の発見や把握を主たる目的とするほか、うつや緊張を伴った疾患性など、精神的な健康度を測る質問紙として世界各国でよく用いられている。また、数々の研究によってその因子構造が年齢群や性別によって変化しない可能性をも示唆されている。GHQ質問紙作成においては、1962年のVeroffらの研究に基づいて項目を作成している。Veroffらの研究は一般病院の外来患者500名を対象に「適応」と「苦悩」についての詳細な面接を行い、その結果を解析したところ、不幸・心理的障害・社会的適応障害・自信(精神的、身体的)の欠如、の4因子を抽出した。この4因子をもとに、精神的健康度の因子を4因子想定し、以下のように定めた。

1. 身体的症状(自信欠如による心気症的問題に関する因子)
2. 不安と不眠(心理的障害に関する因子)
3. 社会的活動障害(社会的適応障害に関する因子)
4. うつ状態(不幸に関する因子)

としている。この定義は、上記で示したストレス症状とほぼ一致しており、ストレス状態の尺度として用いることができる。

成田(1994)によれば、70年代より始まったGHQ研究は、成人を中心に行われてきており、子どもを対象としたものは極端に少ない。これはもともとGHQが子どもを想定して作られておらず、子どもにGHQを実施するのが容易でないためであるが、「精神健康調査票手引き」によると、中学生以上における尺度としての有効性は、既に認められている。特に80年以降、青少年を対象としたGHQ研究の論文が増加しており(成田、1995)、若年層におけるGHQ研究が注目されているといえる。

短縮版でその有効性が認められているものには、GHQ60項目の回答結果より抽出された6因子(一般的疾患性、一般因子、身体症状、睡眠障害、社会的不全、重篤な抑うつ)に対して各5項目からなるGHQ30と、これをさらに簡潔化したGHQ28(身体症状、不安と不眠、社会的不

全、重篤な抑うつ（4因子×各7項目）がある。わが国では大坊・中野（1987）が、28項目版と30項目版について、60項目版と同等の機能を確認しているほか、成田(1996)は日本の女子青年を対象としてGHQ28の因子的妥当性および信頼性の検討と因子構造の分析をしており、いずれの点においても十分な信頼性と構造を見出した。これらのように短縮版についても、とりわけGHQ28はGHQ60との相関が高く、その信頼性が高く評価されている。

本研究においては対象者を子どもとしているため、質問項目の多さがストレス因となりやすいと考えられる。そのため、GHQ28を用いて子どものストレス状態を測定することとする。また、GHQの対象年齢が12歳以上であるため、説明スタイルとストレスの関係についての調査対象を中学生とする。

説明スタイル測定 of 尺度について

Seligman(1991)は、自らの説明スタイルについての定義に基づき、説明スタイルの楽観度を測定する尺度として、ASQ(Attributional Style Questionnaire)を作成した。これは48項目からなる2択式の質問紙である。また、その児童用としてCASQ(Children Attributional Style Questionnaire)を開発した。また、説明スタイルに関する質問紙は、ASQの以降これまでにいくつか作成されてきた。欧米においては、ASQを改訂した新しい尺度が2種類作成されている。

①EASQ (Expanded Attributional Style Questionnaire ; Peterson & Villanova.)

1998年に作成され、その日本版は成田らによって1990年に和訳されたものである。これは、欧米における改訂学習性無力感の研究においては、負の事象についての説明スタイルが学習性無力感に対して大きく関係していたことに基づき、24の負の出来事のみから構成されている。日本版についてはこれを翻訳し、22の負の出来事から構成されるものであり、信頼性が確認されている。

②ASQ-E (Metalsky & Joiner,1992)

EASQ (Extended Attributional Style Questionnaire ; Metalsky, Halberstadt, & Abramson) と CSQ(Cognitive Style Questionnaire)を合わせたものであり、従来の3次元に「自己に対する認知」「結果に対する認知」の2次元が加えられている。従来のものよりも次元設定が日本の現状に即していると考えられており、1993年に藤南、園田、詫摩が信頼性を確認している。

以上の2種の尺度はいずれも負の事象のみから構成されており、自由記述式の質問項目を含んでいる。そのため、各次元ごとの合計得点の内的一貫性が高い。しかし、日本では負の事象よりも正の事象についての説明スタイルが主である。また、自由記述方式は回答に時間と体力を要し、回答そのものがストレス因になりうるため、他の質問紙と組み合わせて実施することが困難であり、因果関係などの研究での信頼性に疑問がある。さらに、自由記述方式では対象者にある程度の柔軟性・知的レベルが要求され、一般的な社会人や子どもを対象とした調査には、かなりの困難が伴うことが指摘されている。

また、説明スタイルを測定する際に場面を分類した上で測定するような尺度も開発されている。日本においては樋口(1983)は児童を対象として、学業達成場面における各種成功・失敗要因(努力、能力、体調・気分、課題、運の5要因)に対して自己評定をさせることで、説明スタイルを測定する尺度を開発している。村上(1989)は大学生を対象として、この樋口(1983)の尺度とSeligmanのASQを参考に、課題達成領域と対人関係領域の2領域に分類した上で、正・負の事象に対する説明スタイルを測定する尺度を作成している。また、桜井は1992年に大学生を対象として、学業達成場面と友人関係の2領域それぞれにおける負の事象を設定した上で説明スタイルの尺度を作成し、さらに、学業達成の失敗場面毎に原因を配置して、その程度を評定する具体的説明スタイル尺度を作成している。領域を特定して行うこれらのような調査方式は、特定場面での理論モデルの検討に有効であり、かつ内的一貫性が高まる。しかしその一方で、対象者や領域が限定されてしまい、広範囲な調査を行うことができない。

それに対し、SeligmanのASQは、正負いずれの事象についても帰属様式の検討が可能である。また、選択式であるため実施が容易であり、回答が簡潔である。そのため、因果関係の研究における信頼性が期待され、広範囲に利用が可能である。さらに、能力・社会的にあらゆる対象者に対して行うことが可能である。以上のような利点があり、今後行われる子どもの説明スタイルの研究において最も有用であると考えられるため、子どもを対象とする楽観的説明スタイル測定用紙の日本版としてのCASQ-KGを作成し、本研究における、日本の子どもたちの楽観的説明スタイルとストレスの関係についての調査紙とする。

II. 調査1：日本版CASQ（CASQ-KG）の作成

*以下の調査は、立木ゼミの1998年度卒論グループ8（角谷・谷・森本）と共同で行った。

目 的

子どもの楽観的説明スタイル測定尺度であるSeligman（1991）のCASQ（Children's Attributional Style Questionnaire）を改変し、日本版CASQ（以下、CASQ-KGと呼称）を作成する。作成の際、以下の点に考慮する。

1. 日本の文化的背景に合っていること
2. 幅広い学齢層の子どもたちに利用可能であること
3. 質問項目が少なく、項目の内容が簡潔であること
4. 場面の領域を限定せず、子どもの生活全般に渡っていること

方 法

被験者 兵庫県、大阪府、福井県下の小学5年生から高校3年生までの1661名（うち男子769名、女子892名）。

材料 以下の予備的検討（i. ～v. ）を通して選定した、Seligman（1991）のCASQに準じる形式の計96項目を、下位概念と項目のバランスを等しくして24項目ずつに分割した4種類の質問紙（K,U,C,M）。

i. セリグマン（1991）は、7歳以上の子どもにはすでに説明スタイルが確立されつつあるとしているが、8歳に満たない子どもへの質問紙検査は信頼性が低いため、CASQの対象を8歳から13歳までとしている。14歳以上の子どもに関しては、一般成人用のASQの施行を認めている。本研究は、序論で述べたように、昨今の学校教育場面における問題を重視しており、このような問題の解決へのアプローチに有効な質問紙の作成を目的としているため、より広い学齢層にあたる小学校高学年児から高校生までを調査の対象とした。

ii. SeligmanのCASQは、48の出来事について、それらが起こったと想定させた上で、その原因をどのように帰属するかを2択で選ばせるものである。本調査では、質問と回答の形式はSeligmanのCASQに準じることとしたが、検査の簡便化を目指して、項目の節約と文章の簡潔化を図った。最終的に24項目の質問紙を作成するために、ここではパイロットテストとして、96項目について相当数のサンプルを収集・分析することとした。

iii. SeligmanのCASQは、良い出来事（good event：以下、Gと略称）と悪い出来事（bad event：以下、B）の各々の説明スタイルに3つの因子、すなわちPersonalization（個人度—内向的あるいは外向的：以下、Ps）、Permanence（永続性—永続的あるいは一時的：以下、Pm）、Pervasiveness（普遍性—普遍的あるいは特定の：以下、Pv）を含んでおり、計6因子で構成されている。本調査では、過去のさまざまな説明スタイルに関する文献研究から、必要だと思われる下位概念を、セリグマンの6因子の下に独自に設けることを試みた。まず、出来事が起こる場面設定においては領域の偏りをなくすため、学校場面（school：以下、s）と日常生活場面（daily：以下、d）とが半分ずつの割合になるようにした。さらに、出来事の重要さや深刻さの度合によって説明スタイルが変わる（新名、1984）ことに考慮し、出来事を重いもの（heavy：以下、h）と、比較的軽いもの（light：以下、l）とに分けた。従って、1つの因子の下に4つの下位概念を含む、 $6 \times 4 = 24$ の概念がつくられた。これら概念の各々の略称は、以下の通りである。

- ・ PsG-s/h, PsG-s/l, PsG-d/h, PsG-d/l, ・ PsB-s/h, PsB-s/l, PsB-d/h, PsB-d/l
- ・ PmG-s/h, PmG-s/l, PmG-d/h, PmG-d/l, ・ PmB-s/h, PmB-s/l, PmB-d/h, PmB-d/l
- ・ PvG-s/h, PvG-s/l, PvG-d/h, PvG-d/l, ・ PvB-s/h, PvB-s/l, PvB-d/h, PvB-d/l

iv. 上の i ～ iii をふまえて、立木ゼミ生5名が各自で、24の概念に合致する質問項目を2個ず

つ、1人48項目、計240項目を考案した。各項目について一人一人が因子を分類し、全員の分類結果が一致したもののうち、質問の内容が重複しないこと、想定しやすい場面設定であることなどに配慮して選んだ96項目が採用された。これらの質問項目を、24の概念に対応した24項目ずつの質問紙に4分割し、それぞれK・U・C・Mと命名した。項目は概念に関わりなく、ランダムに配置された。

v. SeligmanのCASQにおいては、選択肢は「1」と「2」で示されているが、数字の大小によって引き起こされる被験者の選択肢への先入観を避けるため、より平等と思われた文字（「ア」・「イ」）による選択肢を採用した。

なお、教示の文章は以下の通りである。「もし次のようなことが起きたら、あなたはア・イのどちらのことを考えますか。近いと思う方の記号に○をつけて下さい。どちらを選んでもまちがいということはありません。」

手続 1998年7月、上記の質問紙を実施した。

- 以下の文章および表において使用される主な略称の意味について付記する。

ASQ : CASQ-KG ;楽観度

IN : IN-OUT (=Personalization) ;個人度

PM : Permanence ;永続性

PR : Pervasiveness ;普遍性

GHQ : GHQ28

SS : Somatic Symptoms ;身体的障害

AI : Anxiety and Insomnia ;不安と不眠

SD : Social Dysfunction ;社会的活動障害

DE : (Severe) Depression ;うつ傾向

—
CASQの採点方法

良い出来事の質問項目においては、より楽観的な方の選択肢への回答に1点、より悲観的な選択肢への回答に0点を与えた。悪い出来事の項目においては、より悲観的な方の選択肢への回答に1点、より楽観的な選択肢への回答に0点を与えた。各次元（PsG・PsB・PmG・PmB・PvG・PvB）ごとに合計点を出し、良い出来事全体の得点（ $G=PsG+PmG+PvG$ ）から悪い出来事全体の得点（ $B=PsB+PmB+PvB$ ）を引いたもの（ $G-B$ ）を、CASQにおける総得点、すなわち

説明スタイルの楽観度とした。

結 果

1. サンプルの精選と項目の抽出

因子分析に先立ち、データの信頼度に悪影響を及ぼすと考える以下のようなサンプルをあらかじめ削除することにした。削除の対象としたのは、

1. 無回答であったもの
2. 全項目にわたる同じ選択肢への回答が見られたもの
3. 規則性のある回答が見られたもの

である。その結果、10名のサンプルを削除し、残った1651名のサンプルについて分析を行った。

また、尺度としての弁別性を保つため、回答数の偏りが90%以上の項目を削除することにした。項目分析の結果、質問紙U中の1項目および質問紙M中の5項目、計6項目を削除した。質問紙KとCについては、これに該当する項目はなかった。

2. 探索的因子分析による尺度項目の分析

(1) の結果残った90項目について、主因子法による因子の算出を行った後、バリマックス回転を施した。探索的に、3から10までの因子数で分析を行ったところ、3因子解にて安定した構造が得られた。この結果から、尺度間相関値の低かった項目を削除し、最終的に残った24項目によってCASQ-KGを構成した。各概念とそれに対応する項目については、**表1**のとおりである。

表 1-1 : CASQ-KGの項目一覧表

| 概念 | 項目 | 事象 | 選択肢 | 得点 |
|-----|----|----------------------------|--|--------|
| PsG | 1 | 友達とトランプをして勝った。 | ア. 自分が強いからだ。 イ. 友達が下手だからだ。 | 1 0 |
| | 2 | 発表会で指揮者をして成功した。 | ア. 自分に実力があつたからだ。 イ. 他のおもんなの協力的のおかげだ。 | 1 0 |
| | 4 | 新しいクラスでみんなと仲良くなれた。 | ア. 自分は人に好かれやすい。 イ. 今度のクラスメイトは良い人ばかりだ。 | 1 0 |
| | 6 | 大切にしていた動物に子どもが生まれた。 | ア. 自分が上手に世話をしたからだ。 イ. 大きくなったから当然のことだ。 | 1 0 |
| PsB | 7 | 学校で仲間はずれにされる。 | ア. 仲間はずれにするみんなが悪い。 イ. 自分が悪い子だから嫌われたんだ。 | 0 1 |
| | 10 | 答えをまちがい、大恥をかく。 | ア. 自分の勉強不足が原因だ。 イ. あんな問題、誰もわかるはずがない。 | 1 0 |
| | 13 | カッターで指を切ってしまう。 | ア. 自分はカッターを使うことに慣れていなかった。 イ. カッターが切れにくかったからだ。 | 1 0 |
| | 14 | 友達のゲームを壊してしまう。 | ア. 自分が不注意だったからだ。 イ. そのゲームは壊れかけていた。 | 1 0 |
| PmG | 3 | 好きな野球チームが優勝する。 | ア. ああのチームは強いからだ。 イ. 相手チームの調子が悪かったからだ。 | 1 0 |
| | 5 | 担任の先生が最近優しくしてくれる。 | ア. 先生はきげんのよいときは優しい。 イ. 先生は優しい人だ。 | 0 1 |
| | 9 | 難しいゲームで勝った。 | ア. 自分は近頃ゲームを上手にできる。 イ. 自分は人よりゲームがうまい。 | 0 1 |
| | 24 | 今日、学校でよいことがたくさん起こった。 | ア. 今日とはたまたま偶然が重なった。 イ. 学校はたいてい楽しいところだ。 | 0 1 |
| PmB | 19 | 計算ミスで答えをまちがえた。 | ア. ああの時もうっかりしていた。 イ. 自分はおっちょこちよいだ。 | 0 1 |
| | 20 | まちがい電話をしてしまう。 | ア. 自分は電話番号を覚えるのが苦手だ。 イ. 今回は押しまちがえたのだ。 | 1 0 |
| | 22 | 大切な友人と大げんかをして、長い間仲直りができない。 | ア. その友人とは性格が合わない。 イ. その友人は、いじっぱりだ。 | 1 0 |
| | 23 | 授業で分からないところがある。 | ア. 私はいつも理解することが苦手だ。 イ. 今日の授業はむずかしすぎる。 | 1 0 |

表 1-2 : CASQ-KGの項目一覧表 (2)

| | | | | |
|-----|----|------------------------------|--------------------------|---|
| PvG | 11 | 最近、学校生活が楽しい。 | ア.良いことが起きると学校は楽しい。 | 0 |
| | | | イ.学校は楽しいところだ。 | 1 |
| | 12 | 学校の運動会で自分のクラスが優勝する。 | ア.自分のクラスはすごいクラスだ。 | 1 |
| | | | イ.自分のクラスはスポーツがよくできる。 | 0 |
| PvB | 16 | がんばって、きれいだった食べ物を食べられるようになった。 | ア.自分は好き嫌いをなおすことができる。 | 0 |
| | | | イ.自分は何でもやればできる。 | 1 |
| PvB | 18 | 初対面の人と話して、とても楽しかった。 | ア.自分はあの人と気が合う。 | 0 |
| | | | イ.自分は誰とも楽しく話せる。 | 1 |
| | 8 | 友達から急に口をきいてもらえなくなる。 | ア.自分が何か友達の気にさわることをしたからだ。 | 0 |
| | | | イ.自分のことが、きれいになったからだ。 | 1 |
| PvB | 15 | 仲の良い友人が転校してしまう。 | ア.転校はよくあることだ。 | 1 |
| | | | イ.仕方のない事情があるからだ。 | 0 |
| PvB | 17 | 修学旅行でケガをした。 | ア.修学旅行でははめを外してしまう。 | 0 |
| | | | イ.自分はよくケガをする。 | 1 |
| PvB | 21 | 階段でつまづいた。 | ア.階段は危ない。 | 1 |
| | | | イ.あの階段はつまづきやすい。 | 0 |

また、CASQ-KGについて再度因子分析を行ったところ、表2のような結果が得られた。

表2：CASQ-KGの因子構造表

| 項目 | FACTOR1 | FACTOR2 | FACTOR3 | 概念 |
|-----|----------------|----------------|-----------------|-----|
| | PsB | PvG | PmB | |
| Q14 | 0.70555 | 0.01825 | -0.0857 | PsB |
| Q13 | 0.56246 | -0.08323 | -0.16866 | PsB |
| Q10 | 0.54504 | -0.2885 | -0.02122 | PsB |
| Q21 | 0.47977 | <-0.00558> | 0.15289 | PvB |
| Q22 | 0.24551 | 0.19313 | 0.00688 | PmB |
| Q16 | -0.35577 | 0.00962 | -0.23553 | PvG |
| Q15 | -0.41175 | <-0.07919> | 0.30931 | PvB |
| Q2 | <-0.5199> | 0.24783 | -0.08432 | PsG |
| Q4 | <-0.52174> | -0.08976 | -0.26507 | PsG |
| Q11 | -0.20284 | 0.63038 | 0.18906 | PvG |
| Q24 | -0.10562 | 0.61765 | <0.17906> | PmG |
| Q5 | 0.41176 | 0.54936 | <-0.02544> | PmG |
| Q12 | 0.07242 | -0.2054 | 0.05764 | PvG |
| Q6 | <-0.10777> | -0.5128 | 0.04104 | PsG |
| Q20 | 0.09644 | -0.01912 | 0.58012 | PmB |
| Q23 | 0.27181 | -0.36969 | 0.40039 | PmB |
| Q8 | -0.04509 | <-0.26209> | 0.27095 | PvB |
| Q17 | 0.01613 | <-0.07099> | -0.23137 | PvB |
| Q19 | -0.22591 | -0.03712 | -0.29158 | PmB |
| Q3 | -0.1178 | -0.00189 | <-0.45899> | PmG |
| Q1 | <-0.04072> | -0.09442 | -0.50841 | PsG |

・第1因子：Q10・Q13・Q14が0.54504～0.70555の間で因子負荷量を受けており、PsB（悪い出来

事における個人度)に関する次元と解釈した。これに対応するPsG(良い出来事における個人度)の項目Q1・Q2・Q4・Q6が、逆に $-0.52174 \sim -0.04072$ と低い値を示し、関連性が裏づけられた。

・第2因子: Q11が、0.63038の最も高い因子負荷量を受けており、これに対応するPvB(悪い出来事における普遍性)の項目Q8、Q15、Q17、Q21が、 $-0.26209 \sim -0.00558$ の間で低い値を示していることから、PvG(良い出来事における普遍性)に関する次元と解釈した。ただ、Q11と同様に高い値を示すべきQ12とQ16については全く有意とはいえず、また、PmG(良い出来事における永続性)の項目であるQ5とQ24から、それぞれ0.54936・0.61765と高い負荷を受けていた。

・第3因子: Q20・Q23がそれぞれ0.58012・0.40039の因子負荷量を受けており、PmB(悪い出来事における永続性)に関する次元と解釈したが、同じPmBの項目であるQ19とQ22については、有意とはいえない数値であった。しかし、PmBに対応するPmG(良い出来事における永続性)の項目Q3、Q5、Q9、Q24を調べたところ、 $-0.45899 \sim 0.17906$ の間で低い値を示していたため、関連性は少なからず示唆されたといえる。

考 察

調査1では、過去のさまざまな説明スタイルに関する尺度研究の欠点を補い、より日本の子どもたちに適したシンプルな質問紙を作ることを試みた。項目作成の段階から質問紙実施、および結果分析までのすべての作業を、他チームと合同の計5人で行ったため、〔1〕より洗練された項目ができる、〔2〕より多くのサンプルが得られる、〔3〕データの入力や分析段階でのミスが軽減される、などのメリットがあり、かなり良い結果が期待された。しかし、期待したほどの高い相関や因子構造は得られず、反省すべき点が多々あることを認識した。

第一に、被験者の幅を広げすぎたことが挙げられる。「学校と子ども」にこだわるあまり、対象者を小学5年生から高校3年生までと欲張り、著しい成長段階にあるティーンエイジャーを、一括りに「子ども」という枠で調査を行った。その結果、対象学齢層によって異なるデータ構造が見られたのにもかかわらず、同じ枠内で分析したため、全体としての妥当性を下げてしまった。

対象年齢毎のサンプル数のばらつきや、男女比などを考慮に入れなかったことも、原因であると思われる。特に楽観度の男女差を指摘する研究は多く（Gladstone,T,G. et al., 1997ほか）、今後は年齢別、あるいは男女別といった詳細な分析が求められる。

また、特に中学生および高校生においては、質問紙を施行した時期が、学期末試験の最中もしくは直後であったことも、結果に影響を及ぼしたのではないかと考えられる。テストは学齢期の子どもたちにとって大きな心理的ストレスであり、またその結果もストレスとなりうる。子どもの説明スタイルと算数の成績との関係を調べたYates,S.M et al. (1995) は、CASQと成績との間に高い相関関係を見出していると同時に、相対的にみた男子の抑うつ性の高さにも注目している。このように、心理的に特殊な状況下では、安定した説明スタイルを測定することが困難である可能性が高い。

以上のような課題はあるものの、十分な実用性を持つ日本版CASQを作成するという本調査の目的は達成されたと言える。上述した多くの利点を兼ね備えたCASQ-KGが作成されたことは、とりわけ、様々な領域における子どもの説明スタイル研究に応用できるという点で、おおいに意義があると考えられる。

Ⅲ. 調査2：CASQ-KGとGHQ28との関係性の検討

目 的

調査1において作成したCASQ-KGおよびその下位尺度である個人度・永続性・普遍性と、GHQ28（日本版GHQの28項目型短縮版）およびその下位尺度である身体的症状・不安と不眠・社会的活動障害・うつ傾向との間に関連性を見出し、子どもの説明スタイルと、精神的な健康状態との関係について検討する。

仮 説

CASQ-KGにおいて楽観度の高い者ほどストレス状態が低く、したがってGHQ28で測定される精神的健康度は高い。逆に、CASQ-KGで悲観的な説明スタイルを示した者ほど、高いストレス状態にあるので、GHQ28において低い精神的健康度を示す。

方 法

被験者 兵庫県、大阪府、福井県下の中学1～3年生までの311名（うち男子142名，女子169名）

材料 調査1で作成したCASQ-KQと、GHQ28を用いた。

手続 1998年11月～12月、上記の質問紙を実施した。

GHQ28の採点方法

4種類の選択肢のうち、精神的健康度の高い左側の2つが選択されていれば0点、精神的健康度の低い右側の2つが選択されていれば1点（左から0、0、1、1）とし、これらの合計を得点とした。したがって、最高可能点数は28点、最低点は0点となる。4つの選択肢は、右に行くほど健康度が低くなるため、合計点の高い者ほど精神的な健康度は低いといえる。この方法は、臨床的有効性のきわめて高いとされる、Goldberg採点法に拠った。GHQ28の下位概念とそれに対応する項目については、**表3**に示した。

表 3 : G H Q 2 8 の 項 目 一 覧 表

| 概念 | 項目 | 質問内容 |
|----|--------------|---------------------------------|
| SS | 1 | 気分や健康状態は |
| | 2 | 疲労回復剤(ドリンク、ビタミン剤など)を飲みたいと思ったことは |
| | 3 | 元気がなく疲れたと感じたことは |
| | 4 | 病気だと感じたことは |
| | 5 | 頭痛がしたことは |
| | 6 | 頭が重いように感じたことは |
| | 7 | 体がほてったり、寒気がしたことは |
| AI | 8 | 心配事があって、よく眠れないようなことは |
| | 9 | 夜中に目を覚ますことは |
| | 16 | いつもよりストレスを感じることは |
| | 18 | いらいらして、おこりっぽくなることは |
| | 19 | たいした理由がないのに、何かこわくなったり取り乱すことは |
| | 20 | いつもより、いろいろなことを重荷と感じたことは |
| SD | 23 | 不安を感じ、緊張したことは |
| | 10 | いつもより、忙しくて活動的な生活を送ることが |
| | 11 | いつもより、何かをするのによりけいに時間がかかることが |
| | 12 | いつもより、すべてがうまくいっていると感ずることが |
| | 13 | 毎日している勉強は |
| | 14 | いつもより、自分のしていることに生きがいを感じることは |
| | 15 | いつもより、かんたんにものごとを決めることが |
| DE | 17 | いつもより、ふだんの生活を楽しく送ることが |
| | 21 | 自分は役に立たない人間だと考えたことは |
| | 22 | 人生にまったく望みを失ったと感じたことは |
| | 24 | 生きていることに意味がないと感じたことは |
| | 25 | この世から消えてしまいたいことが |
| | 26 | ノイローゼ気味で何もすることができないと考えたことは |
| | 27 | 死んだ方がましだと考えたことは |
| 28 | 自殺しようと考えたことは | |

なお、CASQ-KGについては、調査1と同様の採点法を用いた。

結 果

(1) 項目尺度間相関および因子分析

まず、CASQ-KG、GHQ28のそれぞれについて、項目尺度間の相関を調べた結果を、表4、表5に示した。これを見ると、各々に有意な相関が認められたことがいえる。

表 4：CASQ-KGの項目尺度間相関表

| 概念 | 項目 | PsG | PsB | PmG | PmB | PvG | PvB |
|-----|-----|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| PsG | Q1 | 0.60261 | -0.11381 | 0.01796 | -0.17541 | -0.11798 | 0.10573 |
| PsG | Q2 | 0.54549 | -0.29265 | 0.06598 | -0.06891 | 0.05666 | -0.05187 |
| PmG | Q3 | 0.07715 | -0.01172 | 0.36429 | -0.1991 | -0.01855 | 0.00867 |
| PsG | Q4 | 0.4947 | -0.24643 | 0.04552 | 0.06657 | -0.15695 | -0.01084 |
| PmG | Q5 | 0.15742 | -0.12731 | 0.55312 | -0.10068 | -0.02639 | -0.08754 |
| PsG | Q6 | 0.57135 | 0.03421 | -0.00488 | -0.13857 | 0.09736 | -0.04032 |
| PsB | Q7 | 0.199 | 0.26635 | -0.05604 | 0.06789 | -0.1621 | -0.20886 |
| PvB | Q8 | 0.08639 | 0.0261 | 0.03979 | -0.12516 | 0.20352 | 0.33699 |
| PmG | Q9 | -0.18377 | 0.11471 | 0.55254 | 0.04972 | 0.09648 | -0.07389 |
| PsB | Q10 | -0.33481 | 0.66031 | -0.03964 | 0.28019 | 0.14351 | 0.21592 |
| PvG | Q11 | 0.07529 | -0.03933 | 0.22655 | -0.05933 | 0.49589 | 0.06285 |
| PvG | Q12 | -0.14862 | 0.08909 | -0.13053 | 0.11453 | 0.53778 | -0.02822 |
| PsB | Q13 | -0.19692 | 0.63664 | 0.02953 | 0.07259 | 0.01053 | 0.13108 |
| PsB | Q14 | -0.26329 | 0.51735 | -0.00449 | -0.02134 | 0.13108 | 0.09152 |
| PmB | Q15 | -0.09855 | 0.01234 | -0.2591 | 0.398 | 0.03232 | 0.00545 |
| PvG | Q16 | -0.14862 | 0.08909 | -0.13053 | 0.11453 | 0.53778 | -0.02822 |
| PvB | Q17 | 0.11774 | -0.19572 | 0.02699 | -0.04476 | 0.05041 | 0.54221 |
| PvG | Q18 | -0.20657 | 0.29265 | 0.04687 | -0.08144 | 0.61675 | 0.10573 |
| PmB | Q19 | 0.13933 | -0.02923 | 0.00734 | 0.4221 | -0.27677 | -0.03866 |
| PmB | Q20 | -0.24799 | 0.16967 | -0.06829 | 0.52129 | 0.17056 | 0.06521 |
| PvB | Q21 | -0.09246 | 0.09533 | -0.09349 | 0.11207 | -0.00332 | 0.48801 |
| PvB | Q22 | -0.13916 | 0.13235 | -0.05466 | 0.13947 | 0.03234 | 0.45294 |
| PmB | Q23 | -0.16183 | 0.20791 | -0.03896 | 0.54237 | 0.11514 | 0.07389 |
| PmG | Q24 | 0.06923 | -0.0662 | 0.57985 | -0.0662 | 0.07965 | 0.03538 |

表 5：GHQ28の項目尺度間相関表

| | 項目 | SS | AI | SD | DE |
|----|-----|---------|---------|---------|---------|
| SS | Q1 | 0.48692 | 0.3545 | 0.41566 | 0.33309 |
| | Q2 | 0.44341 | 0.21401 | 0.14152 | 0.18843 |
| | Q3 | 0.65507 | 0.35564 | 0.24647 | 0.29257 |
| | Q4 | 0.63288 | 0.24351 | 0.26382 | 0.39577 |
| | Q5 | 0.59568 | 0.20332 | 0.14552 | 0.24528 |
| | Q6 | 0.63948 | 0.26663 | 0.21323 | 0.30829 |
| | Q7 | 0.49441 | 0.30349 | 0.14071 | 0.20224 |
| AI | Q8 | 0.35347 | 0.64784 | 0.3179 | 0.31078 |
| | Q9 | 0.16299 | 0.50179 | 0.20495 | 0.20852 |
| | Q16 | 0.36762 | 0.67706 | 0.33261 | 0.37465 |
| | Q18 | 0.26712 | 0.61758 | 0.2585 | 0.24355 |
| | Q19 | 0.25273 | 0.54131 | 0.34847 | 0.30768 |
| | Q20 | 0.32302 | 0.56986 | 0.3067 | 0.30264 |
| | Q23 | 0.32883 | 0.57595 | 0.17722 | 0.32461 |
| SD | Q10 | 0.11598 | 0.0662 | 0.40621 | 0.06799 |
| | Q11 | 0.28053 | 0.36777 | 0.42564 | 0.2684 |
| | Q12 | 0.1584 | 0.2604 | 0.62083 | 0.3068 |
| | Q13 | 0.21951 | 0.34636 | 0.5727 | 0.19485 |
| | Q14 | 0.20771 | 0.22988 | 0.63878 | 0.24858 |
| | Q15 | 0.18931 | 0.14642 | 0.57177 | 0.20212 |
| | Q17 | 0.31003 | 0.35211 | 0.62668 | 0.29378 |
| DE | Q21 | 0.39498 | 0.37158 | 0.24437 | 0.63454 |
| | Q22 | 0.31252 | 0.34 | 0.33368 | 0.82602 |
| | Q24 | 0.36155 | 0.34654 | 0.35327 | 0.82602 |
| | Q25 | 0.31004 | 0.38173 | 0.31187 | 0.77405 |
| | Q26 | 0.28101 | 0.24065 | 0.14128 | 0.49457 |
| | Q27 | 0.39293 | 0.3914 | 0.30235 | 0.78546 |
| | Q28 | 0.35684 | 0.35887 | 0.32395 | 0.71509 |

次に、GHQ28について、項目の評定値に対する因子分析を行った。主因子法により有意な因子数を算出し、因子数を固定した後バリマックス回転を施した。その結果、表6に示したように、予想されたおおよその因子構造が得られた。

表6：GHQ28の因子構造表

| 概念 | 項目 | FACTOR1 | FACTOR3 | FACTOR5 | FACTOR6 |
|----|-----|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | DE | AI | SD | SS |
| DE | Q27 | 0.8087 | 0.08998 | 0.00215 | 0.16908 |
| DE | Q25 | 0.80392 | 0.20825 | 0.14982 | 0.06241 |
| DE | Q24 | 0.76065 | 0.03527 | 0.21726 | 0.01937 |
| DE | Q28 | 0.73164 | 0.11908 | 0.09519 | 0.1489 |
| DE | Q22 | 0.5328 | 0.21448 | 0.18626 | -0.05407 |
| SS | Q1 | 0.2046 | 0.03216 | 0.09966 | 0.12173 |
| SD | Q17 | 0.11398 | -0.04244 | 0.28421 | -0.01269 |
| SD | Q13 | 0.01961 | 0.10513 | 0.15151 | -0.01571 |
| AI | Q19 | 0.1655 | 0.41327 | -0.07858 | -0.26299 |
| SD | Q11 | 0.0838 | 0.70586 | 0.21151 | -0.02842 |
| SS | Q7 | 0.12313 | 0.63984 | -0.14674 | 0.24942 |
| AI | Q23 | 0.23098 | 0.62991 | -0.12125 | 0.12112 |
| AI | Q16 | 0.1794 | 0.41348 | 0.2266 | 0.07309 |
| DE | Q21 | 0.43426 | 0.16319 | -0.01247 | 0.03258 |
| SS | Q2 | 0.0269 | -0.08846 | -0.09184 | 0.17265 |
| AI | Q20 | 0.06966 | 0.40166 | 0.36677 | -0.01153 |
| SD | Q12 | 0.20829 | 0.07198 | 0.72304 | -0.05423 |
| SD | Q14 | 0.1553 | -0.03768 | 0.67162 | 0.16405 |
| SD | Q15 | 0.11884 | -0.078 | 0.52028 | 0.0586 |
| SS | Q5 | 0.15459 | 0.10836 | 0.04109 | 0.7707 |
| SS | Q3 | 0.11531 | 0.14886 | 0.14165 | 0.54817 |
| SS | Q6 | 0.10676 | 0.14685 | -0.03602 | 0.54094 |
| AI | Q9 | 0.12214 | 0.06071 | 0.04131 | 0.09134 |
| DE | Q26 | 0.32597 | 0.00358 | -0.02888 | 0.04444 |
| AI | Q8 | 0.03477 | 0.36399 | 0.17976 | 0.04949 |
| AI | Q18 | 0.16071 | 0.20945 | 0.08921 | 0.17185 |
| SS | Q4 | 0.19724 | 0.28953 | 0.13494 | 0.36931 |
| SD | Q10 | 0.02534 | 0.0682 | 0.08974 | 0.12344 |

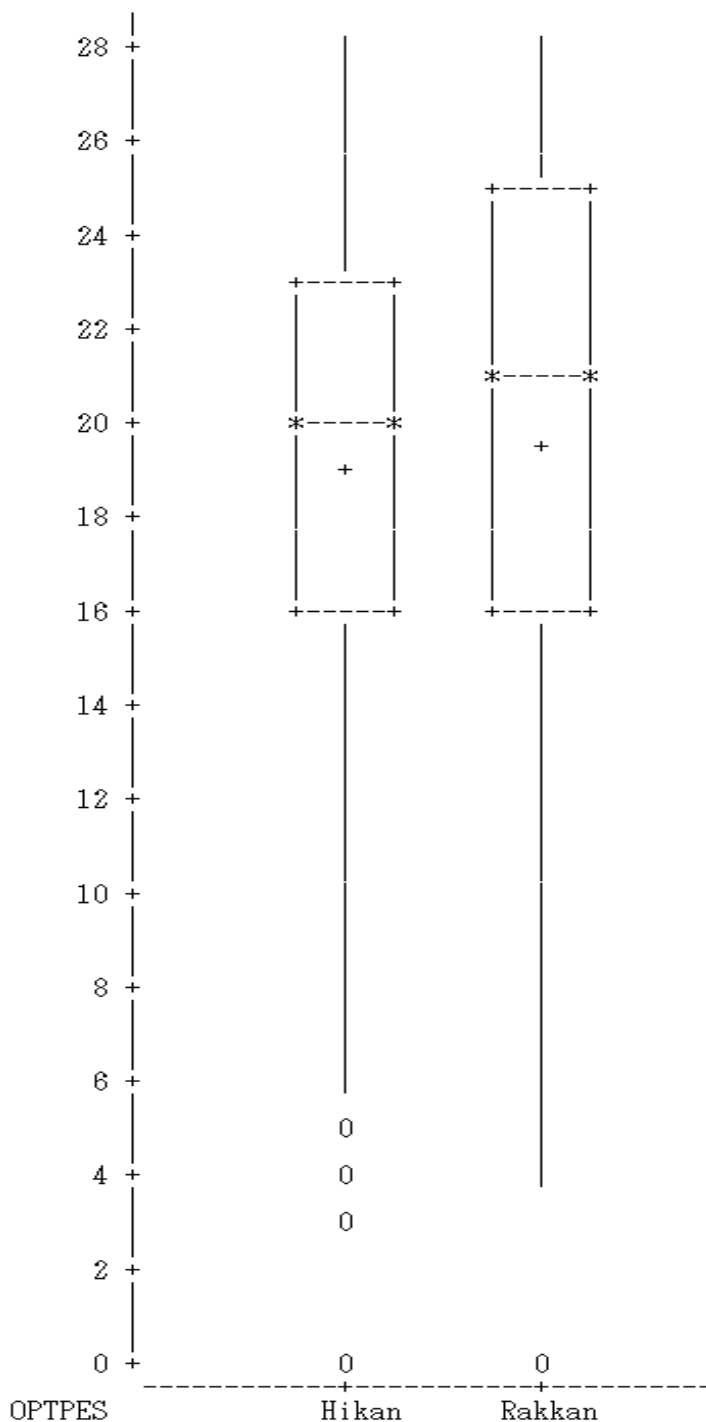
(2) 数値分布の検討

CASQ-KG (3因子) とGHQ28 (4因子) との関係性について、数値の分布を検証した。ASQ・IN・PM・PRの中央値をそれぞれunivariateプロットで算出し、中央値を境に楽観群と悲観群に分けた。ASQの両群各々について、GHQ・SS・AI・SD・DEの数値分布をあらわす箱ひげ図を作成した。また、IN・PM・PRについては、GHQ分布の箱ひげ図のみ作成した。なお、ここではGHQ得点が高い (=健康度が低い) ほど、低い測定値で示されるようにした。従っ

て、いずれの箱ひげ図においても、楽観群が悲観群より、中央値・平均値ともに高くなることが予想された。以下に、各図の説明を行う。

図1：ASQ-GHQ

Variable=GHQ



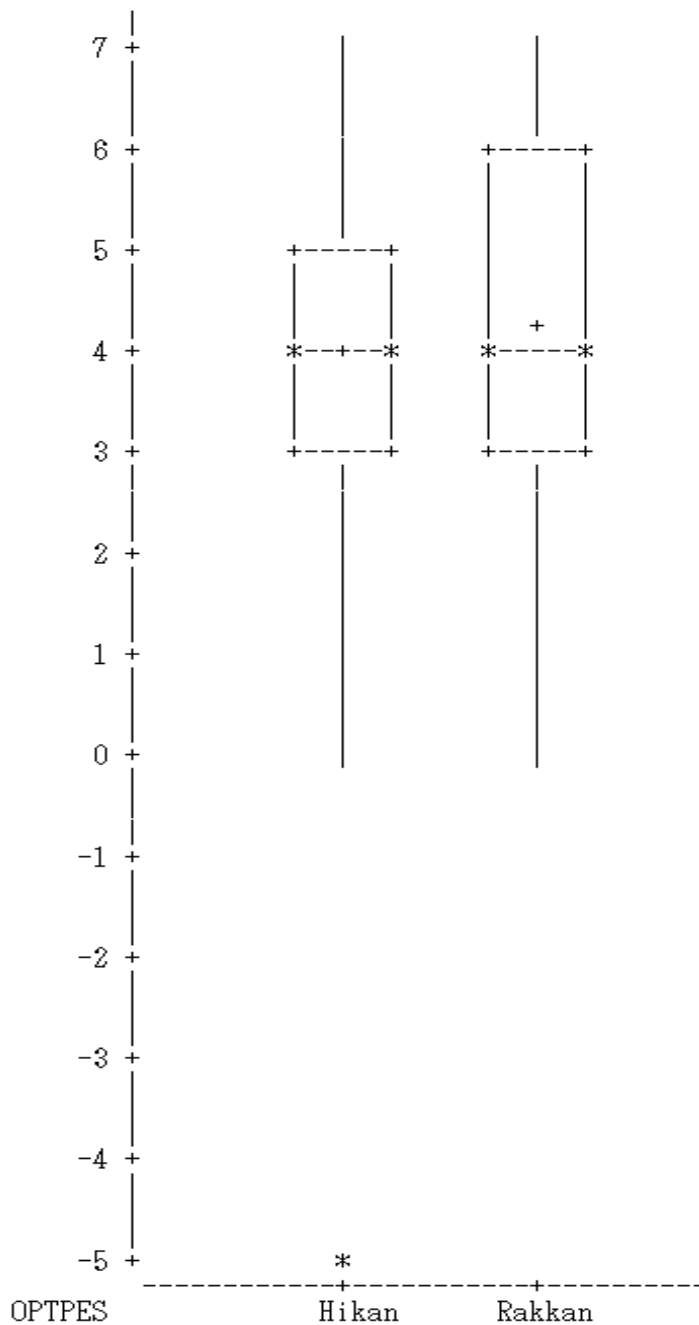
• 図1：ASQ—GHQ

CASQ-KG全体の得点（＝楽観度）とGHQ28全体の得点（＝精神的健康度）との関係を調べた。楽観群のGHQ得点は、中央値21、平均値19.69364であった。悲観群では中央値20、平均値18.79699であった。中央値・平均値ともに楽観群が悲観群より高く、楽観度と精神

的健康度との間に有意な相関関係が認められた。

図 2 : ASQ-SS

Variable=SS



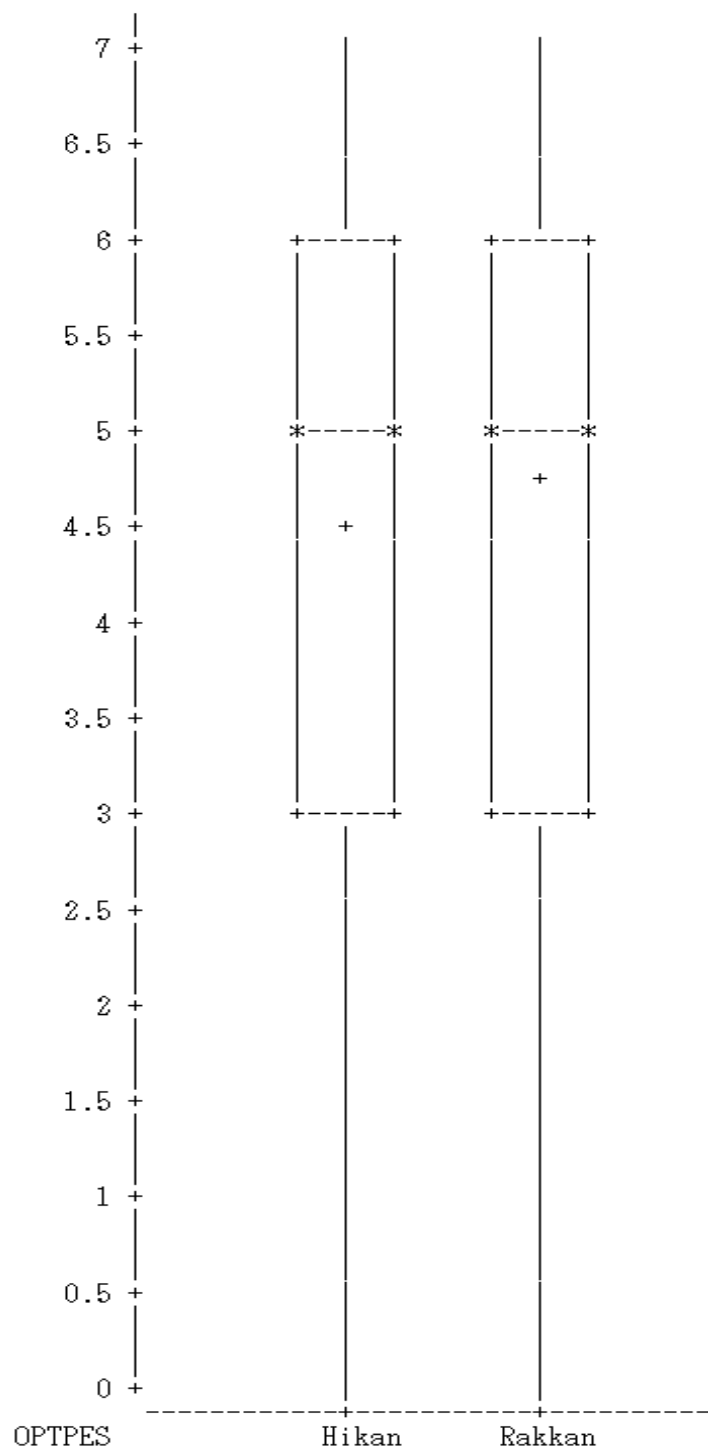
• 図 2 : ASQ—SS

CASQ-KG全体の得点（=楽観度）とGHQ28中のSS得点（=身体的障害）との関係を調べた。楽観群のSS得点は、中央値4、平均値4.215909であった。悲観群では中央値4、平均値

3.948148であった。中央値は同じであったものの、平均値に有意な差が見られ、楽観度と身体的障害との相関が認められた。

図3：ASQ-AI

Variable=AI



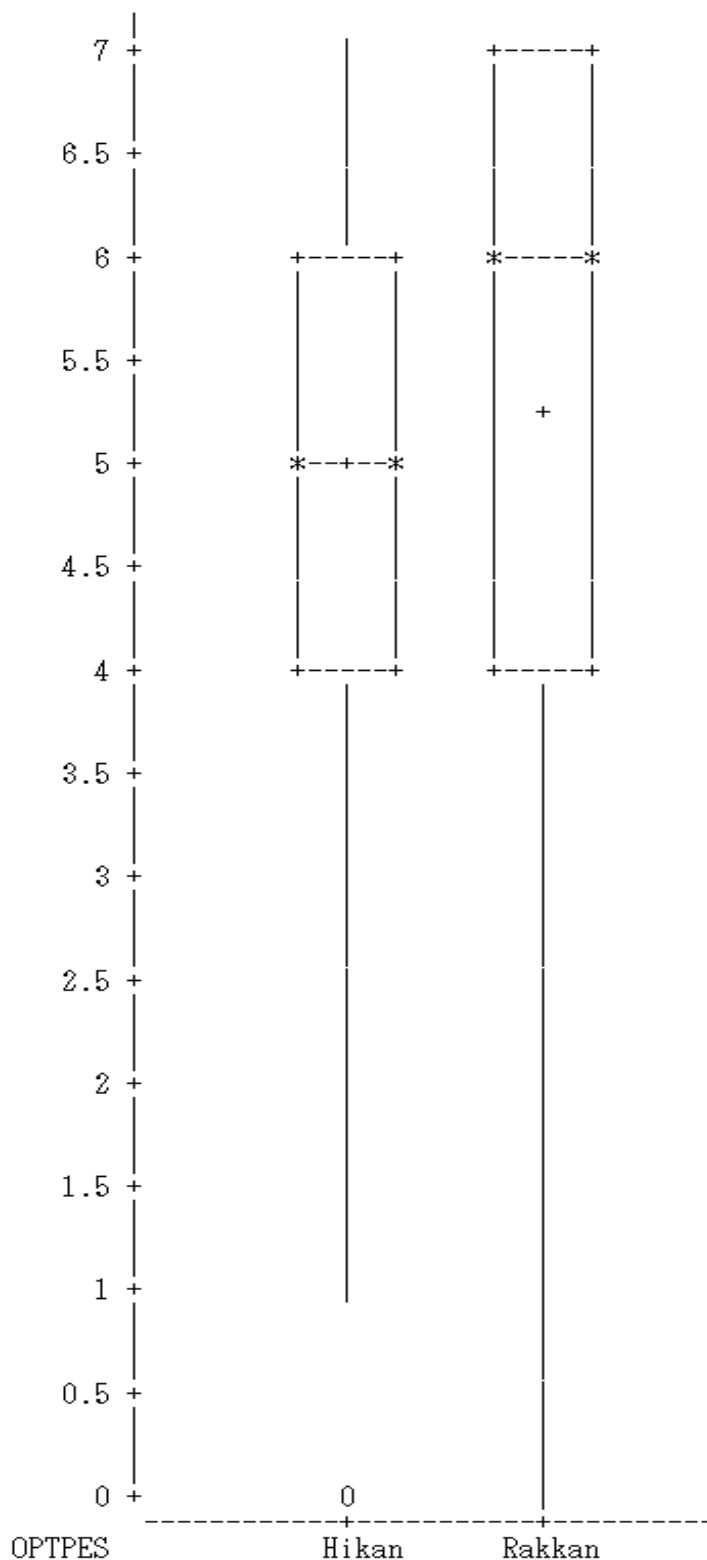
• 図3：ASQ—AI

CASQ-KG全体の得点（＝楽観度）とGHQ28中のAI得点（＝不安と不眠）との関係を調べた。楽観群のAI得点は、中央値5、平均値4.718391であった。悲観群では中央値5、平均値4.451128であった。中央値は同じであったものの、平均値に有意な差が見られ、楽観度

と、不安と不眠との間に、相関が認められた。

図4：ASQ-SD

Variable=SD



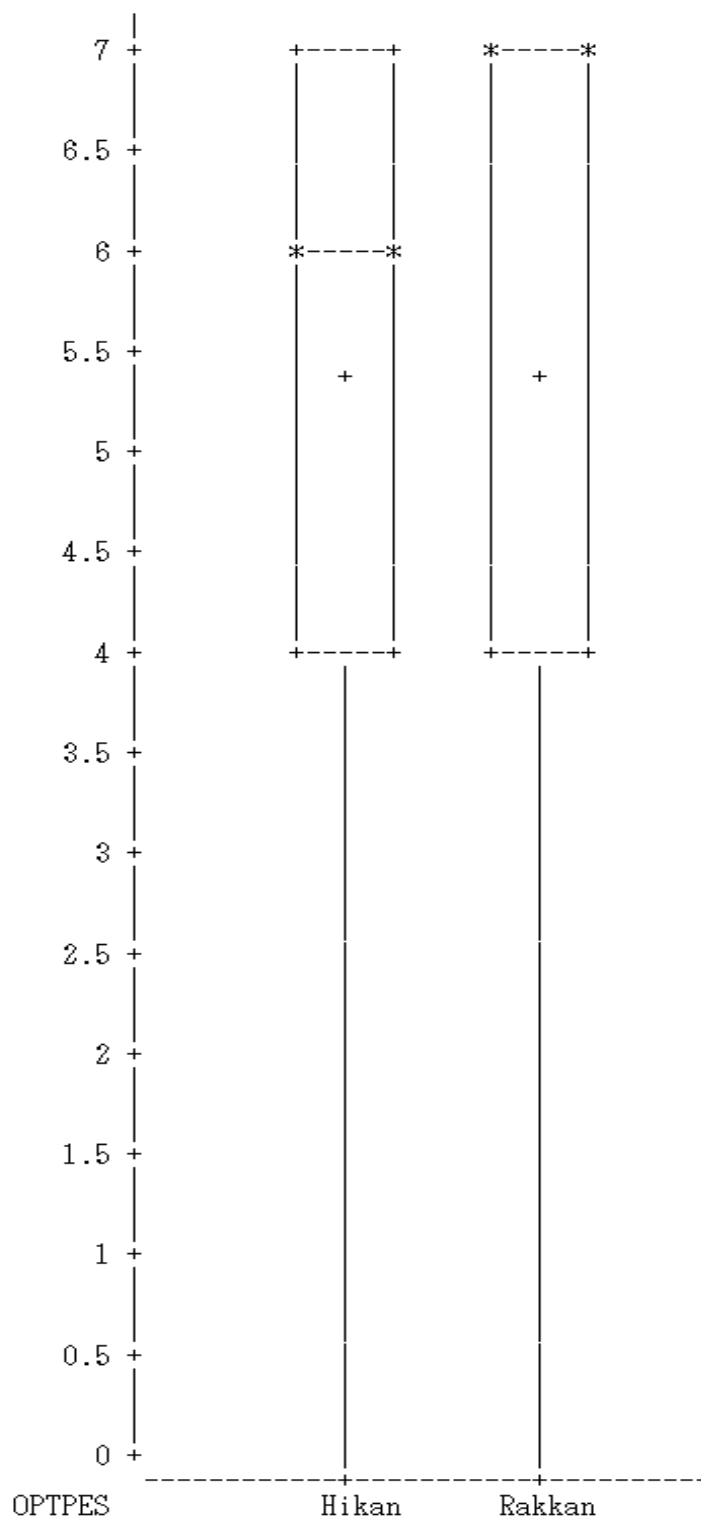
• 図4：ASQ—SD

CASQ-KG全体の得点（＝楽観度）とGHQ28中のSD得点（＝社会的活動障害）との関係を調べた。楽観群のSD得点は、中央値6、平均値5.297143であった。悲観群では中央値5、平均値5.007407であった。中央値・平均値ともに楽観群が悲観群より高く、楽観度と社会的

活動障害が高い相関関係にあることが示された。

図5：ASQ-DE

Variable=DE



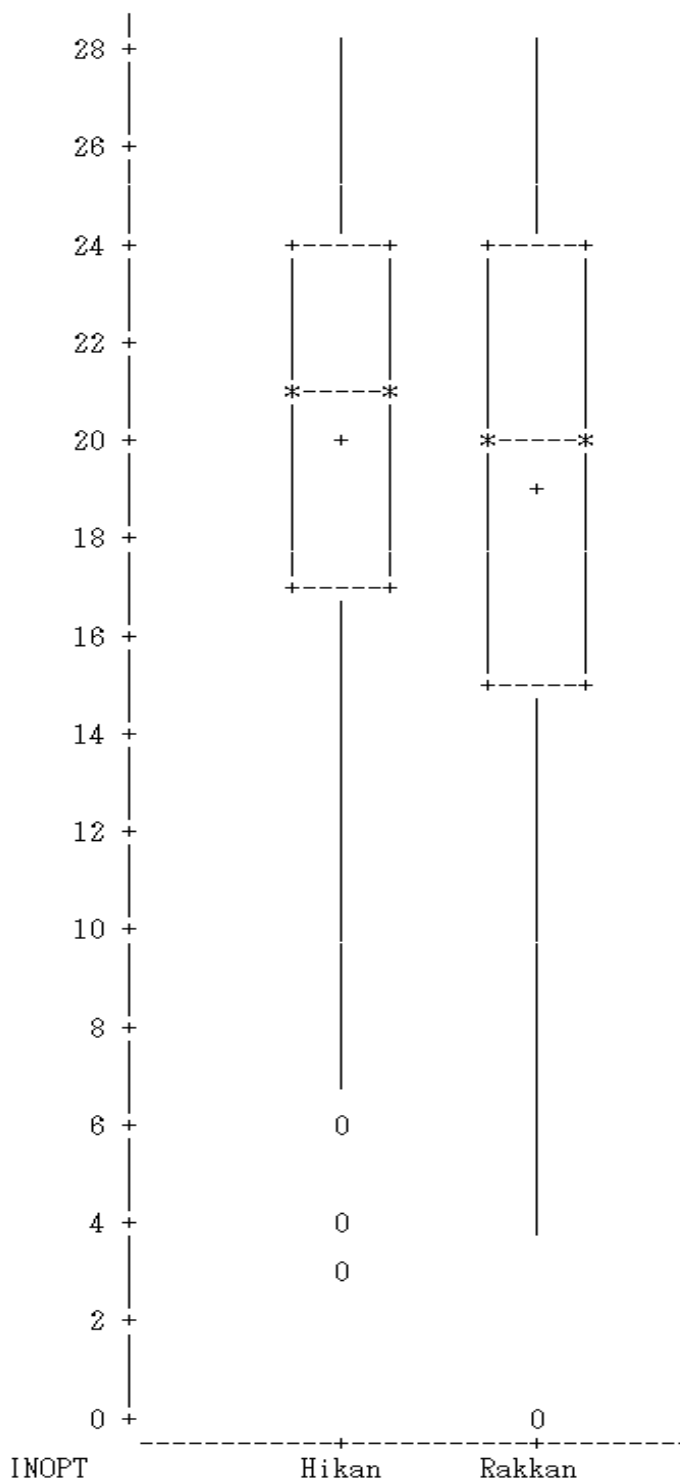
• 図5：ASQ—DE

CASQ-KG全体の得点（＝楽観度）とGHQ28中のDE得点（＝うつ傾向）との関係を調べた。楽観群のDE得点は、中央値7、平均値5.409091であった。悲観群では中央値6、平均値

5.325926であった。中央値・平均値ともに楽観群が悲観群より高く、楽観度とうつ傾向との間に高い相関が認められた。

図 6 : IN-GHQ

Variable=GHQ



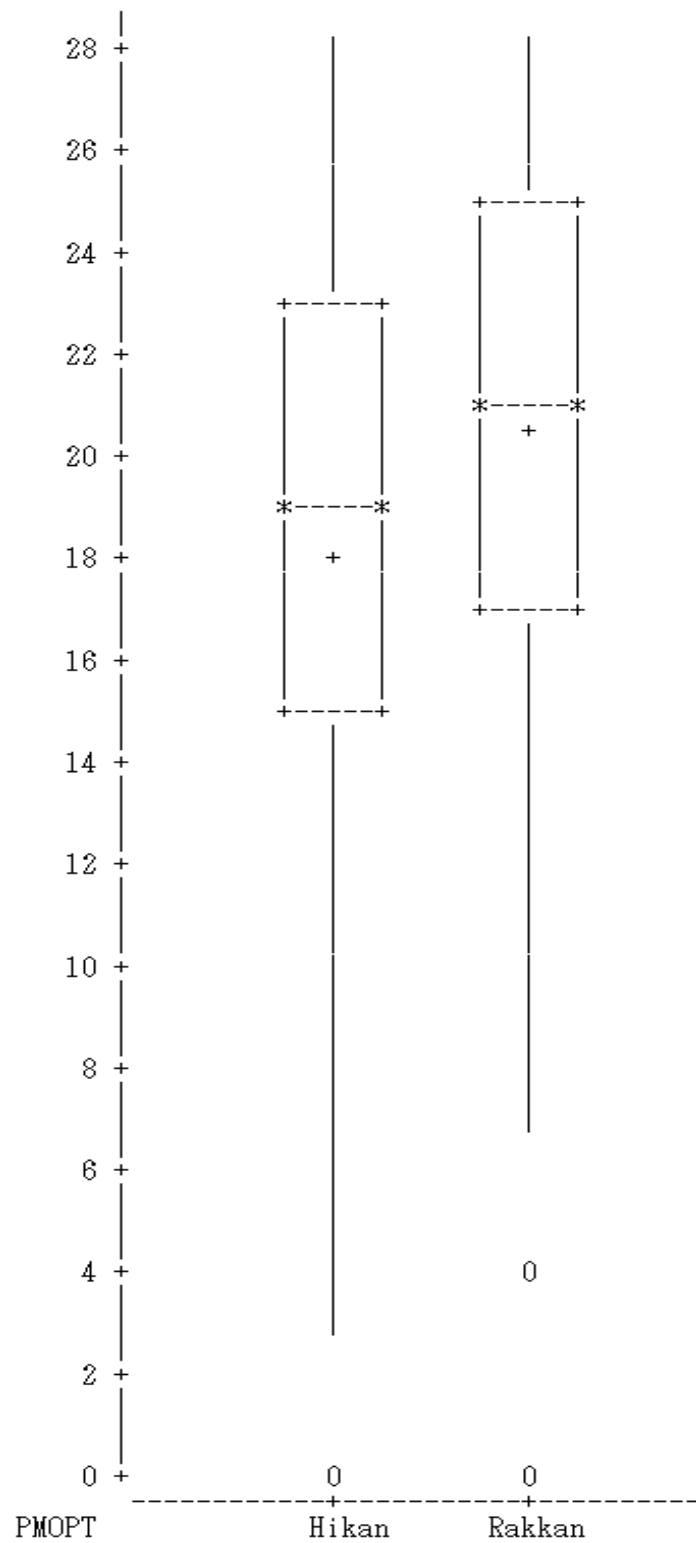
• 図6 : IN-GHQ

CASQ-KG中のIN得点（=個人度）とGHQ28全体の得点（=精神的健康度）との関係を調べた。楽観群のGHQ得点は、中央値20、平均値18.8141であった。悲観群では中央値21、

平均値19.81333であった。中央値・平均値ともに悲観群が楽観群を上回り、仮説に反する結果となった。

図7：PM-GHQ

Variable=GHQ



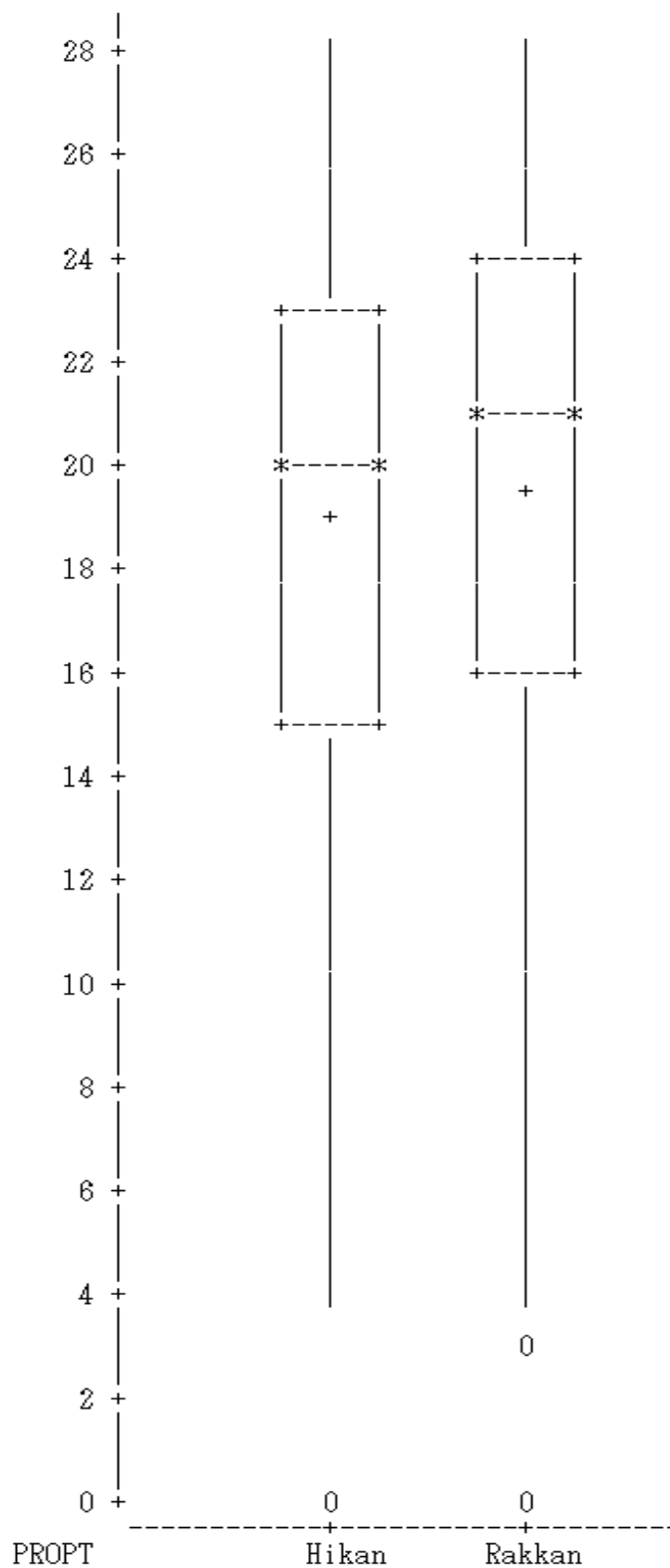
• 図7：PM—GHQ

CASQ-KG中のPM得点（=永続性）とGHQ28全体の得点（=精神的健康度）との関係を調べた。楽観群のGHQ得点は、中央値21、平均値20.4129であった。悲観群では中央値19、平均値18.16556であった。中央値・平均値ともに楽観群が悲観群より高く、永続性と精神

的健康度とが相関関係にあることが認められた。

図 8 : PR-GHQ

Variable=GHQ



• 図 8 : PR—GHQ

CASQ-KG中のPR得点（=普遍性）とGHQ28全体の得点（=精神的健康度）との関係を調べた。楽観群のGHQ得点は、中央値21、平均値19.56452であった。悲観群では中央値20、

平均値18.9であった。中央値・平均値ともに楽観群が悲観群より高く、普遍性と精神的健康度との相関関係が認められた。

以上のように、ASQ-GHQ（図1）、ASQ-SD（図4）、ASQ-DE（図5）、PM-GHQ（図7）、PR-GHQ（図8）においては、概ね予想通りの高い相関が得られた。有意とはいえ高い相関が得られなかった（中央値に差が見られなかった）ものとしては、ASQ-SS（図2）とASQ-AI（図3）が挙げられる。ところがIN-GHQ（図6）だけは「個人度に関わる説明スタイルが楽観的な人ほど、精神的健康度が高い」という予測とは裏腹に、IN悲観群の方が、GHQの数値分布において高い精神的健康度を示す結果となった。

考 察

調査2では、子どものストレス状態を説明スタイルとの関連において説明するために、CASQとGHQとを試験的にかけ合わせた。その結果、理論上導き出されるおおよその相関関係が認められたが、個人度に関わる説明スタイルと精神的健康との関係についてのみ、異なる解釈を迫られた。

個人度の次元を、その他の次元とは異なったものとして位置付けている研究は少なくない。沢宮・田上（1997）も、作成した楽観的帰属様式尺度とY-G性格検査との相関関係において、内在性（＝個人度）次元が他の永続性や全体性（＝普遍性）の次元とは異なるという結果を見出しており、本調査との関連性が考えられる。さらに、個人度は抑うつなどの絶望感に直接つながるものではなく、自尊心と非常に密着な関係にあるという報告もある（Abramson et al.,1989）。セリグマン（1991）自身も、悪い出来事に関する個人度に限って、特に「自尊心」という言葉を用いて説明している。すなわち、悪いことが起きた時に自己を責める（内向的）傾向にある人は自尊心が低く、逆に他の人や状況を責める（外向的）のは自尊心が高い人だということである。

これらのことから、本調査において、個人度に関わる説明スタイルが楽観的であるほど精神的健康度が低かったのは、自尊心の高い人ほどストレス状態を感じやすいことが表れた結果だと考えられる。すなわち、個人度において楽観性の高い人＝自己を高く評価している人ほど、その評価を損なうものとして少しのストレスでも敏感に察知しており、その結果、GHQテストでは高いストレス状態が測定されるのである。

また、序論において述べたように、物事の原因を内的なものに求め、自己統制ができる人ほどストレスに強いことから、内向的な説明スタイルがストレスを退ける働きをもつことも、この分析結果の一因として考えられる。悪い出来事において内向的な人は、原因帰属の視点に立てばペシミストであるが、自己統制という観点から見れば、ストレスへの対処能力に優れている可能性があるといえる。

しかし、以上はあくまでも仮説であり、個人度と自尊心、自己統制、そしてストレスとの関連については、今後さらに検討を重ねていく必要がある。

個人度以外の変数、すなわちCASQ-KG全体、永続性、および普遍性と、GHQ28の全体および4つの下位概念との間については、概して「オプティミストほどストレス状態は低い」という予測通りの結果が得られた。本研究によって子どもの説明スタイルの楽観性と精神的健康度との関係性が認められたことから、日本の子どもたちが楽観的な説明スタイルを身につけることは、子どもたちのストレスを解決する有効な手段となりうることが示された。今後さらなる説明スタイル研究がなされ、子どもを巡る諸問題を解決する一助として広く用いられることを期待する。

----- INOPT=Hikan

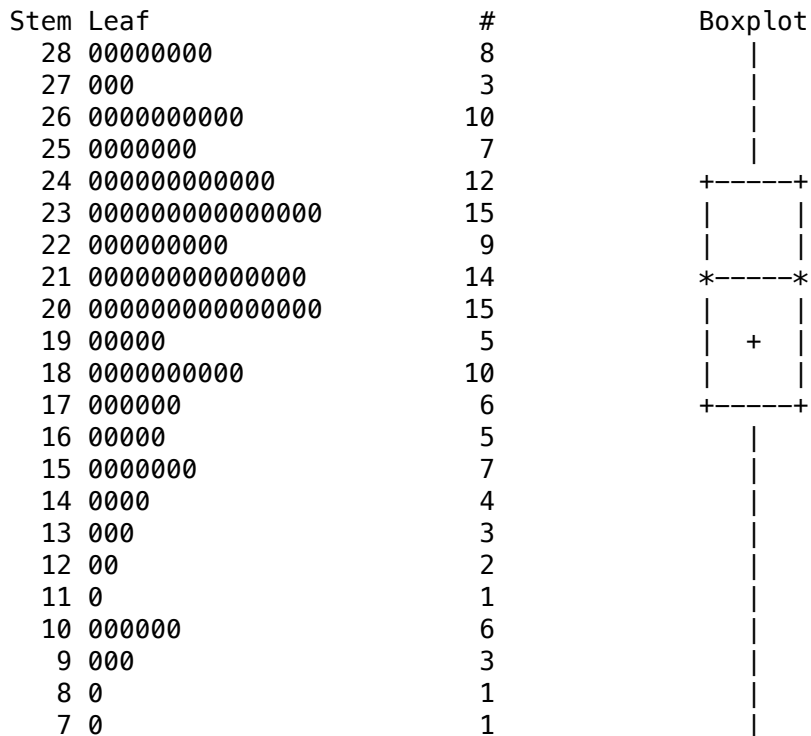
Univariate Procedure

Variable=GHQ

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|----|-----|
| N | 150 | Sum Wgts | 150 | 100% Max | 28 | 99% |
| 28 | | | | | | |
| Mean | 19.81333 | Sum | 2972 | 75% Q3 | 24 | 95% |
| 28 | | | | | | |
| Std Dev | 5.456831 | Variance | 29.777 | 50% Med | 21 | 90% |
| 26 | | | | | | |
| Skewness | -0.78929 | Kurtosis | 0.255318 | 25% Q1 | 17 | 10% |
| 11.5 | | | | | | |
| USS | 63322 | CSS | 4436.773 | 0% Min | 3 | 5% |
| 9 | | | | | | |
| CV | 27.54121 | Std Mean | 0.445548 | | | 1% |
| 4 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 44.46955 | Pr> T | 0.0001 | Range | 25 | |
| Num ^= 0 | 150 | Num > 0 | 150 | Q3-Q1 | 7 | |
| M(Sign) | 75 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 20 | |
| Sgn Rank | 5662.5 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 3(| 66) | 28(| 106) |
| 4(| 20) | 28(| 109) |
| 6(| 113) | 28(| 118) |
| 7(| 143) | 28(| 131) |
| 8(| 38) | 28(| 139) |



```

6 0          1          0
5
4 0          1          0
3 0          1          0
-----+-----+-----+-----+

```

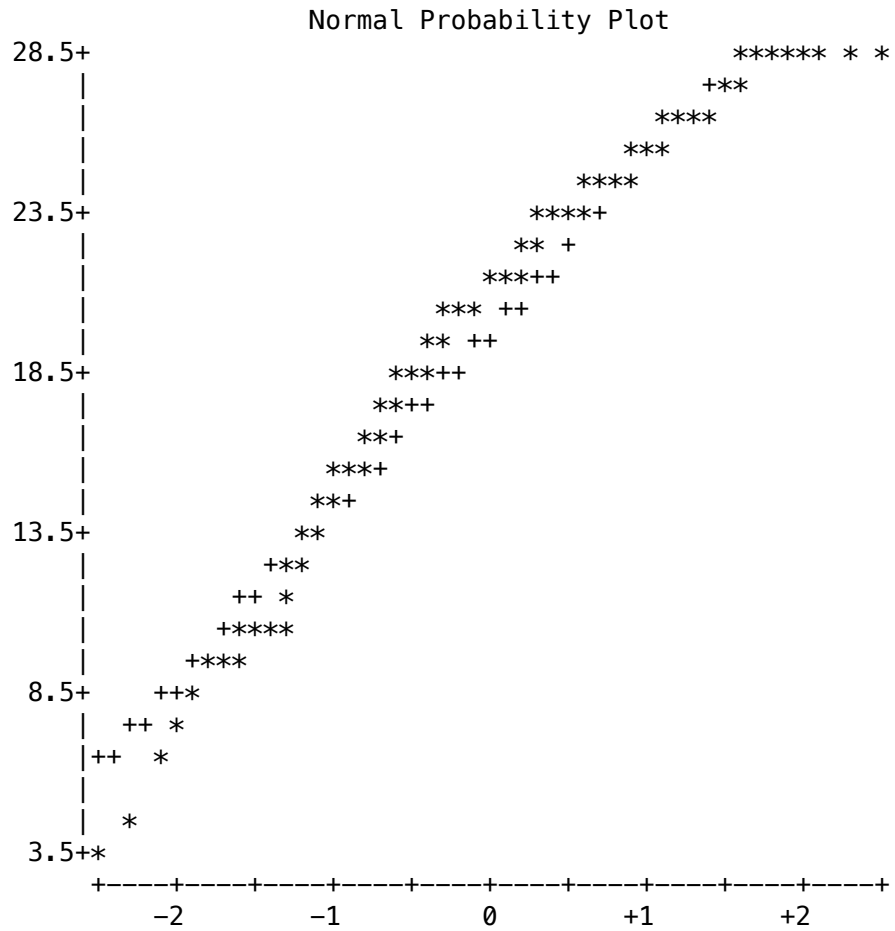
1998 18

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- INOPT=Hikan

Univariate Procedure

Variable=GHQ



1998 19

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- INOPT=Hikan

Univariate Procedure

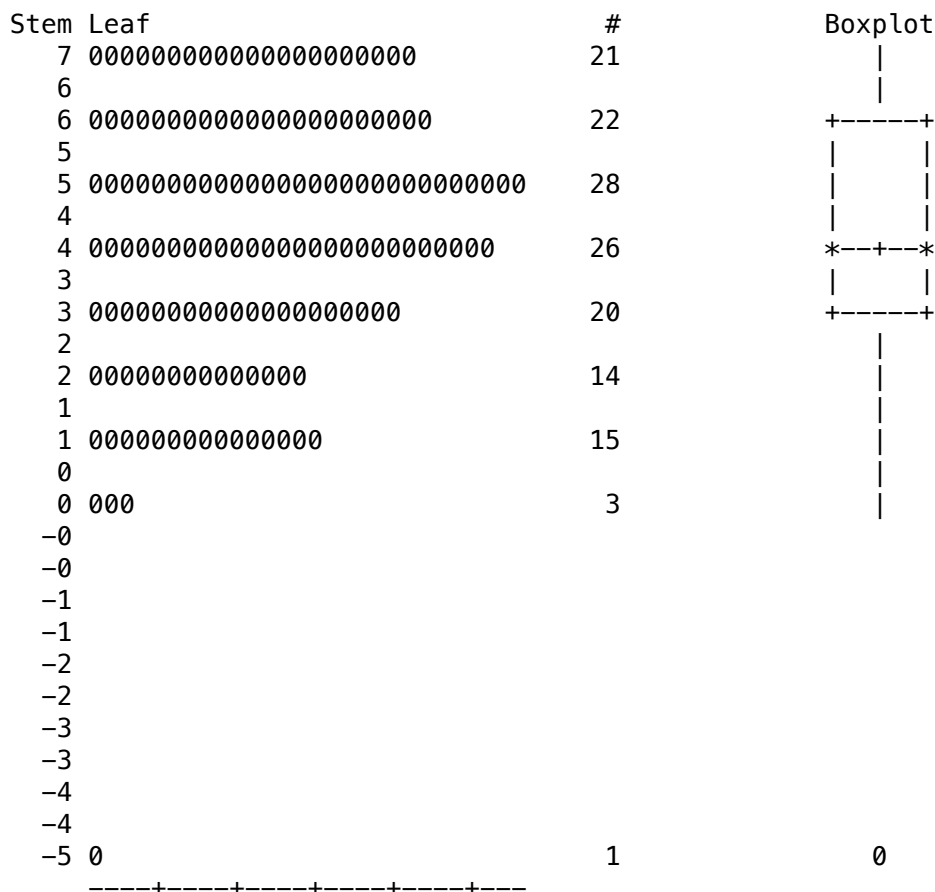
Variable=SS

| | Moments | | Quantiles(Def=5) | | | |
|------|---------|----------|------------------|----------|---|-----|
| N | 150 | Sum Wgts | 150 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 4.14 | Sum | 621 | 75% Q3 | 6 | 95% |
| 7 | | | | | | |

| | | | | | | |
|----------|----------|----------|----------|---------|----|-----|
| Std Dev | 2.075844 | Variance | 4.309128 | 50% Med | 4 | 90% |
| 7 | | | | | | |
| Skewness | -0.72779 | Kurtosis | 1.201792 | 25% Q1 | 3 | 10% |
| 1 | | | | | | |
| USS | 3213 | CSS | 642.06 | 0% Min | -5 | 5% |
| 1 | | | | | | |
| CV | 50.14115 | Std Mean | 0.169492 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 24.42594 | Pr> T | 0.0001 | Range | 12 | |
| Num ^= 0 | 147 | Num > 0 | 146 | Q3-Q1 | 3 | |
| M(Sign) | 72.5 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 5 | |
| Sgn Rank | 5349 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| -5(| 86) | 7(| 117) |
| 0(| 143) | 7(| 118) |
| 0(| 95) | 7(| 131) |
| 0(| 9) | 7(| 137) |
| 1(| 150) | 7(| 139) |



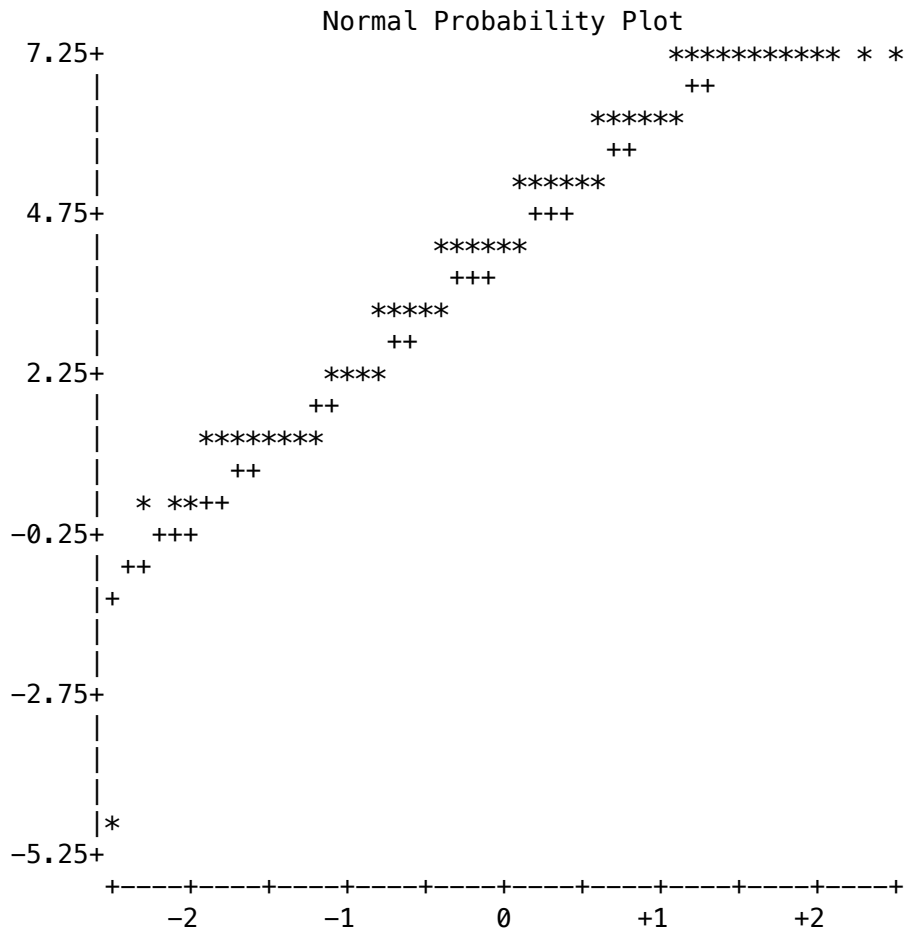
1998 20

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- INOPT=Hikan

Univariate Procedure

Variable=SS



SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

1998 21

----- INOPT=Hikan

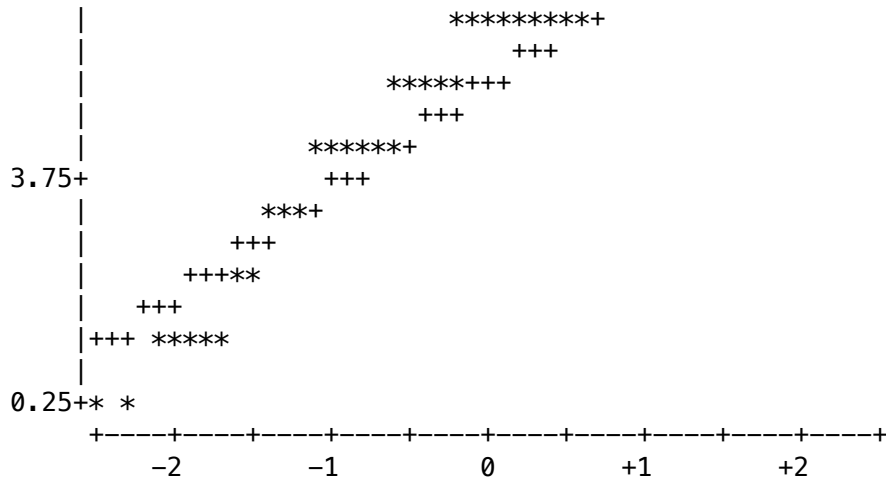
Univariate Procedure

Variable=AI

| | | Moments | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|---|-----|
| N | 150 | Sum Wgts | 150 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 4.753333 | Sum | 713 | 75% Q3 | 6 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 1.853481 | Variance | 3.435391 | 50% Med | 5 | 90% |
| 7 | | | | | | |
| Skewness | -0.66442 | Kurtosis | -0.27883 | 25% Q1 | 4 | 10% |
| 2 | | | | | | |
| USS | 3901 | CSS | 511.8733 | 0% Min | 0 | 5% |
| 1 | | | | | | |
| CV | 38.99329 | Std Mean | 0.151336 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 31.40912 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| Num ^= 0 | 147 | Num > 0 | 147 | Q3-Q1 | 2 | |
| M(Sign) | 73.5 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 5 | |
| Sgn Rank | 5439 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| | | | |
|--------|-----|---------|-----|
| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|-----|---------|-----|



SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

1998 25

----- INOPT=Hikan

Univariate Procedure

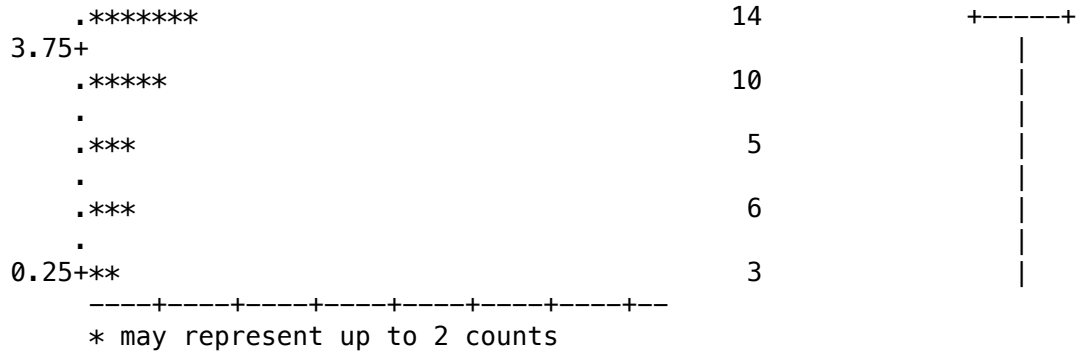
Variable=DE

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|---|-----|
| N | 150 | Sum Wgts | 150 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 5.606667 | Sum | 841 | 75% Q3 | 7 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 1.906881 | Variance | 3.636197 | 50% Med | 6 | 90% |
| 7 | | | | | | |
| Skewness | -1.35826 | Kurtosis | 0.821786 | 25% Q1 | 4 | 10% |
| 3 | | | | | | |
| USS | 5257 | CSS | 541.7933 | 0% Min | 0 | 5% |
| 1 | | | | | | |
| CV | 34.01097 | Std Mean | 0.155696 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 36.01029 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| Num ^= 0 | 147 | Num > 0 | 147 | Q3-Q1 | 3 | |
| M(Sign) | 73.5 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 7 | |
| Sgn Rank | 5439 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 113) | 7(| 139) |
| 0(| 66) | 7(| 140) |
| 0(| 26) | 7(| 142) |
| 1(| 98) | 7(| 144) |
| 1(| 38) | 7(| 145) |

| Histogram | # | Boxplot |
|------------|----|---------|
| 7.25+***** | 74 | +-----+ |
| . | | |
| .***** | 31 | *-----* |
| . | | |
| .**** | 7 | + |
| . | | |



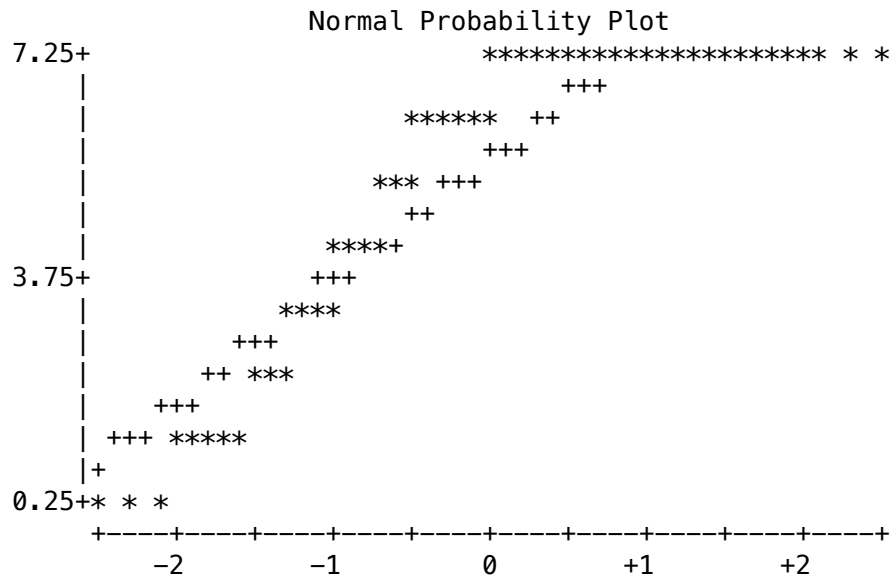
SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

1998 26

----- INOPT=Hikan

Univariate Procedure

Variable=DE



SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

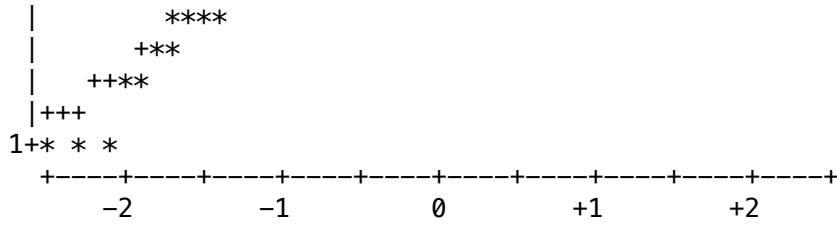
1998 27

----- INOPT=Rakkan

Univariate Procedure

Variable=GHQ

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | | |
|---------|----------|----------|----------|------------------|---------|-----|-----|
| N | 156 | Sum Wgts | 156 | 100% Max | 28 | 99% | |
| 28 | Mean | 18.8141 | Sum | 2935 | 75% Q3 | 24 | 95% |
| 27 | Std Dev | 6.481542 | Variance | 42.01038 | 50% Med | 20 | 90% |
| 27 | Skewness | -0.66639 | Kurtosis | -0.03779 | 25% Q1 | 15 | 10% |
| 10 | USS | 61731 | CSS | 6511.609 | 0% Min | 0 | 5% |



1998 29

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- INOPT=Rakkan

Univariate Procedure

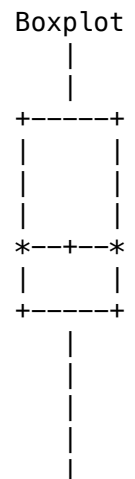
Variable=SS

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|---|-----|
| N | 161 | Sum Wgts | 161 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 4.062112 | Sum | 654 | 75% Q3 | 6 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 2.06969 | Variance | 4.283618 | 50% Med | 4 | 90% |
| 7 | | | | | | |
| Skewness | -0.38386 | Kurtosis | -0.75294 | 25% Q1 | 3 | 10% |
| 1 | | | | | | |
| USS | 3342 | CSS | 685.3789 | 0% Min | 0 | 5% |
| 0 | | | | | | |
| CV | 50.95109 | Std Mean | 0.163114 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 24.90345 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| Num ^= 0 | 149 | Num > 0 | 149 | Q3-Q1 | 3 | |
| M(Sign) | 74.5 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 4 | |
| Sgn Rank | 5587.5 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 160) | 7(| 125) |
| 0(| 157) | 7(| 126) |
| 0(| 153) | 7(| 133) |
| 0(| 142) | 7(| 144) |
| 0(| 140) | 7(| 149) |

| Stem | Leaf | # |
|------|--------------------------------------|----|
| 7 | 0000000000000000000000 | 22 |
| 6 | | |
| 6 | 0000000000000000000000 | 22 |
| 5 | | |
| 5 | 000000000000000000000000000000 | 29 |
| 4 | | |
| 4 | 000000000000000000000000000000000000 | 33 |
| 3 | | |
| 3 | 000000000000000000 | 16 |
| 2 | | |
| 2 | 000000000000000000 | 16 |
| 1 | | |
| 1 | 000000000000 | 11 |
| 0 | | |



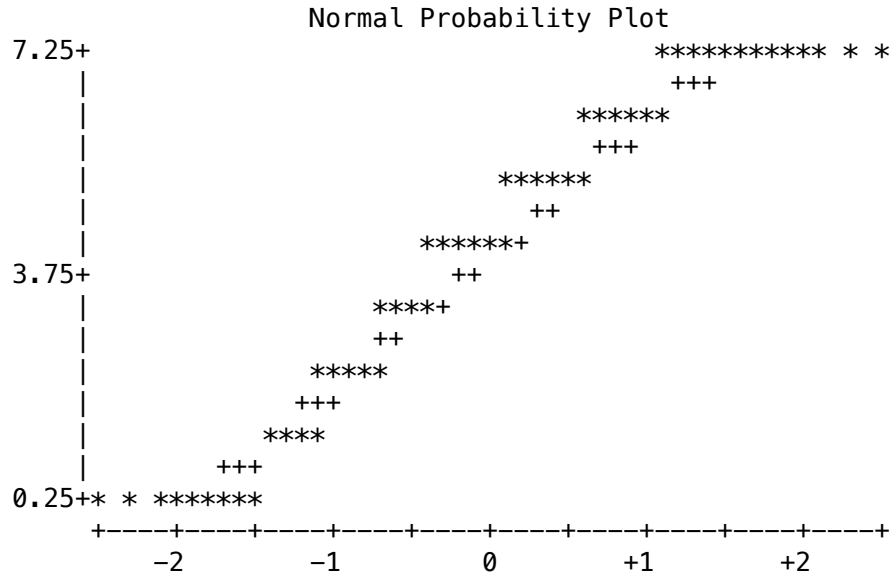
1998 30

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- INOPT=Rakkan

Univariate Procedure

Variable=SS



1998 31

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- INOPT=Rakkan

Univariate Procedure

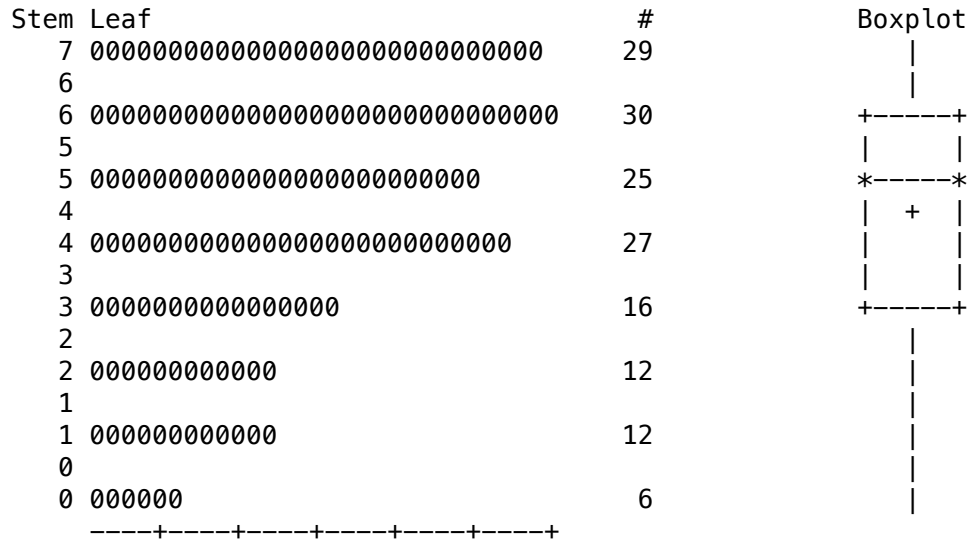
Variable=AI

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|---|-----|
| N | 157 | Sum Wgts | 157 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 4.458599 | Sum | 700 | 75% Q3 | 6 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 2.02703 | Variance | 4.108852 | 50% Med | 5 | 90% |
| 7 | | | | | | |
| Skewness | -0.52154 | Kurtosis | -0.69839 | 25% Q1 | 3 | 10% |
| 1 | | | | | | |
| USS | 3762 | CSS | 640.9809 | 0% Min | 0 | 5% |
| 1 | | | | | | |
| CV | 45.46339 | Std Mean | 0.161775 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 27.56056 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| Num ^= 0 | 151 | Num > 0 | 151 | Q3-Q1 | 3 | |
| M(Sign) | 75.5 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 6 | |
| Sgn Rank | 5738 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 157) | 7(| 131) |
| 0(| 115) | 7(| 133) |
| 0(| 81) | 7(| 144) |
| 0(| 22) | 7(| 153) |
| 0(| 19) | 7(| 154) |

Missing Value .
 Count 4
 % Count/Nobs 2.48



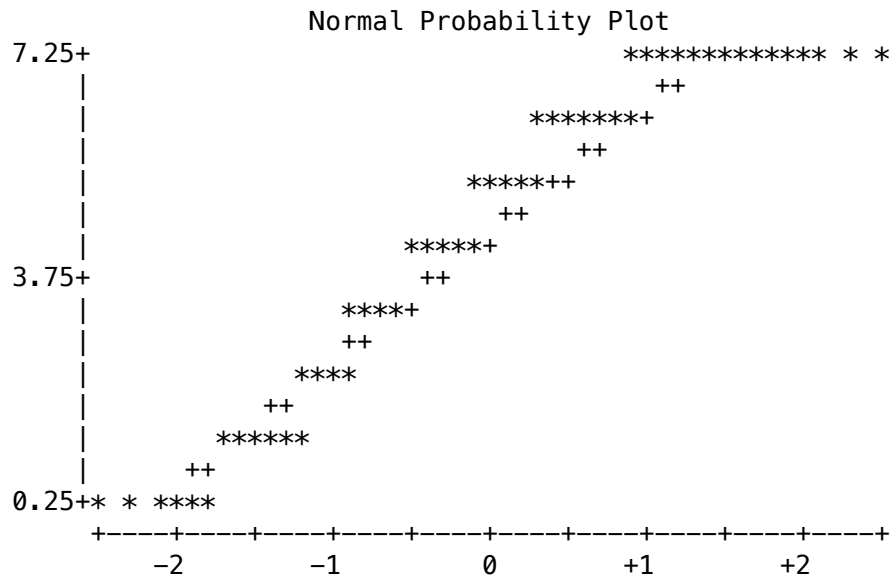
1998 32

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- INOPT=Rakkan

Univariate Procedure

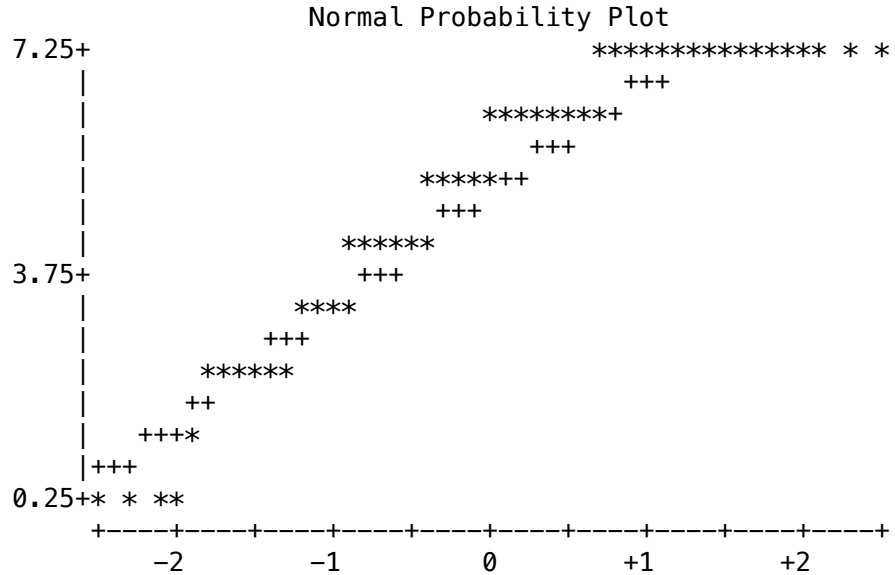
Variable=AI



----- INOPT=Rakkan

Univariate Procedure

Variable=SD



----- INOPT=Rakkan

Univariate Procedure

Variable=DE

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|---|-----|
| N | 161 | Sum Wgts | 161 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 5.15528 | Sum | 830 | 75% Q3 | 7 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 2.215172 | Variance | 4.906988 | 50% Med | 6 | 90% |
| 7 | | | | | | |
| Skewness | -0.98473 | Kurtosis | -0.24099 | 25% Q1 | 4 | 10% |
| 2 | | | | | | |
| USS | 5064 | CSS | 785.118 | 0% Min | 0 | 5% |
| 0 | | | | | | |
| CV | 42.969 | Std Mean | 0.17458 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 29.52961 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| Num ^= 0 | 152 | Num > 0 | 152 | Q3-Q1 | 3 | |
| M(Sign) | 76 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 7 | |
| Sgn Rank | 5814 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

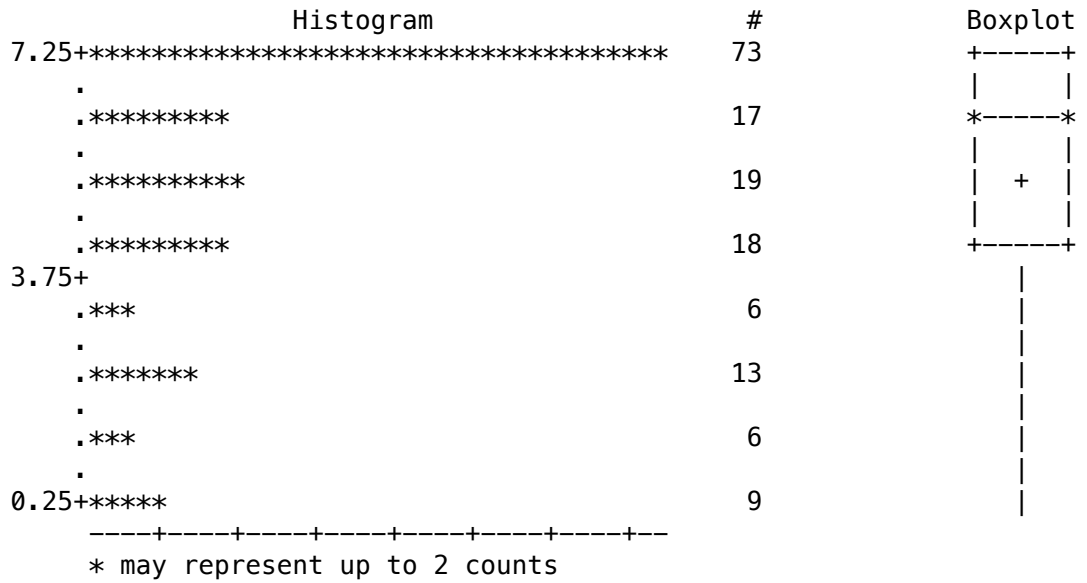
Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 157) | 7(| 154) |

```

0(    155)    7(    156)
0(    146)    7(    158)
0(    142)    7(    159)
0(    118)    7(    161)

```



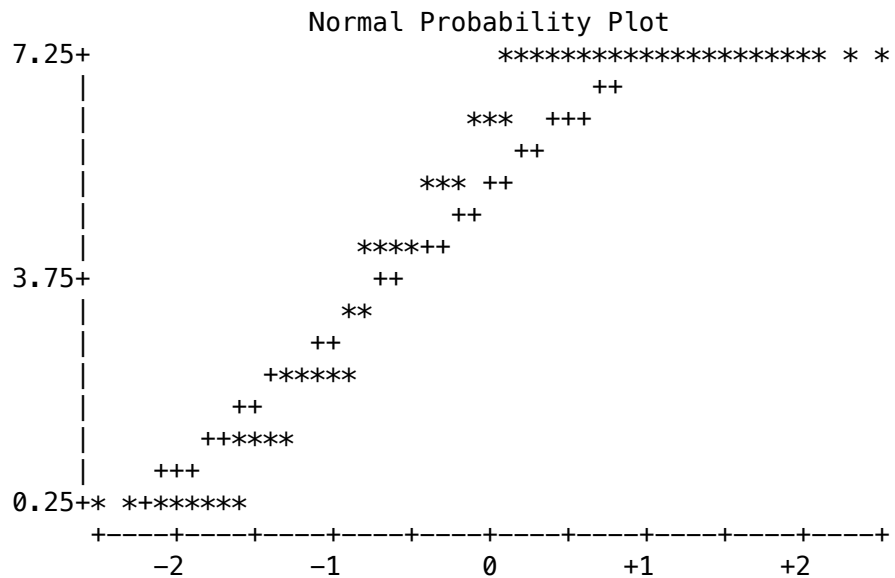
1998 36

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- INOPT=Rakkan

Univariate Procedure

Variable=DE

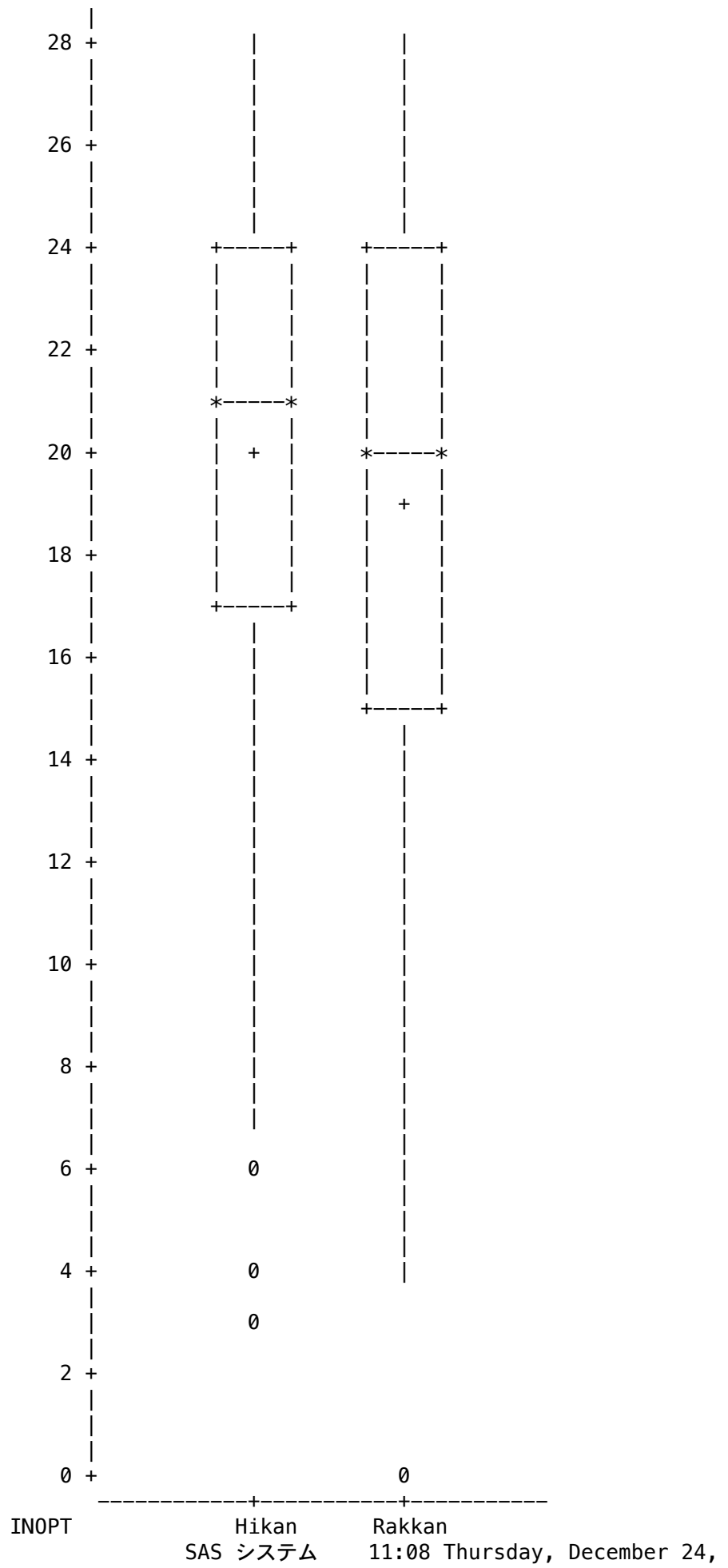


1998 37

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

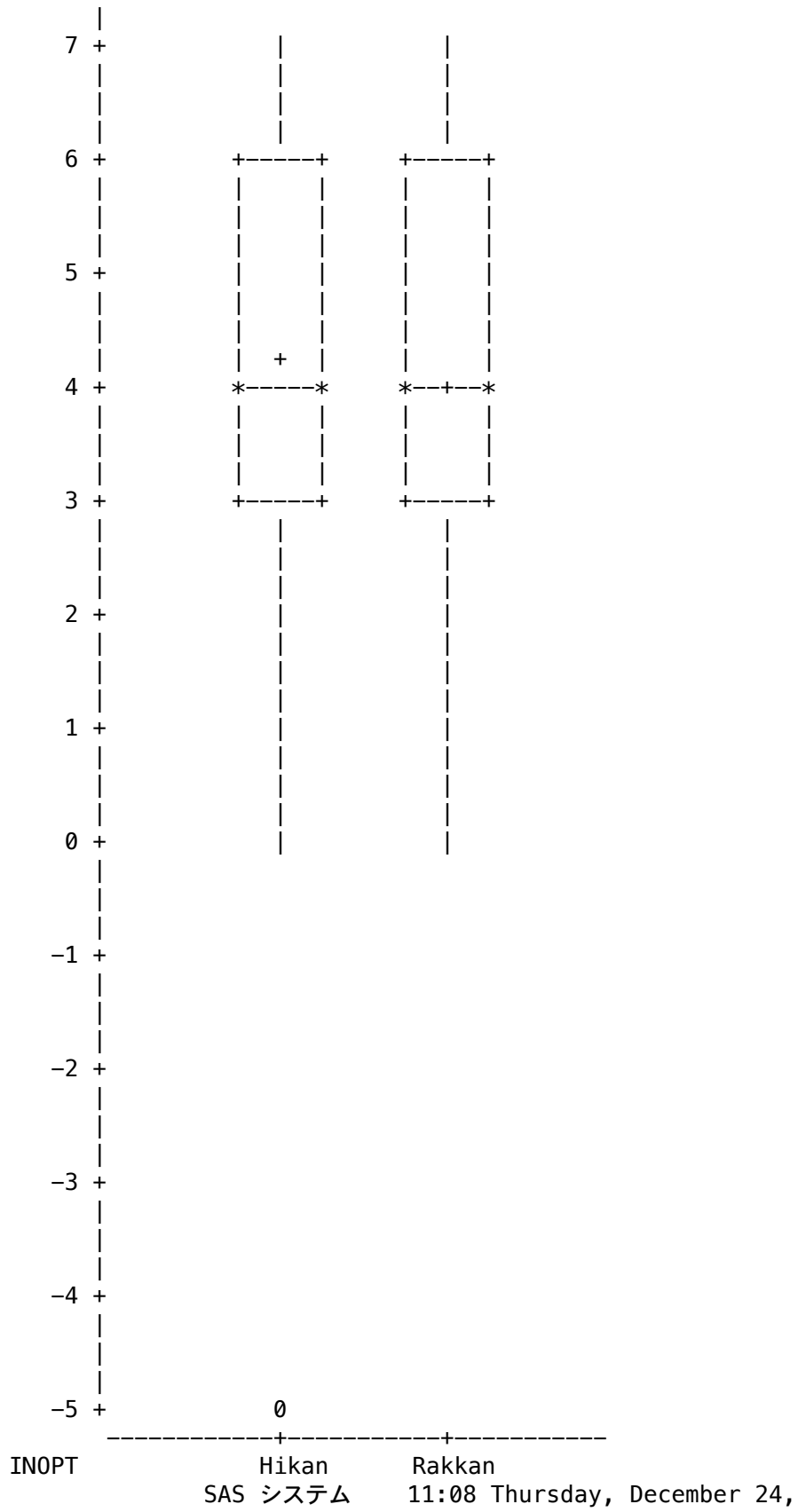
Univariate Procedure
Schematic Plots

Variable=GHQ



Schematic Plots

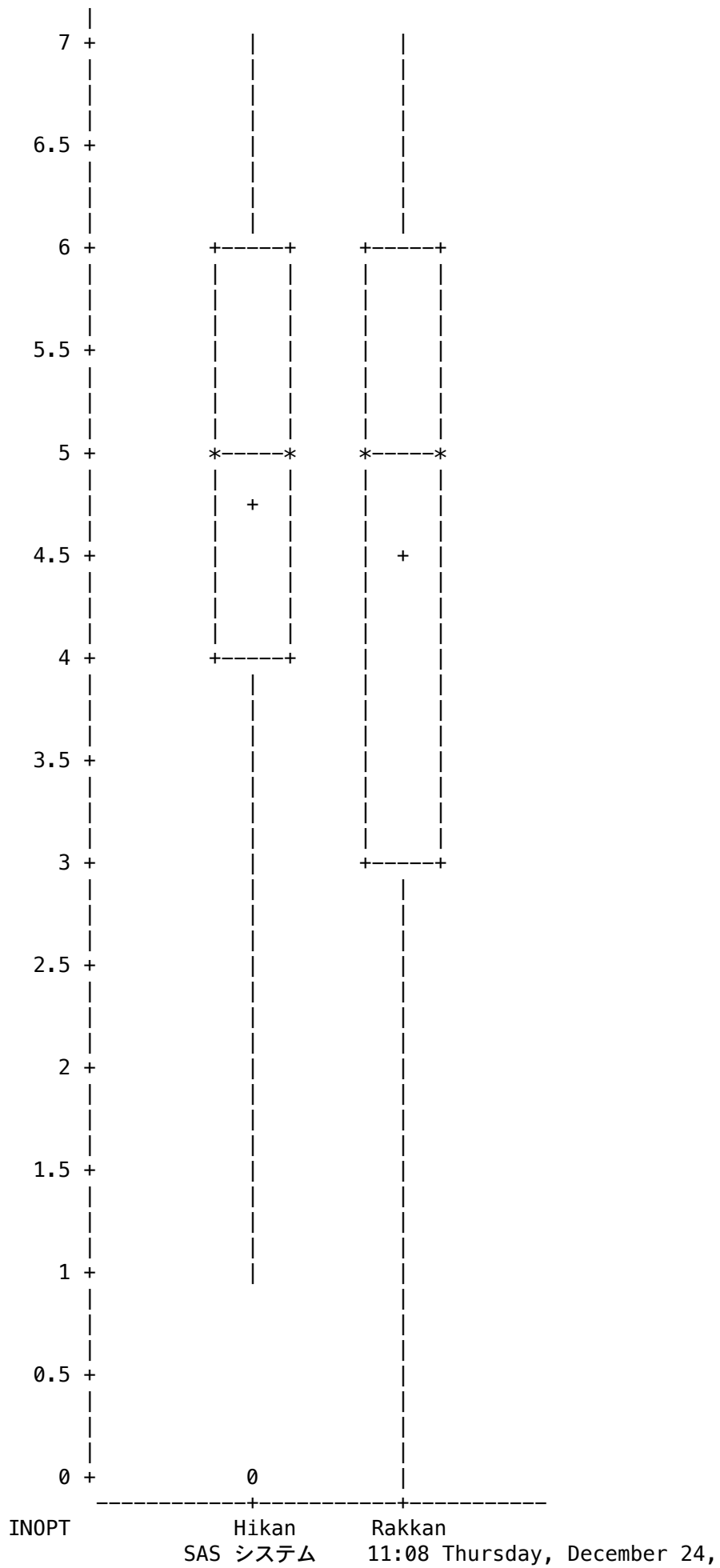
Variable=SS



1998 39

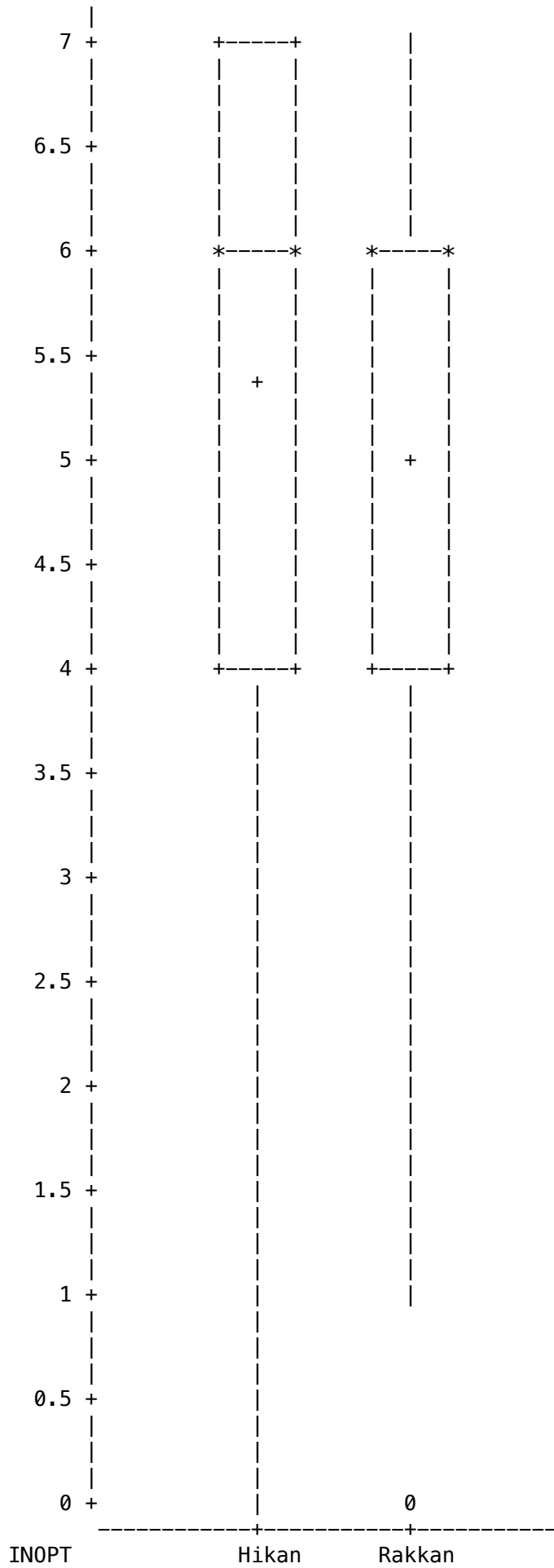
Univariate Procedure
Schematic Plots

Variable=AI



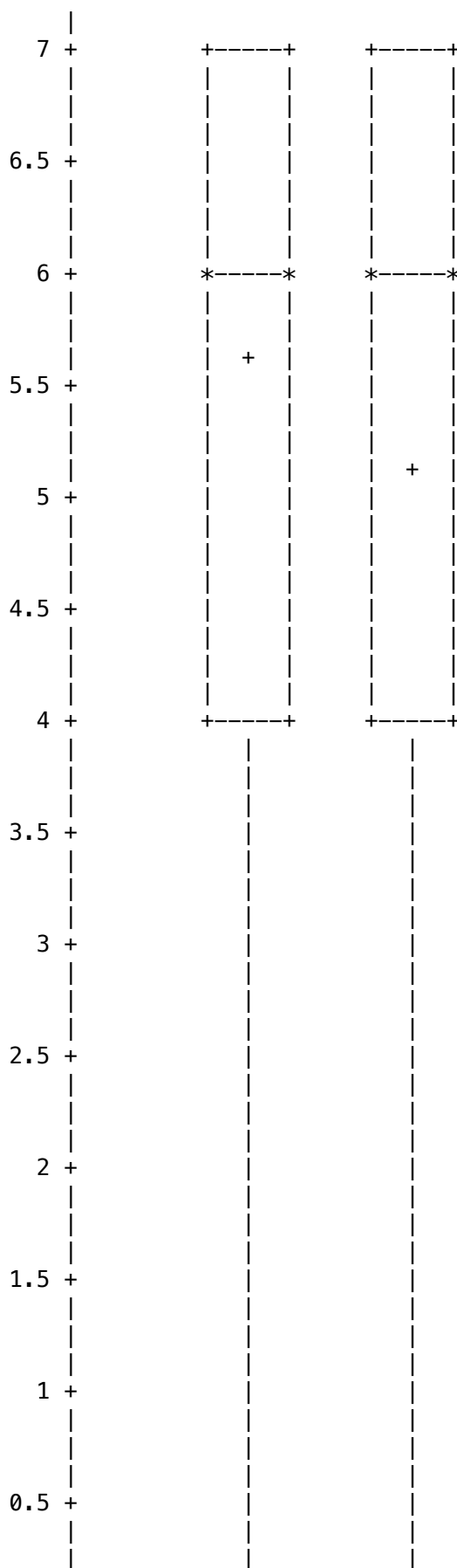
Schematic Plots

Variable=SD



Univariate Procedure
Schematic Plots

Variable=DE



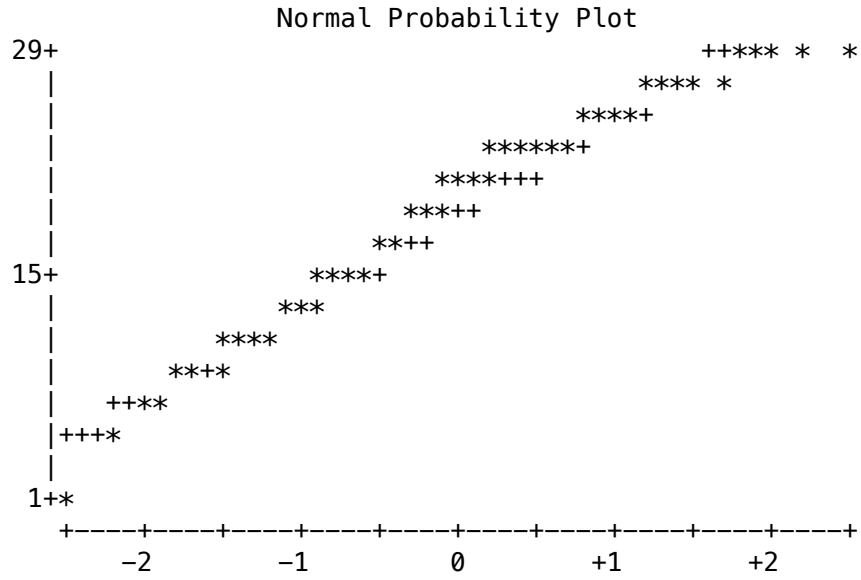
1998 43

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- PROPT=Hikan

Univariate Procedure

Variable=GHQ



1998 44

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- PROPT=Hikan

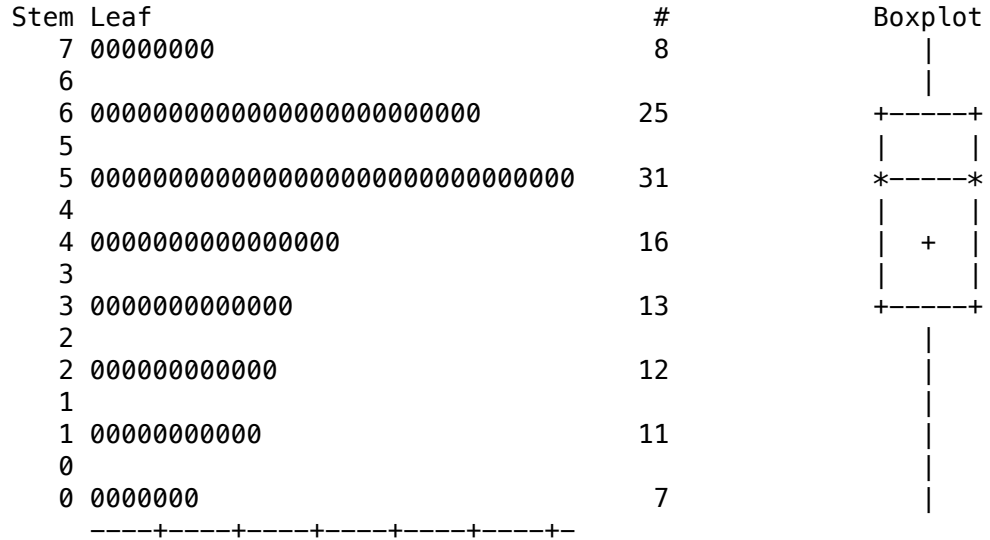
Univariate Procedure

Variable=SS

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|---|-----|
| N | 123 | Sum Wgts | 123 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 4.056911 | Sum | 499 | 75% Q3 | 6 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 1.972353 | Variance | 3.890177 | 50% Med | 5 | 90% |
| 6 | | | | | | |
| Skewness | -0.53 | Kurtosis | -0.76029 | 25% Q1 | 3 | 10% |
| 1 | | | | | | |
| USS | 2499 | CSS | 474.6016 | 0% Min | 0 | 5% |
| 0 | | | | | | |
| CV | 48.61712 | Std Mean | 0.177841 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 22.812 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| Num ^= 0 | 116 | Num > 0 | 116 | Q3-Q1 | 3 | |
| M(Sign) | 58 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 5 | |
| Sgn Rank | 3393 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 123) | 7(| 47) |
| 0(| 115) | 7(| 68) |
| 0(| 113) | 7(| 70) |
| 0(| 104) | 7(| 71) |
| 0(| 84) | 7(| 109) |



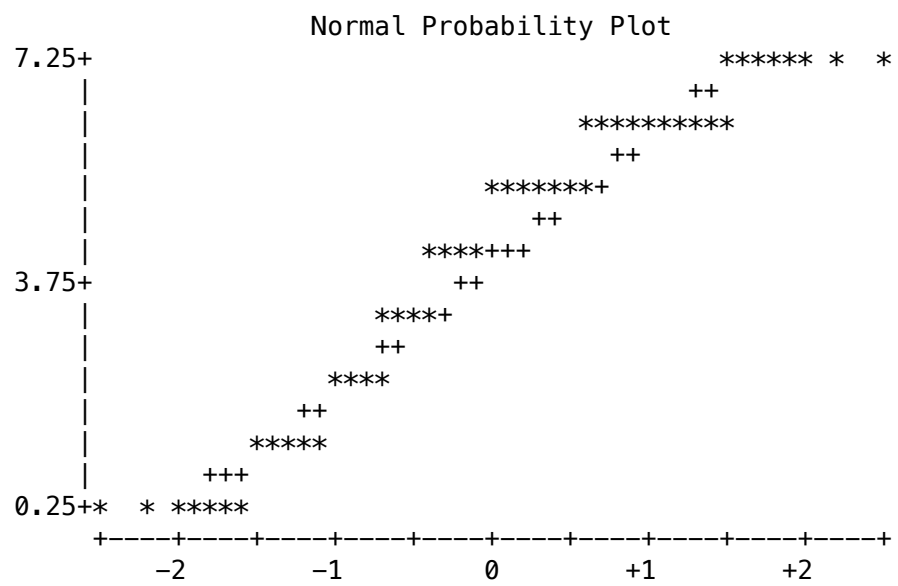
1998 45

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- PROPT=Hikan

Univariate Procedure

Variable=SS



1998 46

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- PROPT=Hikan

Univariate Procedure

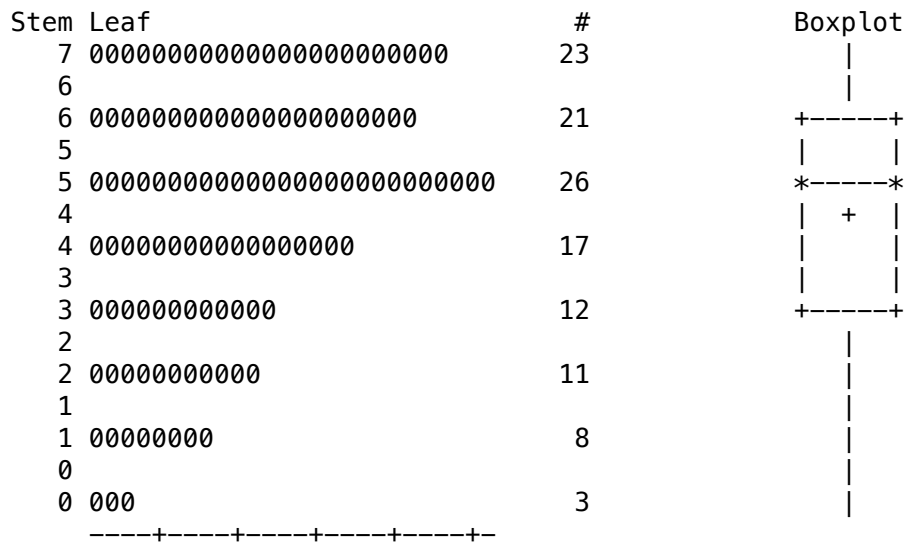
Variable=AI

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|---|-----|
| N | 121 | Sum Wgts | 121 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 4.553719 | Sum | 551 | 75% Q3 | 6 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 1.949147 | Variance | 3.799174 | 50% Med | 5 | 90% |
| 7 | | | | | | |
| Skewness | -0.53879 | Kurtosis | -0.6354 | 25% Q1 | 3 | 10% |
| 2 | | | | | | |
| USS | 2965 | CSS | 455.9008 | 0% Min | 0 | 5% |
| 1 | | | | | | |
| CV | 42.80341 | Std Mean | 0.177195 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 25.69889 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| Num ^= 0 | 118 | Num > 0 | 118 | Q3-Q1 | 3 | |
| M(Sign) | 59 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 5 | |
| Sgn Rank | 3510.5 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

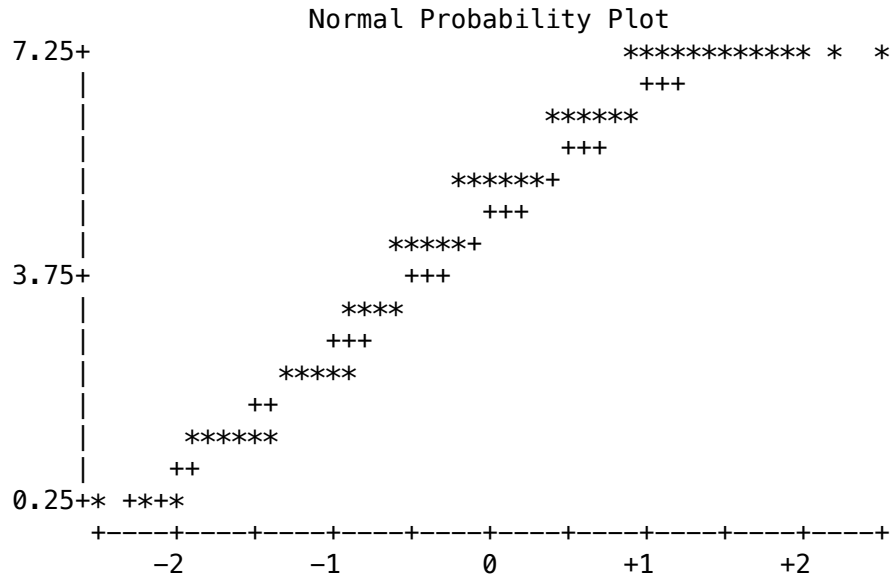
| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 115) | 7(| 106) |
| 0(| 61) | 7(| 109) |
| 0(| 7) | 7(| 113) |
| 1(| 122) | 7(| 114) |
| 1(| 108) | 7(| 116) |

Missing Value .
 Count 2
 % Count/Nobs 1.63



Univariate Procedure

Variable=AI



SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

1998 48

----- PROPT=Hikan

Univariate Procedure

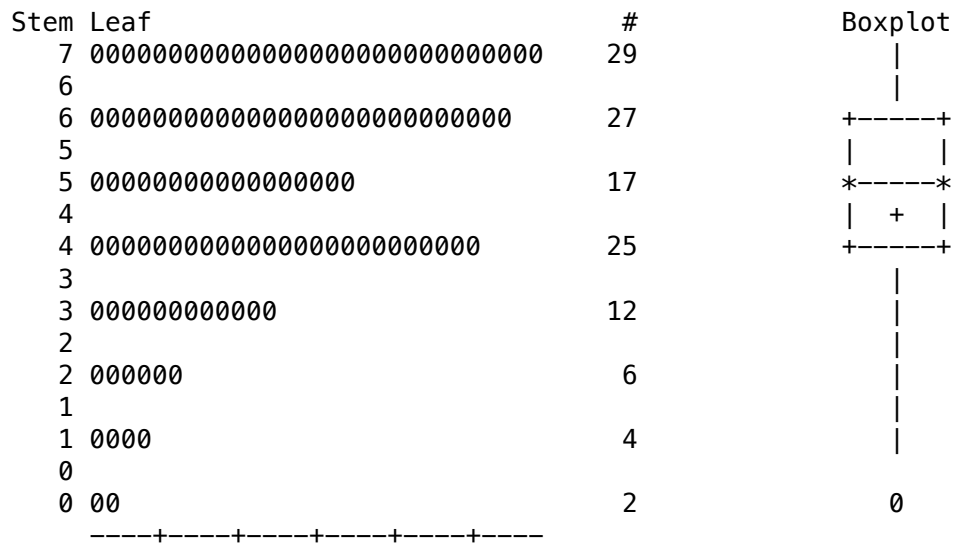
Variable=SD

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|---|-----|
| N | 122 | Sum Wgts | 122 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 4.934426 | Sum | 602 | 75% Q3 | 6 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 1.78023 | Variance | 3.169218 | 50% Med | 5 | 90% |
| 7 | | | | | | |
| Skewness | -0.6769 | Kurtosis | -0.18883 | 25% Q1 | 4 | 10% |
| 3 | | | | | | |
| USS | 3354 | CSS | 383.4754 | 0% Min | 0 | 5% |
| 2 | | | | | | |
| CV | 36.07775 | Std Mean | 0.161174 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 30.61544 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| Num ^= 0 | 120 | Num > 0 | 120 | Q3-Q1 | 2 | |
| M(Sign) | 60 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 7 | |
| Sgn Rank | 3630 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 96) | 7(| 105) |
| 0(| 61) | 7(| 106) |
| 1(| 121) | 7(| 109) |
| 1(| 115) | 7(| 114) |
| 1(| 92) | 7(| 116) |

Missing Value .
 Count 1
 % Count/Nobs 0.81



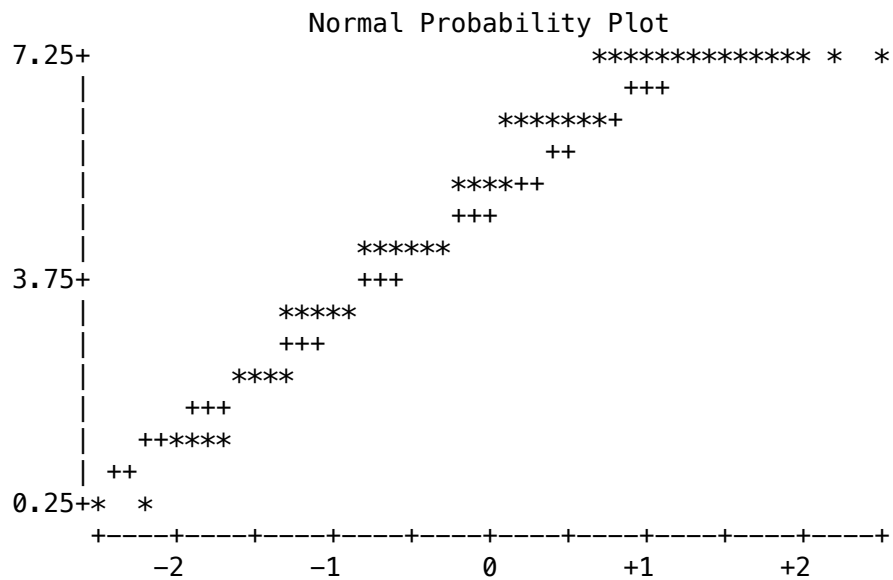
1998 49

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- PROPT=Hikan

Univariate Procedure

Variable=SD



1998 50

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- PROPT=Hikan

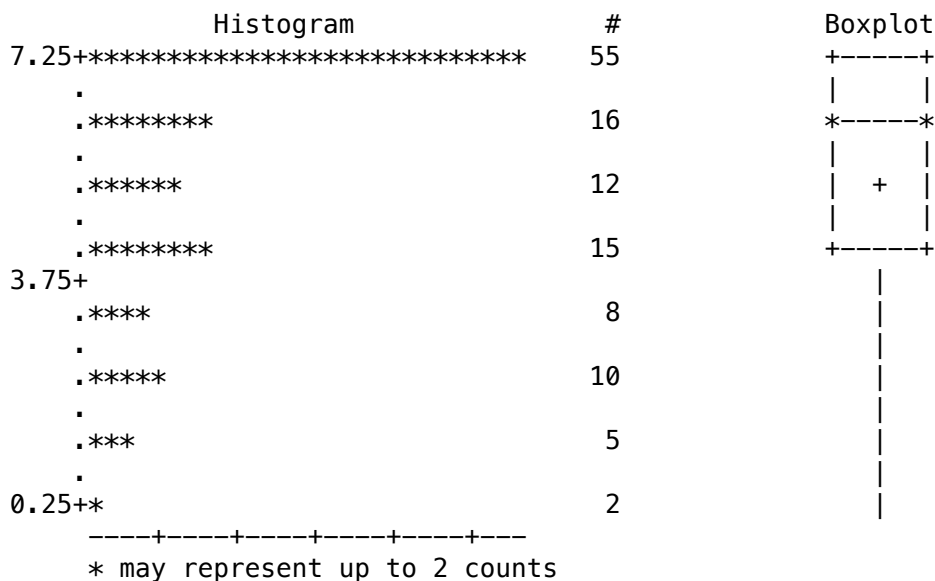
Univariate Procedure

Variable=DE

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|---|-----|
| N | 123 | Sum Wgts | 123 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 5.284553 | Sum | 650 | 75% Q3 | 7 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 2.010303 | Variance | 4.041317 | 50% Med | 6 | 90% |
| 7 | | | | | | |
| Skewness | -0.90942 | Kurtosis | -0.36134 | 25% Q1 | 4 | 10% |
| 2 | | | | | | |
| USS | 3928 | CSS | 493.0407 | 0% Min | 0 | 5% |
| 1 | | | | | | |
| CV | 38.04111 | Std Mean | 0.181263 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 29.15408 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| Num ^= 0 | 121 | Num > 0 | 121 | Q3-Q1 | 3 | |
| M(Sign) | 60.5 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 7 | |
| Sgn Rank | 3690.5 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|-----|---------|------|
| 0(| 92) | 7(| 112) |
| 0(| 61) | 7(| 113) |
| 1(| 50) | 7(| 114) |
| 1(| 29) | 7(| 116) |
| 1(| 15) | 7(| 118) |



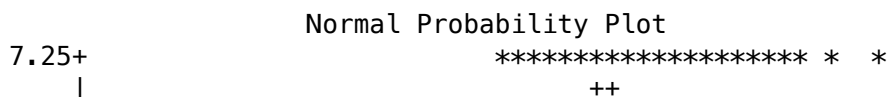
1998 51

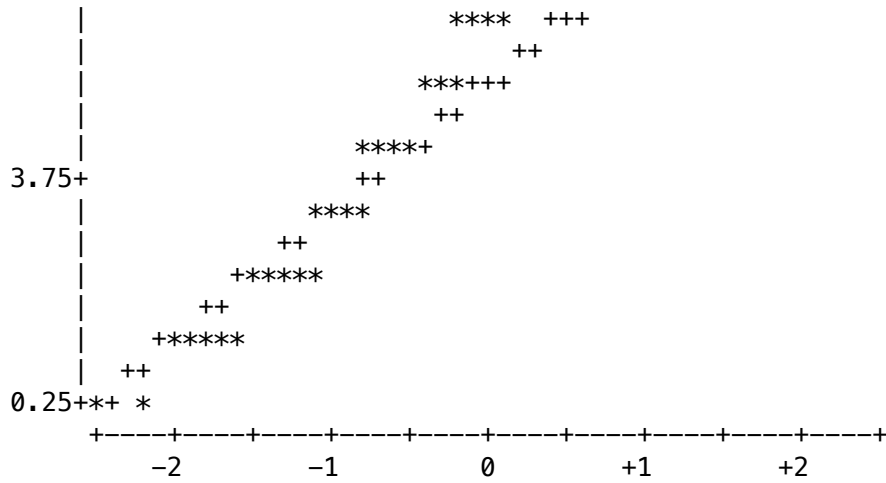
SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- PROPT=Hikan

Univariate Procedure

Variable=DE





SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

1998 52

----- PROPT=Rakkan

Univariate Procedure

Variable=GHQ

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|----|-----|
| N | 186 | Sum Wgts | 186 | 100% Max | 28 | 99% |
| 28 | | Sum | 3639 | 75% Q3 | 24 | 95% |
| Mean | 19.56452 | Variance | 37.66338 | 50% Med | 21 | 90% |
| 27 | | Kurtosis | 0.30353 | 25% Q1 | 16 | 10% |
| Std Dev | 6.13705 | CSS | 6967.726 | 0% Min | 0 | 5% |
| 27 | | Std Mean | 0.44999 | | | 1% |
| Skewness | -0.82873 | Pr> T | 0.0001 | Range | 28 | |
| 10 | | Num > 0 | 184 | Q3-Q1 | 8 | |
| USS | 78163 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 21 | |
| 9 | | Pr>= S | 0.0001 | | | |
| CV | 31.36827 | | | | | |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 43.47764 | | | | | |
| Num ^= 0 | 184 | | | | | |
| M(Sign) | 92 | | | | | |
| Sgn Rank | 8510 | | | | | |

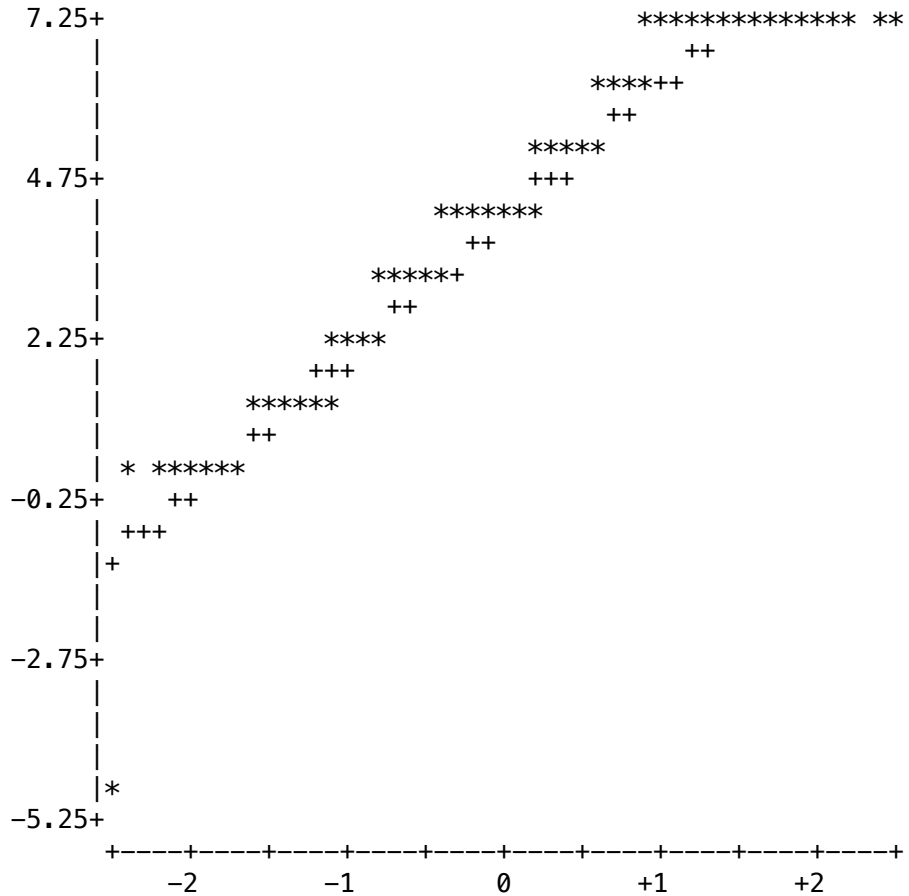
Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 186) | 28(| 139) |
| 0(| 133) | 28(| 141) |
| 3(| 87) | 28(| 150) |
| 4(| 26) | 28(| 167) |
| 5(| 86) | 28(| 178) |

Missing Value .
 Count 2
 % Count/Nobs 1.06

Stem Leaf #
 28 00000000 9

Boxplot
 |



SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

1998 56

----- PROPT=Rakkan

Univariate Procedure

Variable=AI

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|---|-----|
| N | 186 | Sum Wgts | 186 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 4.634409 | Sum | 862 | 75% Q3 | 6 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 1.949553 | Variance | 3.800756 | 50% Med | 5 | 90% |
| 7 | | | | | | |
| Skewness | -0.63841 | Kurtosis | -0.41057 | 25% Q1 | 4 | 10% |
| 2 | | | | | | |
| USS | 4698 | CSS | 703.1398 | 0% Min | 0 | 5% |
| 1 | | | | | | |
| CV | 42.06691 | Std Mean | 0.142948 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 32.42021 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| Num ^= 0 | 180 | Num > 0 | 180 | Q3-Q1 | 2 | |
| M(Sign) | 90 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 7 | |
| Sgn Rank | 8145 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

Lowest Obs Highest Obs
0(186) 7(150)

```

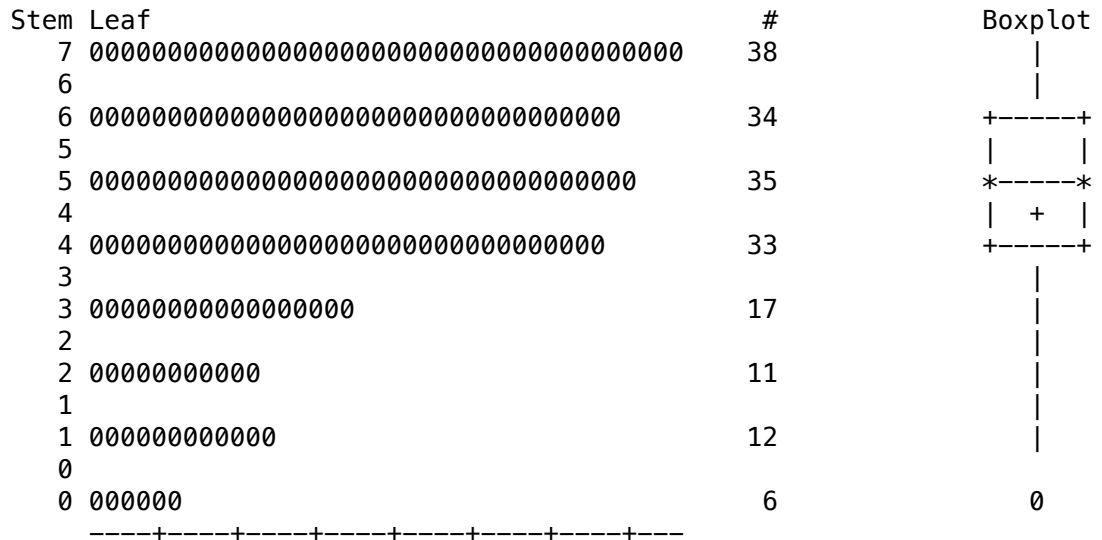
0(    133)    7(    155)
0(    108)    7(    161)
0(     33)    7(    167)
0(     26)    7(    178)

```

```

Missing Value    .
Count            2
% Count/Nobs     1.06

```



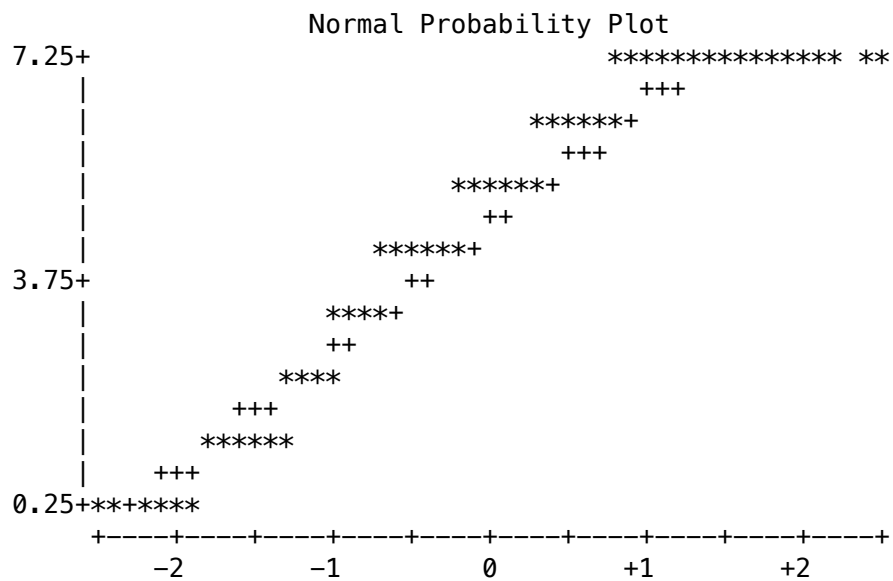
1998 57

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- PROPT=Rakkan

Univariate Procedure

Variable=AI



1998 58

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- PROPT=Rakkan

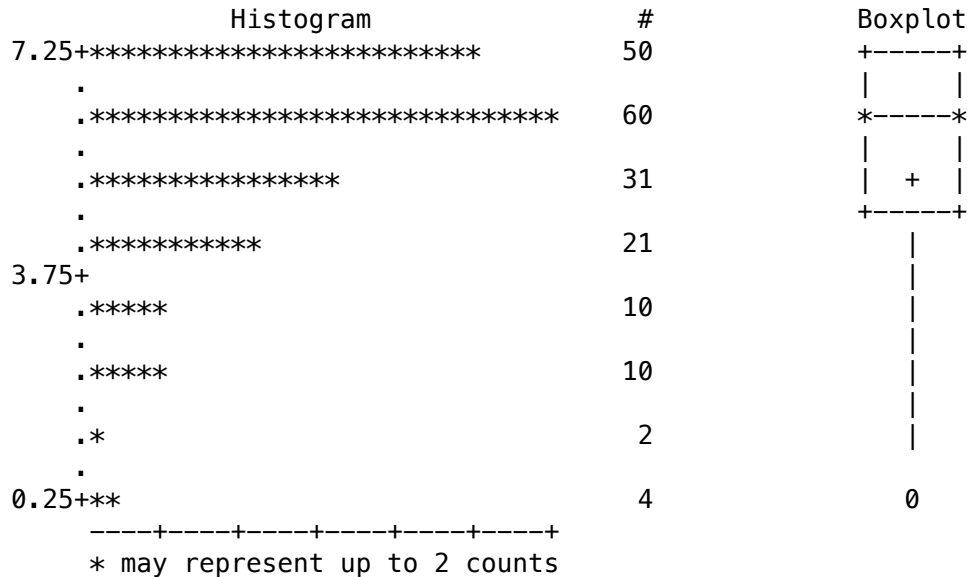
Univariate Procedure

Variable=SD

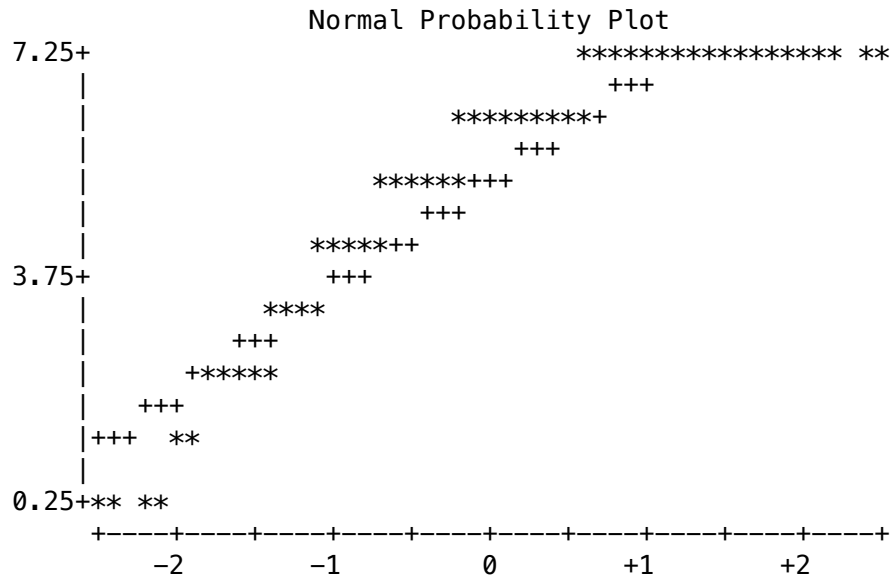
| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|-----|-----|
| N | 188 | Sum Wgts | 188 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 5.324468 | Sum | 1001 | 75% Q3 | 7 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 1.672693 | Variance | 2.797901 | 50% Med | 6 | 90% |
| 7 | | | | | | |
| Skewness | -1.21812 | Kurtosis | 1.112568 | 25% Q1 | 4.5 | 10% |
| 3 | | | | | | |
| USS | 5853 | CSS | 523.2074 | 0% Min | 0 | 5% |
| 2 | | | | | | |
| CV | 31.41521 | Std Mean | 0.121994 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 43.64545 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| Num ^= 0 | 184 | Num > 0 | 184 | Q3-Q1 | 2.5 | |
| M(Sign) | 92 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 6 | |
| Sgn Rank | 8510 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 186) | 7(| 178) |
| 0(| 133) | 7(| 180) |
| 0(| 87) | 7(| 184) |
| 0(| 38) | 7(| 185) |
| 1(| 40) | 7(| 188) |



Variable=SD



1998 60 SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- PROPT=Rakkan -----

Univariate Procedure

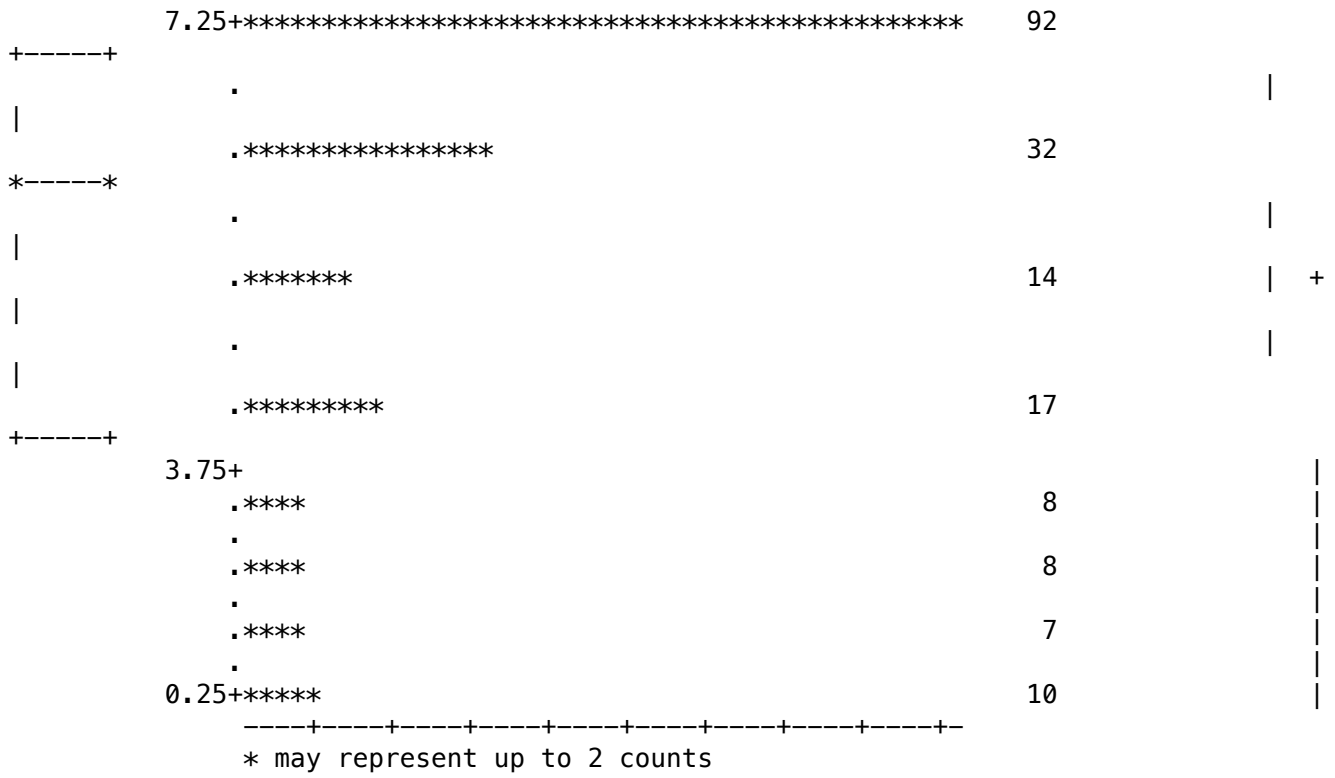
Variable=DE

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|---|-----|
| N | 188 | Sum Wgts | 188 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 5.430851 | Sum | 1021 | 75% Q3 | 7 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 2.129624 | Variance | 4.5353 | 50% Med | 6 | 90% |
| 7 | | | | | | |
| Skewness | -1.30854 | Kurtosis | 0.553385 | 25% Q1 | 4 | 10% |
| 2 | | | | | | |
| USS | 6393 | CSS | 848.1011 | 0% Min | 0 | 5% |
| 0 | | | | | | |
| CV | 39.21345 | Std Mean | 0.155319 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 34.96583 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| Num ^= 0 | 178 | Num > 0 | 178 | Q3-Q1 | 3 | |
| M(Sign) | 89 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 7 | |
| Sgn Rank | 7965.5 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 186) | 7(| 183) |
| 0(| 182) | 7(| 184) |
| 0(| 174) | 7(| 185) |
| 0(| 171) | 7(| 187) |
| 0(| 137) | 7(| 188) |

Boxplot Histogram #

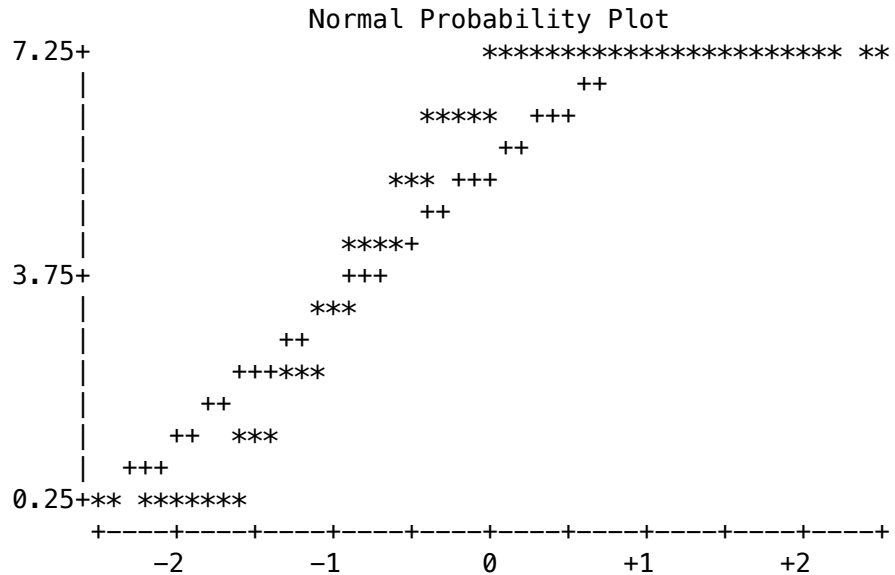


1998 61 SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- PROPT=Rakkan

Univariate Procedure

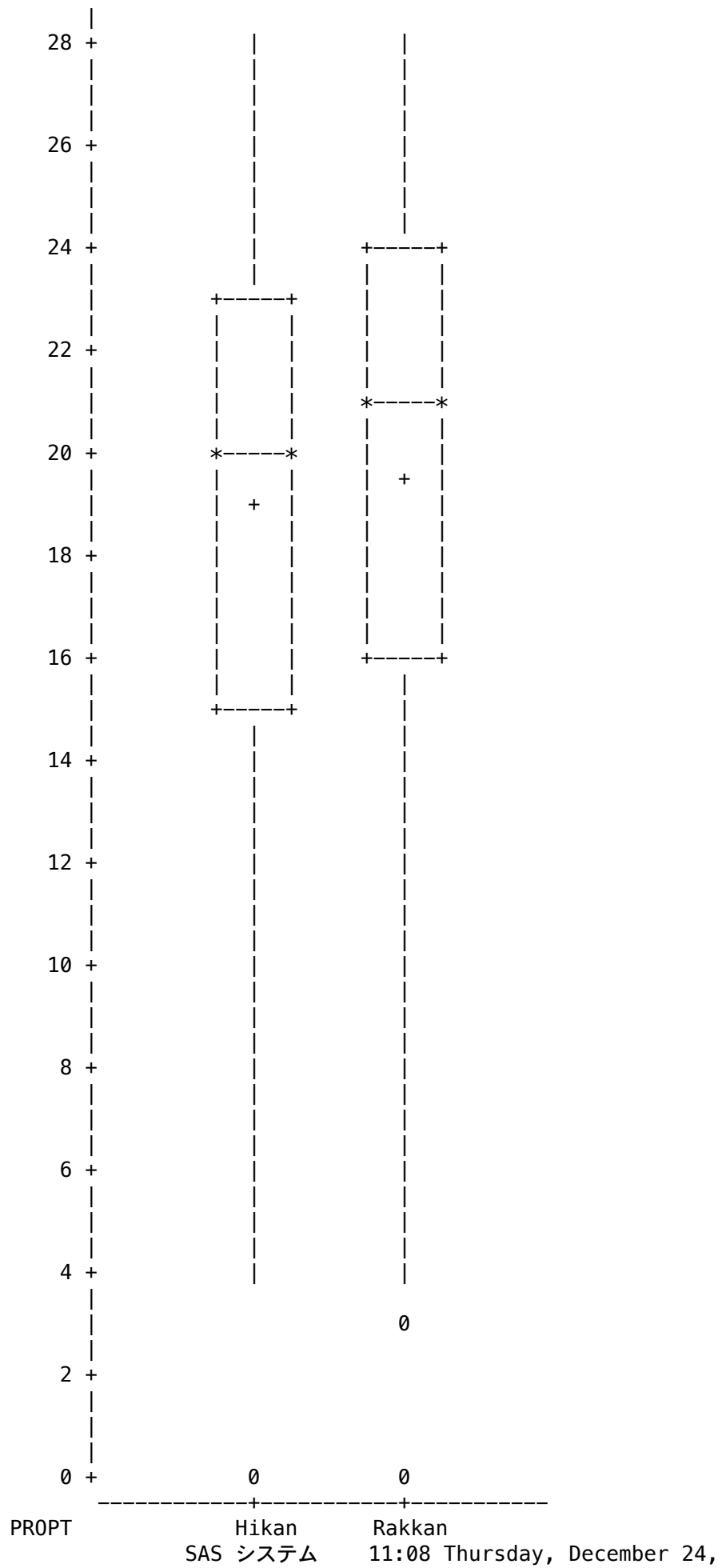
Variable=DE



1998 62 SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

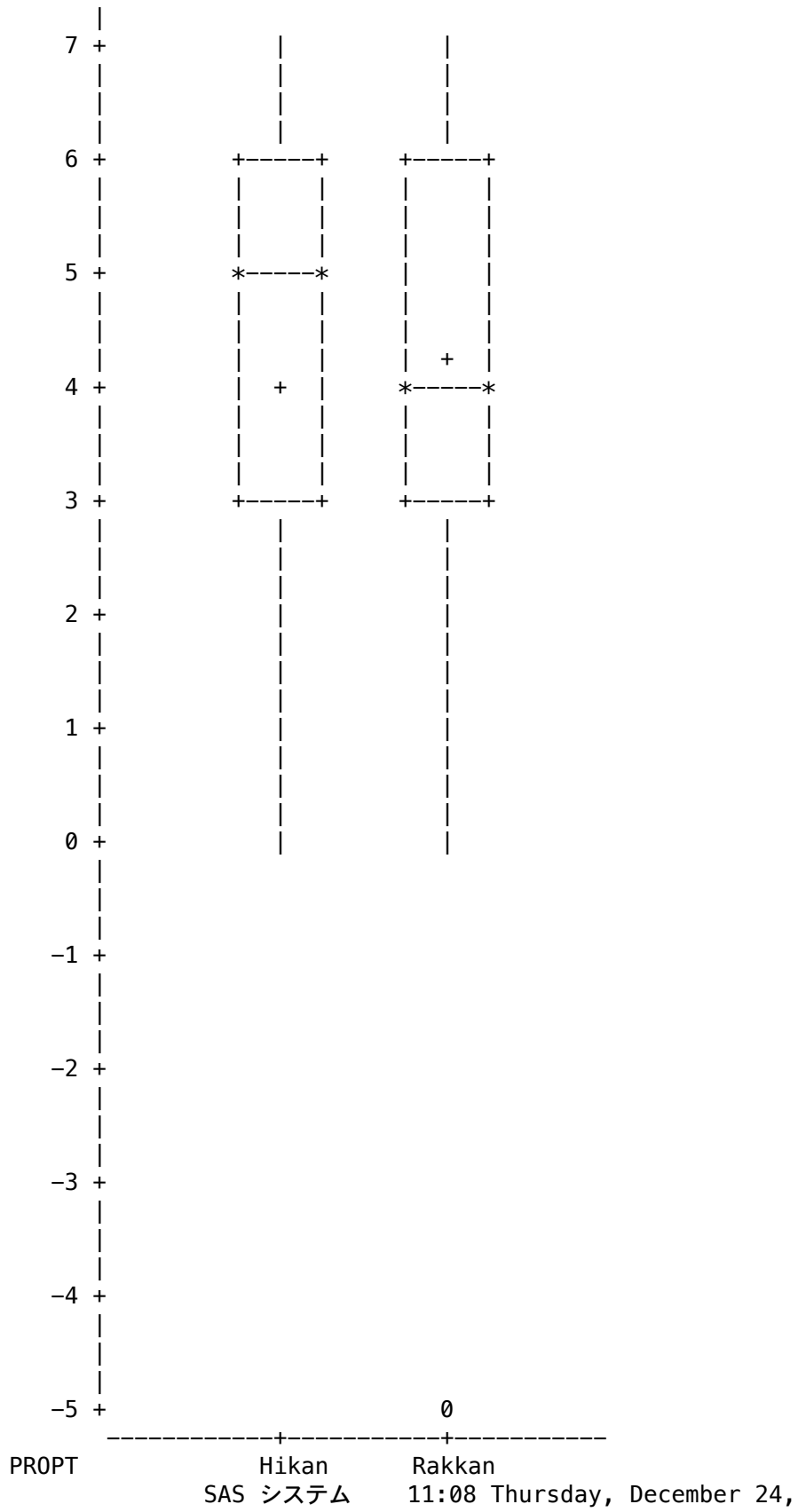
Univariate Procedure
Schematic Plots

Variable=GHQ



Schematic Plots

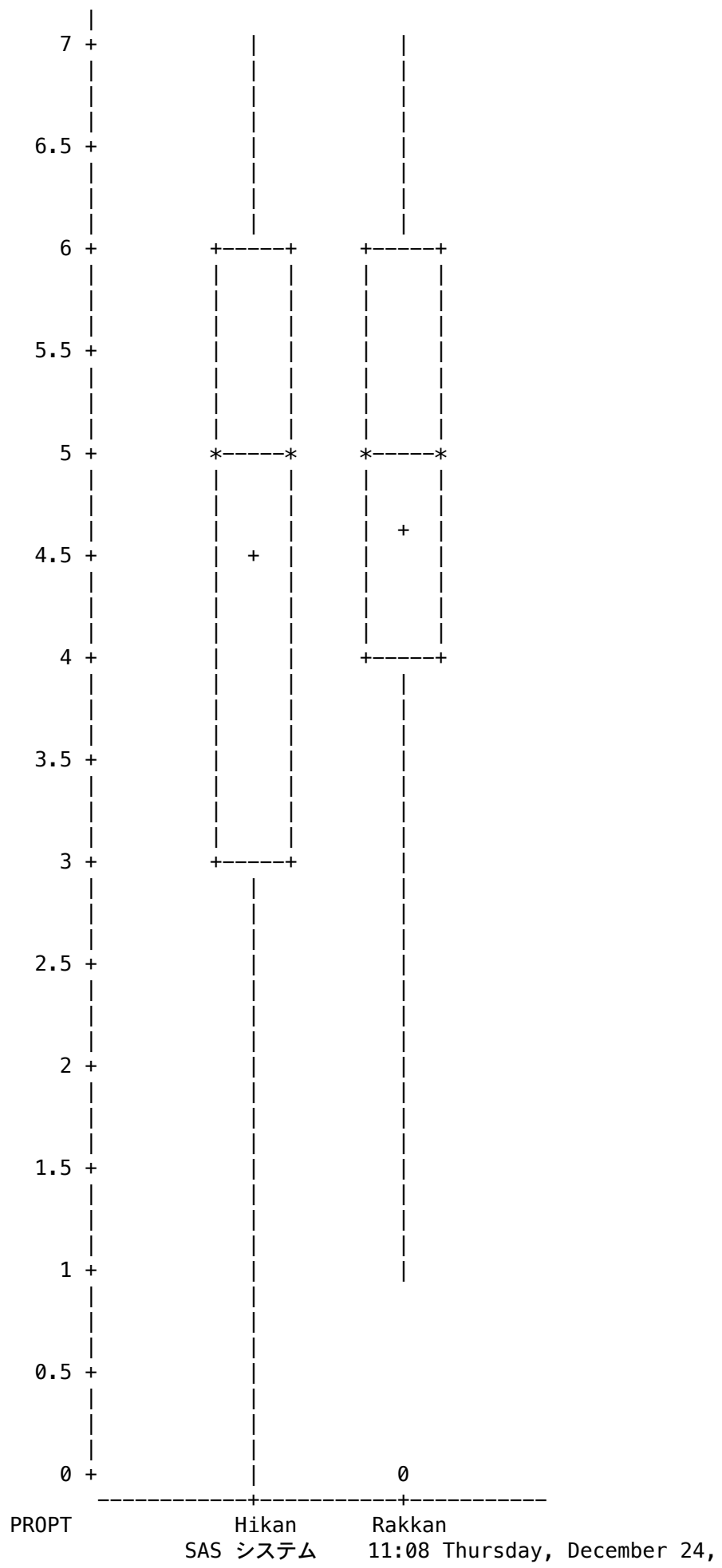
Variable=SS



1998 64

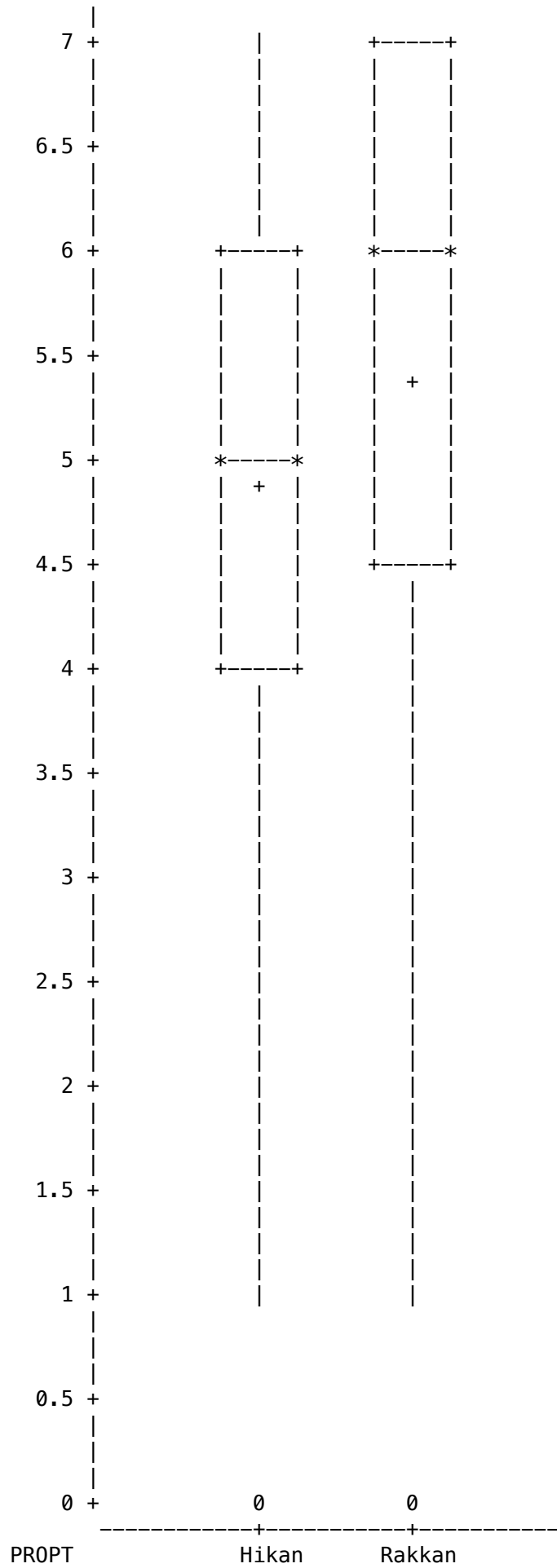
Univariate Procedure
Schematic Plots

Variable=AI



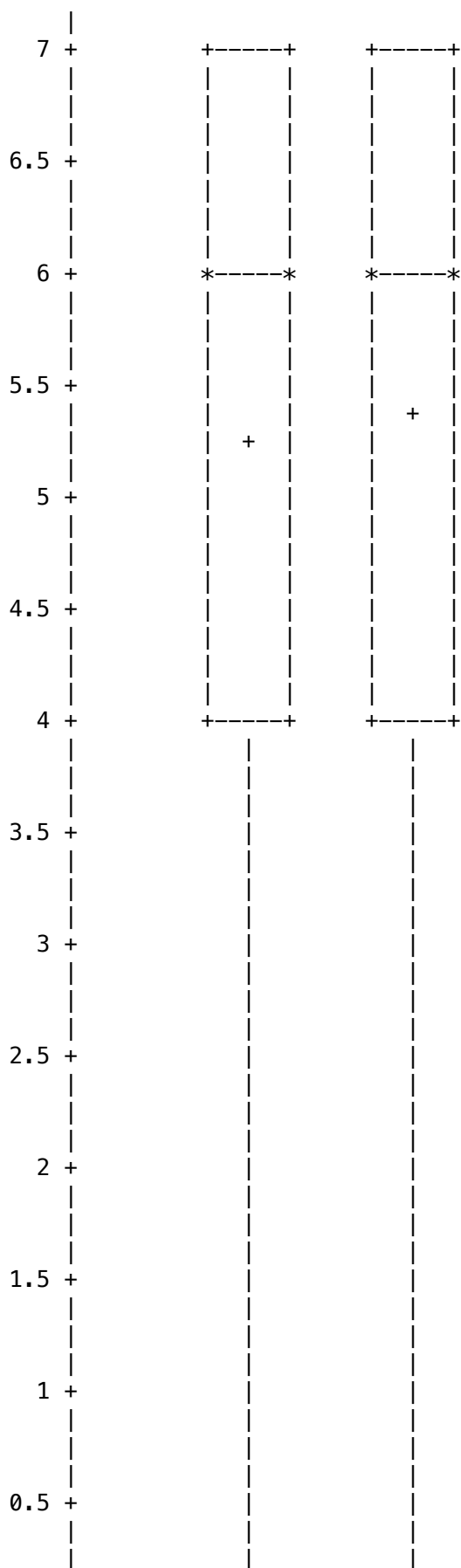
Schematic Plots

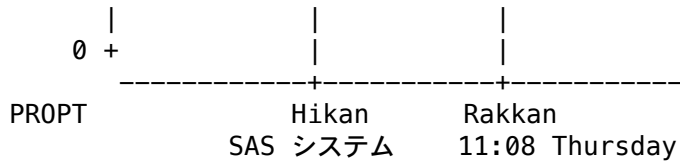
Variable=SD



Univariate Procedure
Schematic Plots

Variable=DE





1998 67

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- PMOPT=Hikan -----

Univariate Procedure

Variable=GHQ

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|----|-----|
| N | 151 | Sum Wgts | 151 | 100% Max | 28 | 99% |
| 28 | | | | | | |
| Mean | 18.16556 | Sum | 2743 | 75% Q3 | 23 | 95% |
| 27 | | | | | | |
| Std Dev | 5.960347 | Variance | 35.52574 | 50% Med | 19 | 90% |
| 25 | | | | | | |
| Skewness | -0.57855 | Kurtosis | -0.20959 | 25% Q1 | 15 | 10% |
| 10 | | | | | | |
| USS | 55157 | CSS | 5328.861 | 0% Min | 0 | 5% |
| 8 | | | | | | |
| CV | 32.81124 | Std Mean | 0.485046 | | | 1% |
| 3 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 37.4512 | Pr> T | 0.0001 | Range | 28 | |
| Num ^= 0 | 150 | Num > 0 | 150 | Q3-Q1 | 8 | |
| M(Sign) | 75 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 23 | |
| Sgn Rank | 5662.5 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 83) | 27(| 56) |
| 3(| 81) | 27(| 63) |
| 4(| 15) | 27(| 88) |
| 5(| 80) | 28(| 36) |
| 6(| 118) | 28(| 136) |

Missing Value .
 Count 2
 % Count/Nobs 1.31

| Stem Leaf | # | Boxplot |
|---------------------------|----|---------|
| 28 00 | 2 | |
| 26 00000000000000 | 12 | |
| 24 0000000000000000 | 16 | |
| 22 0000000000000000000000 | 22 | |
| 20 00000000000000000000 | 18 | |
| 18 00000000000000000000 | 19 | |
| 16 00000000000000000000 | 17 | |
| 14 0000000000000000 | 13 | |
| 12 00000000 | 7 | |
| 10 00000000000000 | 11 | |
| 8 00000000 | 7 | |
| 6 000 | 3 | |
| 4 00 | 2 | |
| 2 0 | 1 | |

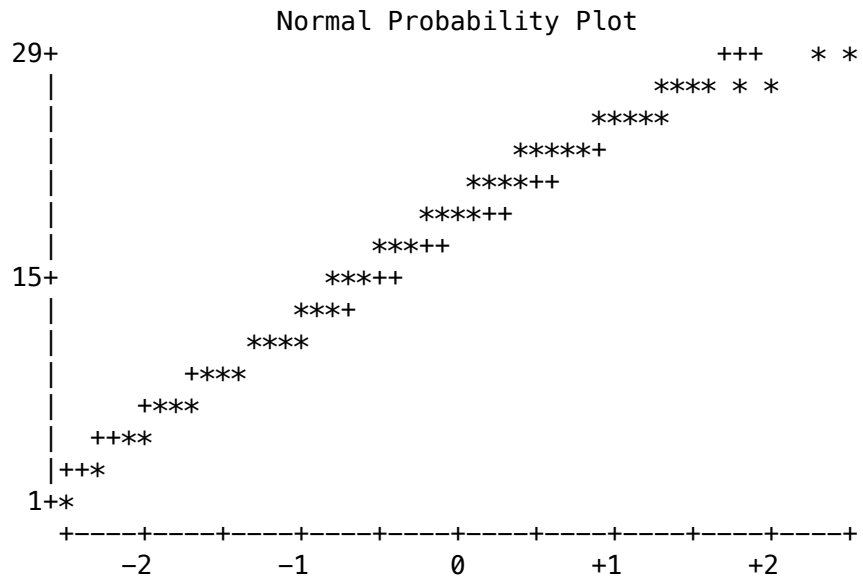
1998 68

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- PMOPT=Hikan

Univariate Procedure

Variable=GHQ



1998 69

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- PMOPT=Hikan

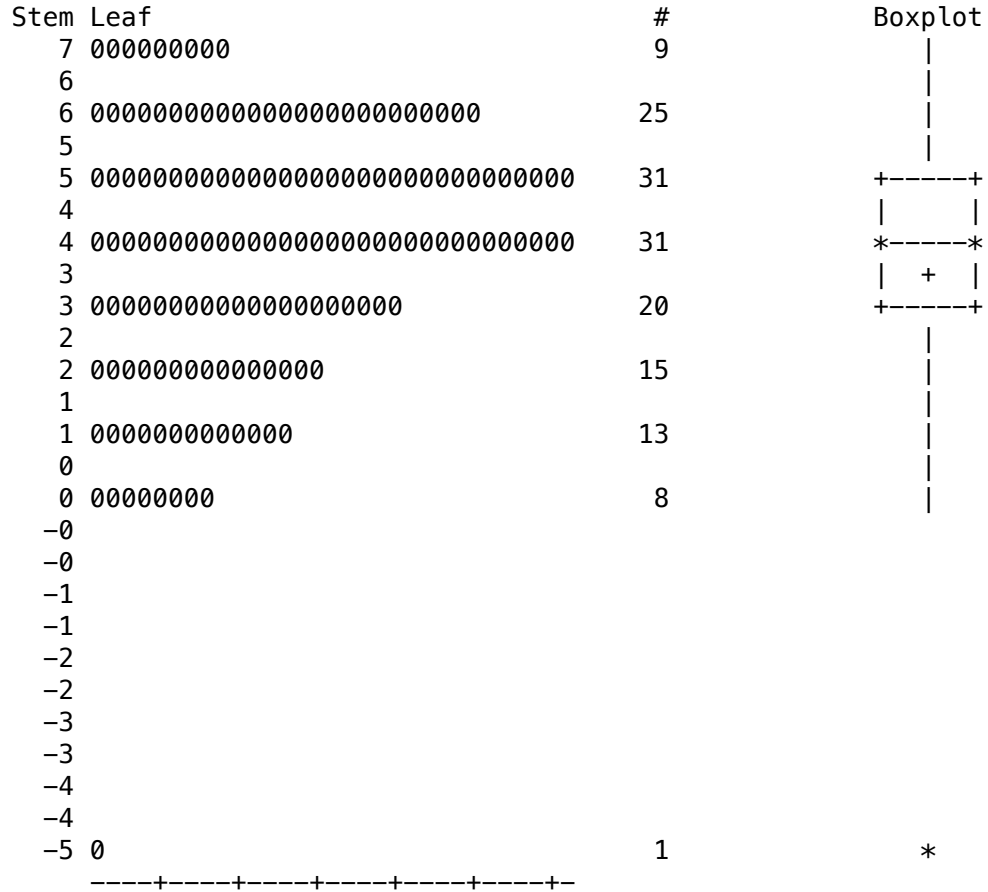
Univariate Procedure

Variable=SS

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|----|-----|
| N | 153 | Sum Wgts | 153 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 3.856209 | Sum | 590 | 75% Q3 | 5 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 2.011213 | Variance | 4.044978 | 50% Med | 4 | 90% |
| 6 | | | | | | |
| Skewness | -0.81311 | Kurtosis | 1.304594 | 25% Q1 | 3 | 10% |
| 1 | | | | | | |
| USS | 2890 | CSS | 614.8366 | 0% Min | -5 | 5% |
| 0 | | | | | | |
| CV | 52.15518 | Std Mean | 0.162597 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 23.71637 | Pr> T | 0.0001 | Range | 12 | |
| Num ^= 0 | 145 | Num > 0 | 144 | Q3-Q1 | 2 | |
| M(Sign) | 71.5 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 4 | |
| Sgn Rank | 5197 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| -5(| 94) | 7(| 56) |
| 0(| 148) | 7(| 57) |
| 0(| 139) | 7(| 63) |
| 0(| 135) | 7(| 88) |
| 0(| 113) | 7(| 136) |



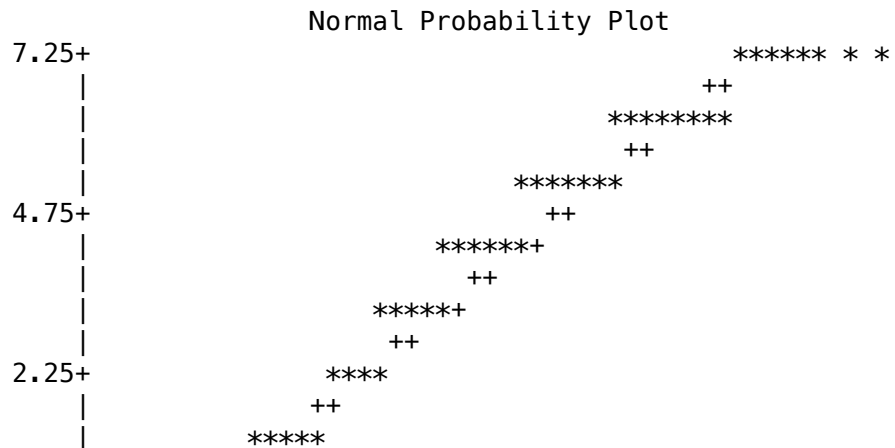
1998 70

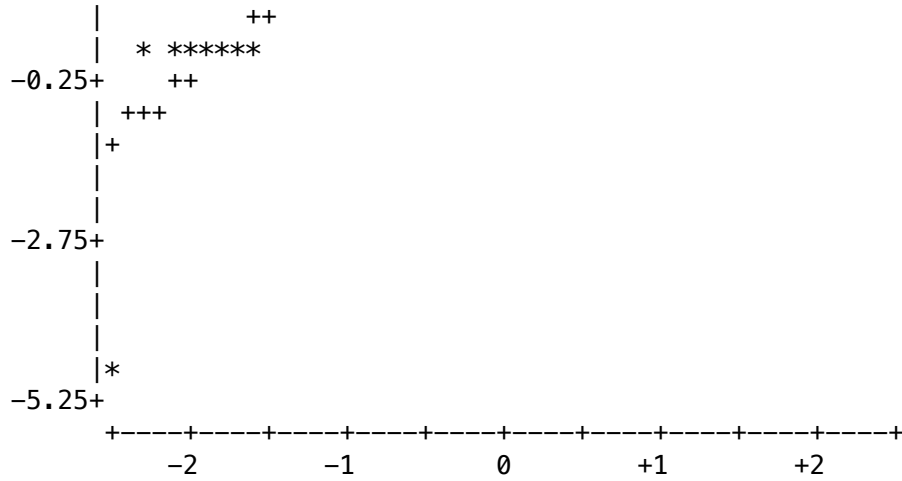
SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- PMOPT=Hikan

Univariate Procedure

Variable=SS





SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

1998 71

----- PMOPT=Hikan

Univariate Procedure

Variable=AI

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|---|-----|
| N | 151 | Sum Wgts | 151 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 4.258278 | Sum | 643 | 75% Q3 | 6 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 1.974719 | Variance | 3.899514 | 50% Med | 5 | 90% |
| 7 | | | | | | |
| Skewness | -0.41309 | Kurtosis | -0.7855 | 25% Q1 | 3 | 10% |
| 1 | | | | | | |
| USS | 3323 | CSS | 584.9272 | 0% Min | 0 | 5% |
| 1 | | | | | | |
| CV | 46.37365 | Std Mean | 0.1607 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 26.49825 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| Num ^= 0 | 146 | Num > 0 | 146 | Q3-Q1 | 3 | |
| M(Sign) | 73 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 5 | |
| Sgn Rank | 5365.5 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 148) | 7(| 116) |
| 0(| 83) | 7(| 119) |
| 0(| 24) | 7(| 124) |
| 0(| 8) | 7(| 136) |
| 0(| 7) | 7(| 138) |

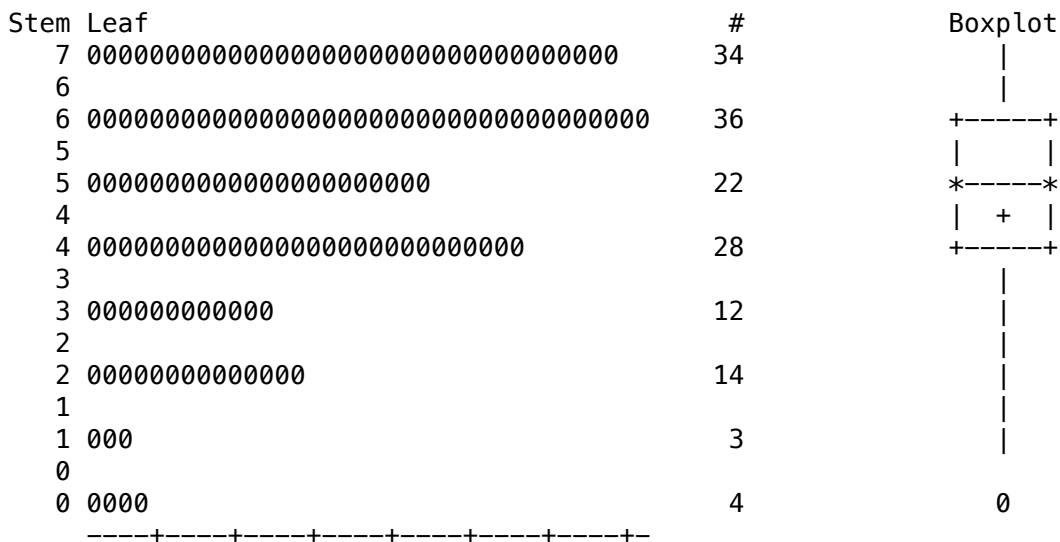
Missing Value .
Count 2
% Count/Nobs 1.31

Stem Leaf # Boxplot
7 0000000000000000000 # 21 |

| | | | | | | | |
|---|----------|----------|----------|----------|--------|---|-----|
| 7 | Skewness | -0.69948 | Kurtosis | -0.26594 | 25% Q1 | 4 | 10% |
| 2 | USS | 4127 | CSS | 518.8366 | 0% Min | 0 | 5% |
| 2 | CV | 38.04487 | Std Mean | 0.149365 | | | 1% |
| 0 | T:Mean=0 | 32.51244 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| | Num ^= 0 | 149 | Num > 0 | 149 | Q3-Q1 | 2 | |
| | M(Sign) | 74.5 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 6 | |
| | Sgn Rank | 5587.5 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 127) | 7(| 136) |
| 0(| 83) | 7(| 137) |
| 0(| 81) | 7(| 138) |
| 0(| 26) | 7(| 144) |
| 1(| 148) | 7(| 153) |

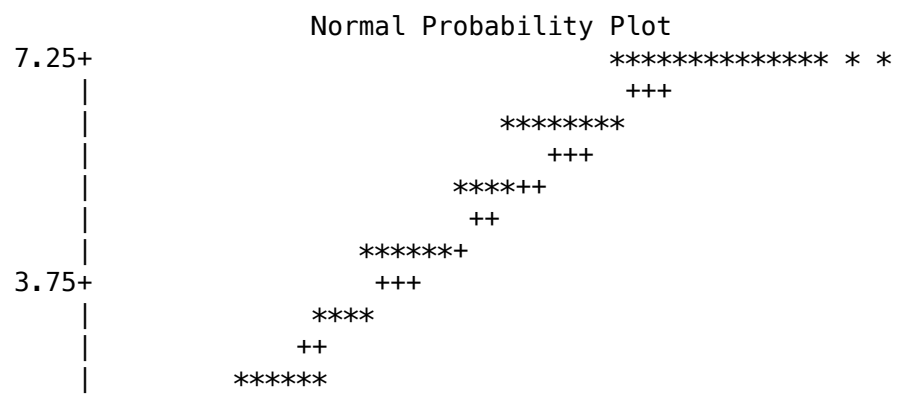


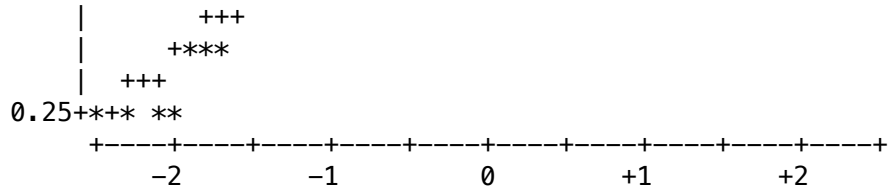
1998 74 SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- PMOPT=Hikan -----

Univariate Procedure

Variable=SD





----- PMOPT=Hikan

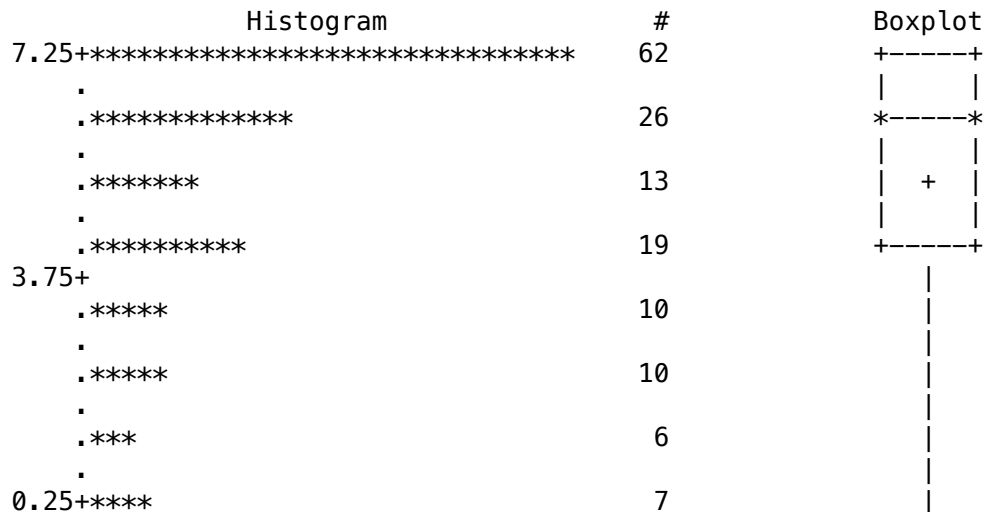
Univariate Procedure

Variable=DE

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|---|-----|
| N | 153 | Sum Wgts | 153 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 5.143791 | Sum | 787 | 75% Q3 | 7 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 2.131895 | Variance | 4.544978 | 50% Med | 6 | 90% |
| 7 | | | | | | |
| Skewness | -0.96624 | Kurtosis | -0.19759 | 25% Q1 | 4 | 10% |
| 2 | | | | | | |
| USS | 4739 | CSS | 690.8366 | 0% Min | 0 | 5% |
| 1 | | | | | | |
| CV | 41.446 | Std Mean | 0.172354 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 29.84442 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| Num ^= 0 | 146 | Num > 0 | 146 | Q3-Q1 | 3 | |
| M(Sign) | 73 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 7 | |
| Sgn Rank | 5365.5 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 143) | 7(| 138) |
| 0(| 139) | 7(| 145) |
| 0(| 118) | 7(| 147) |
| 0(| 106) | 7(| 150) |
| 0(| 83) | 7(| 153) |



-----+-----+-----+-----+-----+-----+
 * may represent up to 2 counts

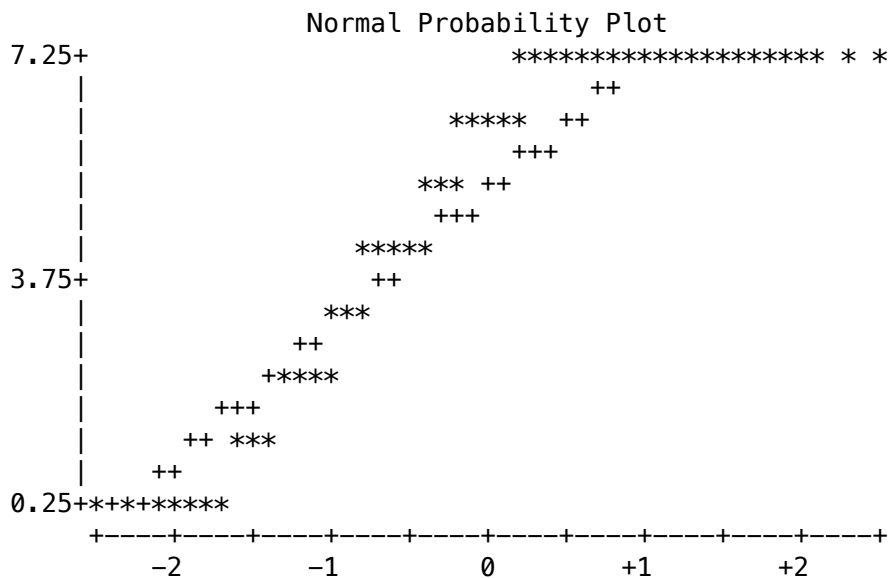
SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

1998 76

----- PMOPT=Hikan

Univariate Procedure

Variable=DE



SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

1998 77

----- PMOPT=Rakkan

Univariate Procedure

Variable=GHQ

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|----|-----|
| N | 155 | Sum Wgts | 155 | 100% Max | 28 | 99% |
| 28 | | | | | | |
| Mean | 20.4129 | Sum | 3164 | 75% Q3 | 25 | 95% |
| 28 | | | | | | |
| Std Dev | 5.871776 | Variance | 34.47775 | 50% Med | 21 | 90% |
| 27 | | | | | | |
| Skewness | -0.99849 | Kurtosis | 0.929209 | 25% Q1 | 17 | 10% |
| 12 | | | | | | |
| USS | 69896 | CSS | 5309.574 | 0% Min | 0 | 5% |
| 9 | | | | | | |
| CV | 28.76502 | Std Mean | 0.471632 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 43.28138 | Pr> T | 0.0001 | Range | 28 | |
| Num ^= 0 | 153 | Num > 0 | 153 | Q3-Q1 | 8 | |
| M(Sign) | 76.5 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 21 | |
| Sgn Rank | 5890.5 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

----- PMOPT=Rakkan

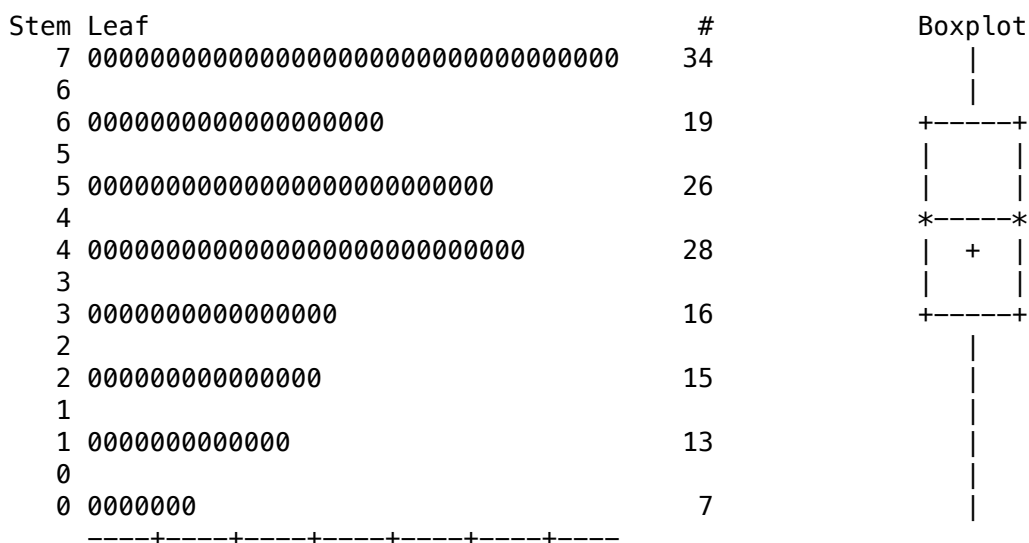
Univariate Procedure

Variable=SS

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|-----|-----|
| N | 158 | Sum Wgts | 158 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 4.335443 | Sum | 685 | 75% Q3 | 6 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 2.10432 | Variance | 4.428163 | 50% Med | 4.5 | 90% |
| 7 | | | | | | |
| Skewness | -0.37702 | Kurtosis | -0.88334 | 25% Q1 | 3 | 10% |
| 1 | | | | | | |
| USS | 3665 | CSS | 695.2215 | 0% Min | 0 | 5% |
| 1 | | | | | | |
| CV | 48.5376 | Std Mean | 0.167411 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 25.89705 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| Num ^= 0 | 151 | Num > 0 | 151 | Q3-Q1 | 3 | |
| M(Sign) | 75.5 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 7 | |
| Sgn Rank | 5738 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

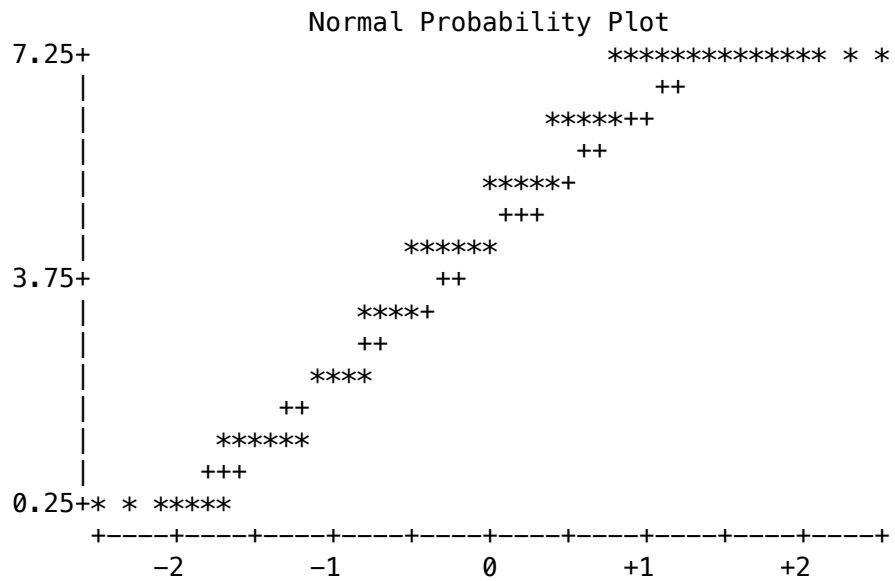
| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 158) | 7(| 130) |
| 0(| 154) | 7(| 139) |
| 0(| 148) | 7(| 140) |
| 0(| 107) | 7(| 144) |
| 0(| 92) | 7(| 145) |



----- PMOPT=Rakkan

Univariate Procedure

Variable=SS



SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

1998 81

PMOPT=Rakkan

Univariate Procedure

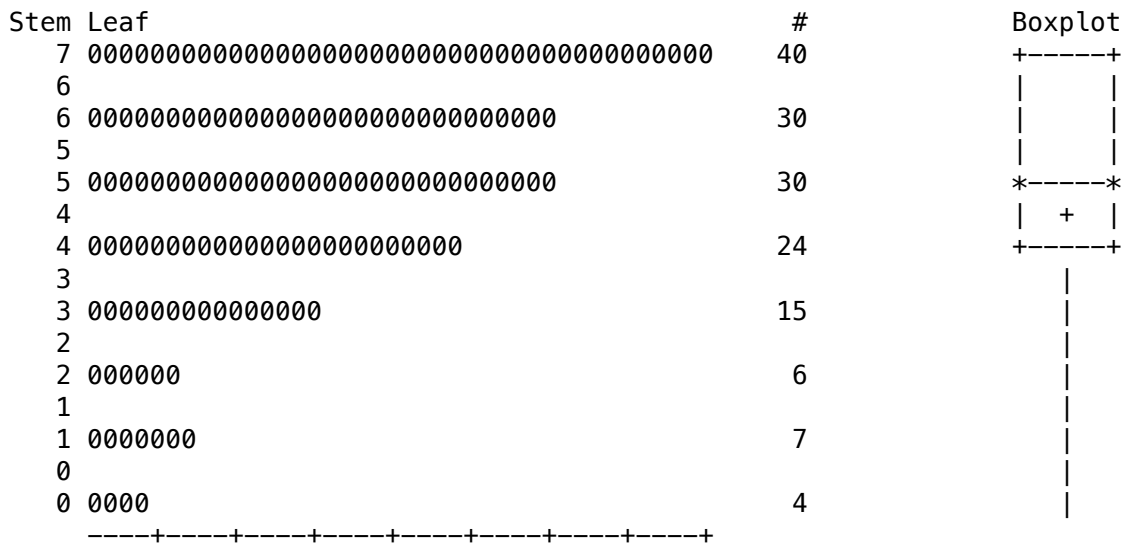
Variable=AI

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|---|-----|
| N | 156 | Sum Wgts | 156 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 4.935897 | Sum | 770 | 75% Q3 | 7 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 1.865405 | Variance | 3.479735 | 50% Med | 5 | 90% |
| 7 | | | | | | |
| Skewness | -0.8057 | Kurtosis | -0.0164 | 25% Q1 | 4 | 10% |
| 2 | | | | | | |
| USS | 4340 | CSS | 539.359 | 0% Min | 0 | 5% |
| 1 | | | | | | |
| CV | 37.79262 | Std Mean | 0.149352 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 33.04877 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| Num ^= 0 | 152 | Num > 0 | 152 | Q3-Q1 | 3 | |
| M(Sign) | 76 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 7 | |
| Sgn Rank | 5814 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 154) | 7(| 140) |
| 0(| 107) | 7(| 145) |
| 0(| 86) | 7(| 148) |
| 0(| 25) | 7(| 149) |
| 1(| 94) | 7(| 152) |

Missing Value .
 Count 2
 % Count/Nobs 1.27

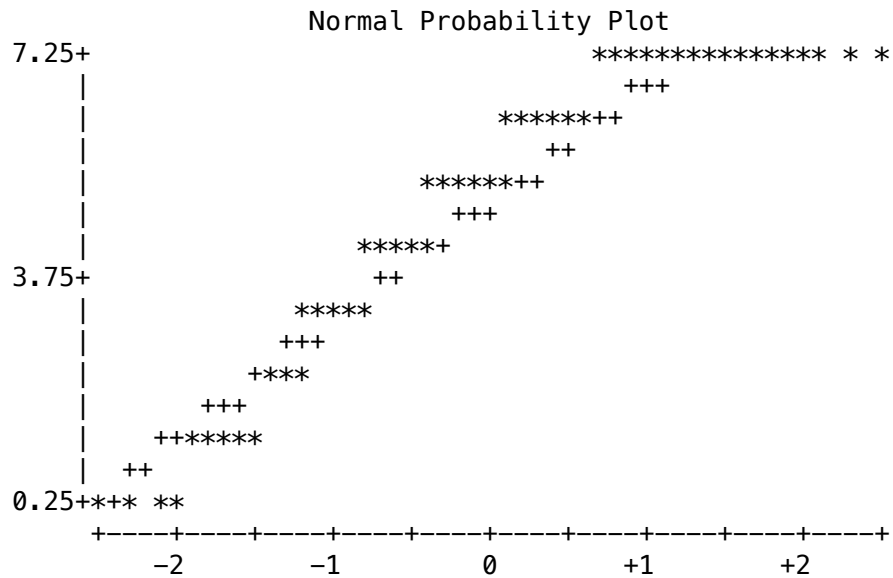


1998 82 SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- PMOPT=Rakkan -----

Univariate Procedure

Variable=AI



1998 83 SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- PMOPT=Rakkan -----

Univariate Procedure

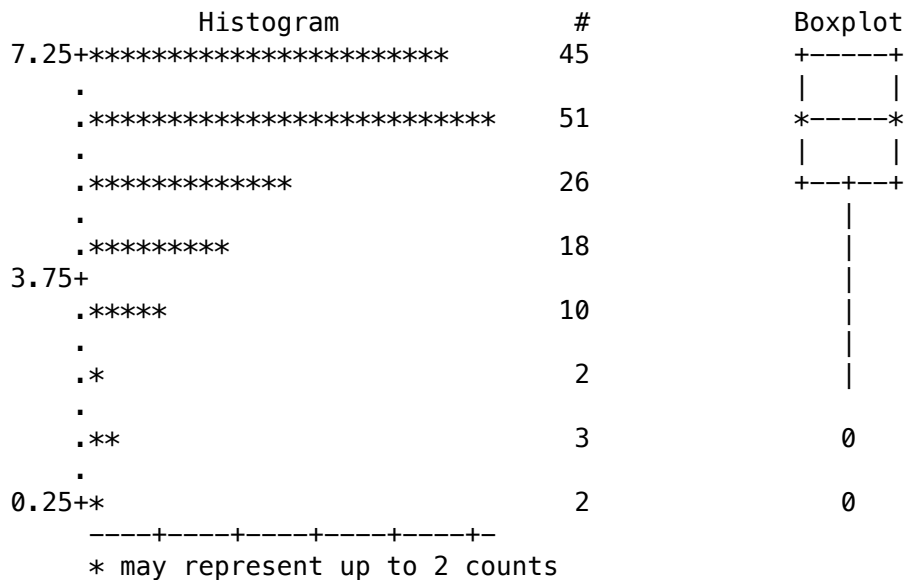
Variable=SD

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|---|-----|
| N | 157 | Sum Wgts | 157 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 5.477707 | Sum | 860 | 75% Q3 | 7 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 1.538339 | Variance | 2.366487 | 50% Med | 6 | 90% |
| 7 | | | | | | |
| Skewness | -1.30054 | Kurtosis | 1.709845 | 25% Q1 | 5 | 10% |
| 3 | | | | | | |
| USS | 5080 | CSS | 369.172 | 0% Min | 0 | 5% |
| 3 | | | | | | |
| CV | 28.08363 | Std Mean | 0.122773 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 44.61661 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| Num ^= 0 | 155 | Num > 0 | 155 | Q3-Q1 | 2 | |
| M(Sign) | 77.5 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 6 | |
| Sgn Rank | 6045 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

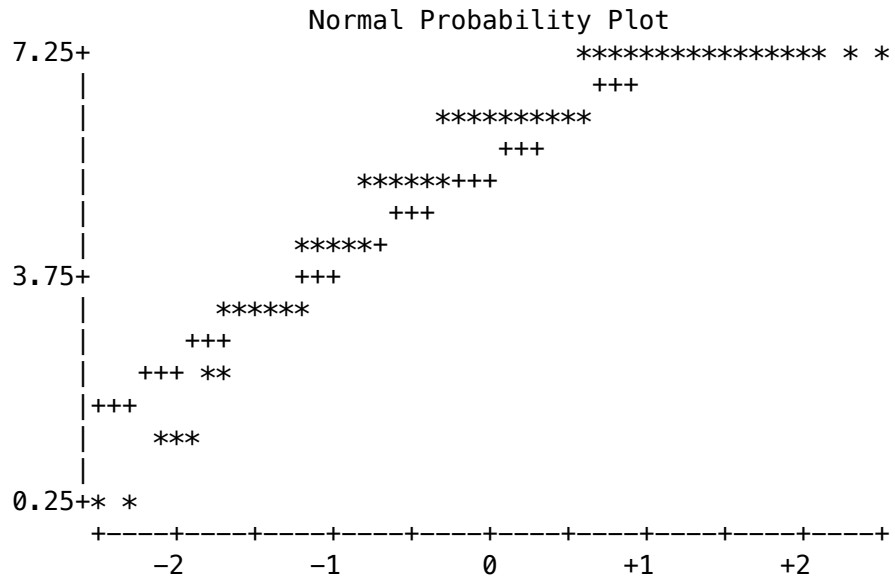
Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 154) | 7(| 145) |
| 0(| 107) | 7(| 149) |
| 1(| 157) | 7(| 151) |
| 1(| 37) | 7(| 152) |
| 1(| 30) | 7(| 153) |

Missing Value .
 Count 1
 % Count/Nobs 0.63



Variable=SD



SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

1998 85

PMOPT=Rakkan

Univariate Procedure

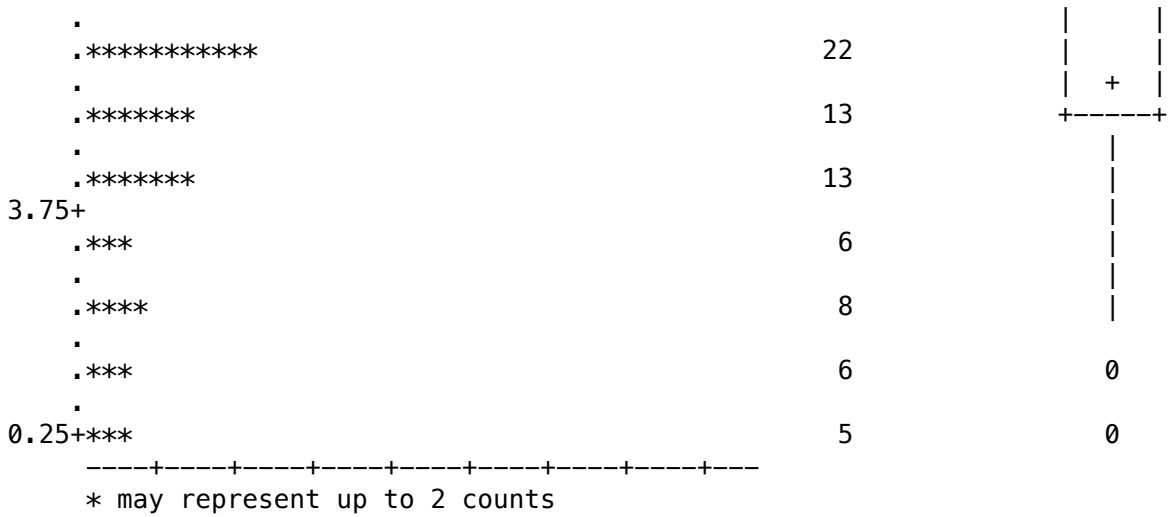
Variable=DE

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|---|-----|
| N | 158 | Sum Wgts | 158 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 5.594937 | Sum | 884 | 75% Q3 | 7 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 2.012819 | Variance | 4.051439 | 50% Med | 7 | 90% |
| 7 | | | | | | |
| Skewness | -1.3864 | Kurtosis | 0.812162 | 25% Q1 | 5 | 10% |
| 2 | | | | | | |
| USS | 5582 | CSS | 636.0759 | 0% Min | 0 | 5% |
| 1 | | | | | | |
| CV | 35.97572 | Std Mean | 0.160131 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 34.93969 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| Num ^= 0 | 153 | Num > 0 | 153 | Q3-Q1 | 2 | |
| M(Sign) | 76.5 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 7 | |
| Sgn Rank | 5890.5 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 154) | 7(| 149) |
| 0(| 150) | 7(| 151) |
| 0(| 112) | 7(| 152) |
| 0(| 107) | 7(| 153) |
| 0(| 25) | 7(| 155) |

Histogram # Boxplot
7.25+***** 85 +-----+



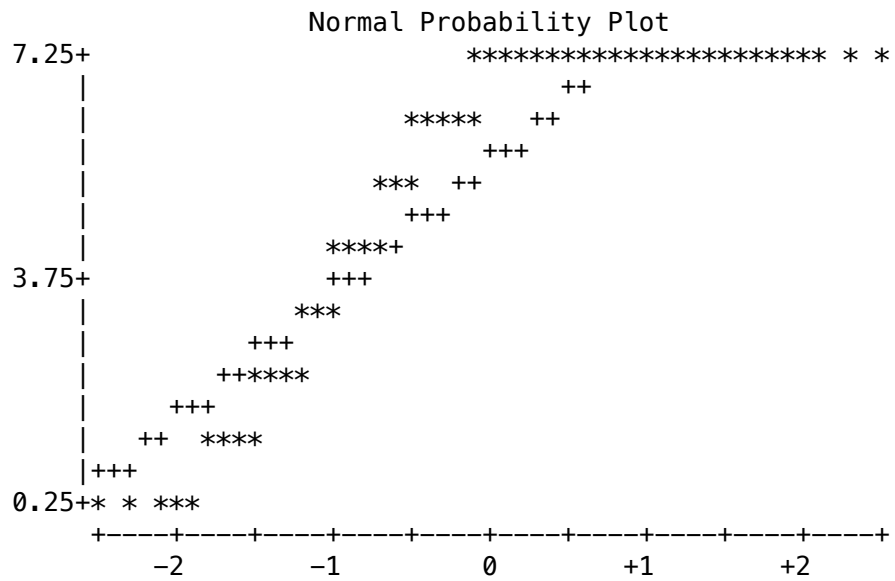
1998 86

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

PMOPT=Rakkan

Univariate Procedure

Variable=DE

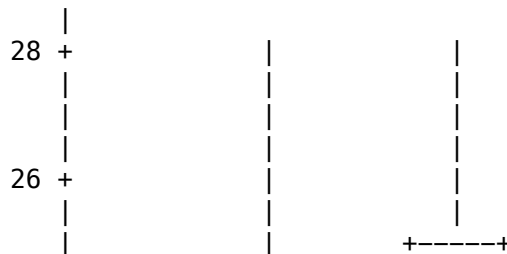


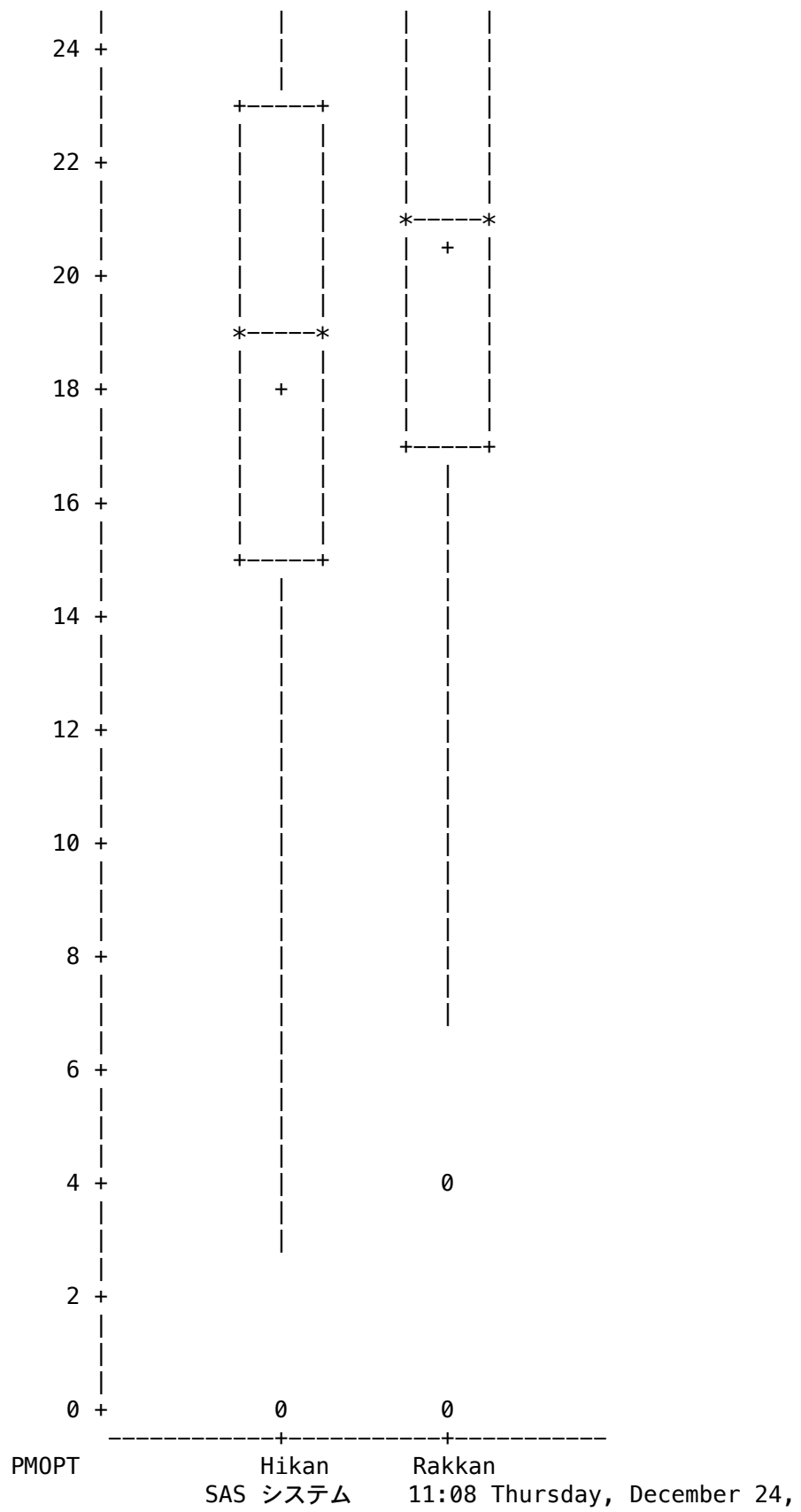
1998 87

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

Univariate Procedure
Schematic Plots

Variable=GHQ

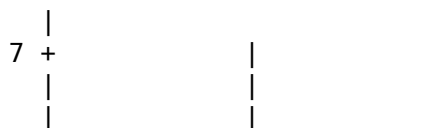


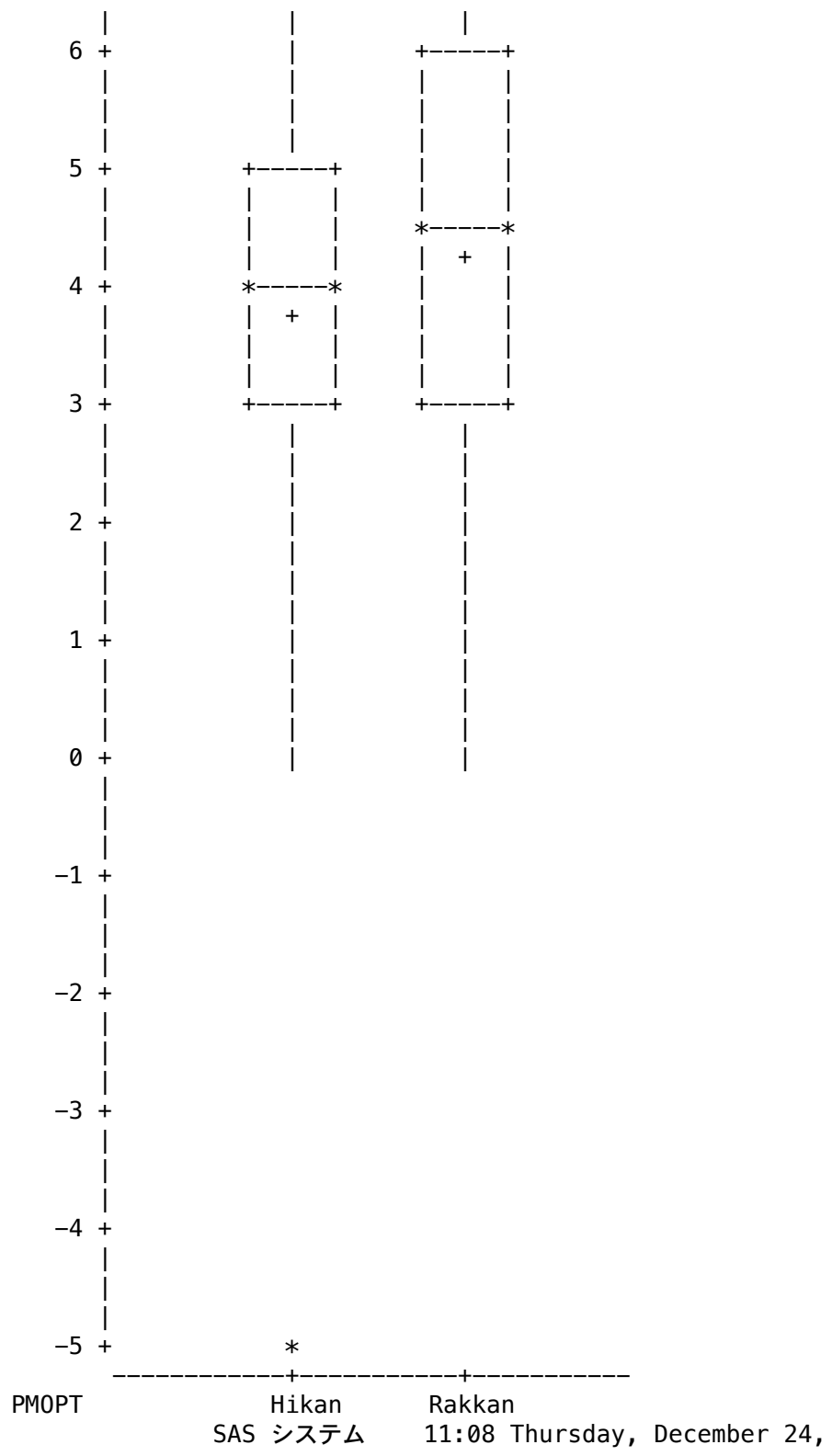


1998 88

Univariate Procedure
Schematic Plots

Variable=SS

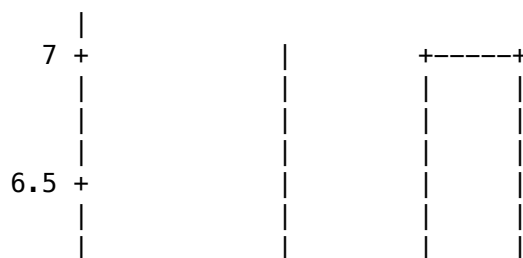


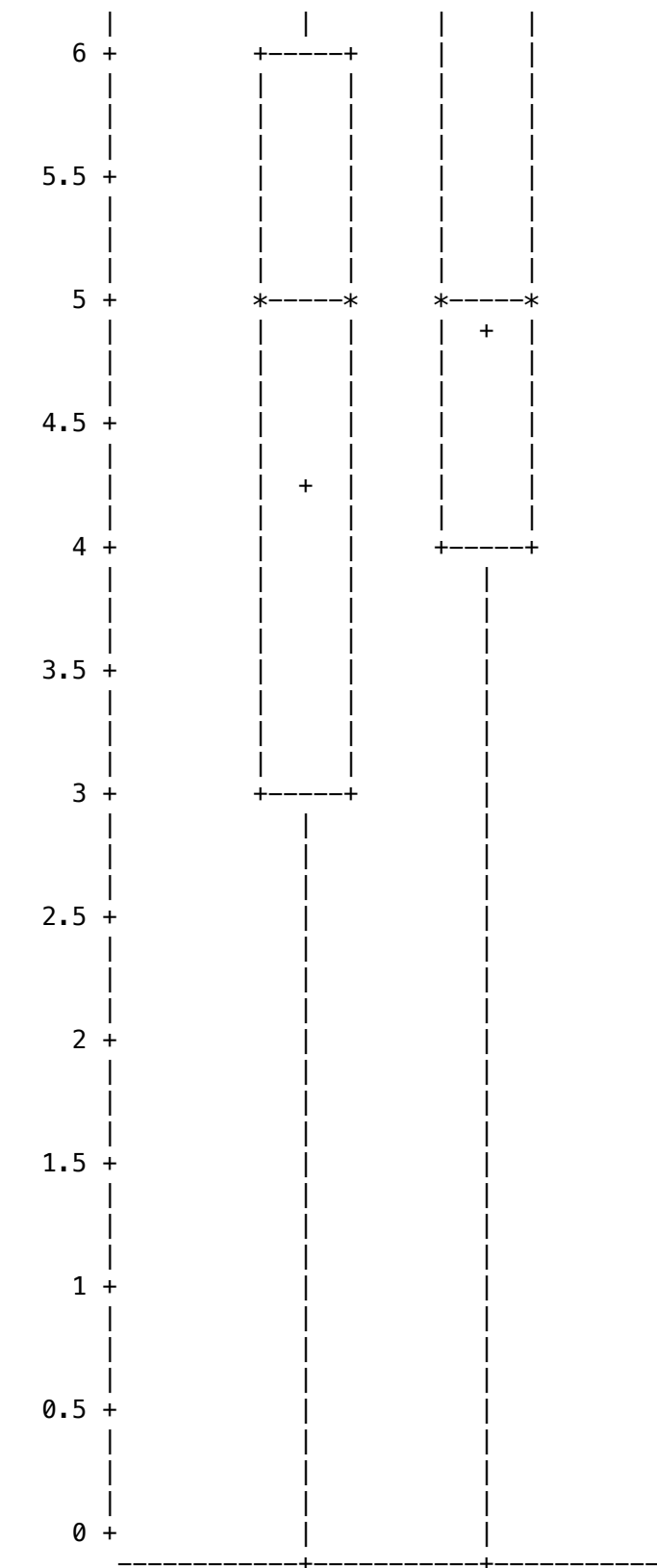


1998 89

Univariate Procedure
Schematic Plots

Variable=AI



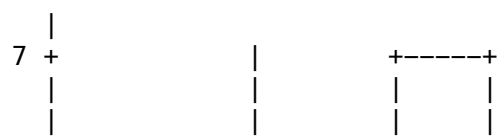


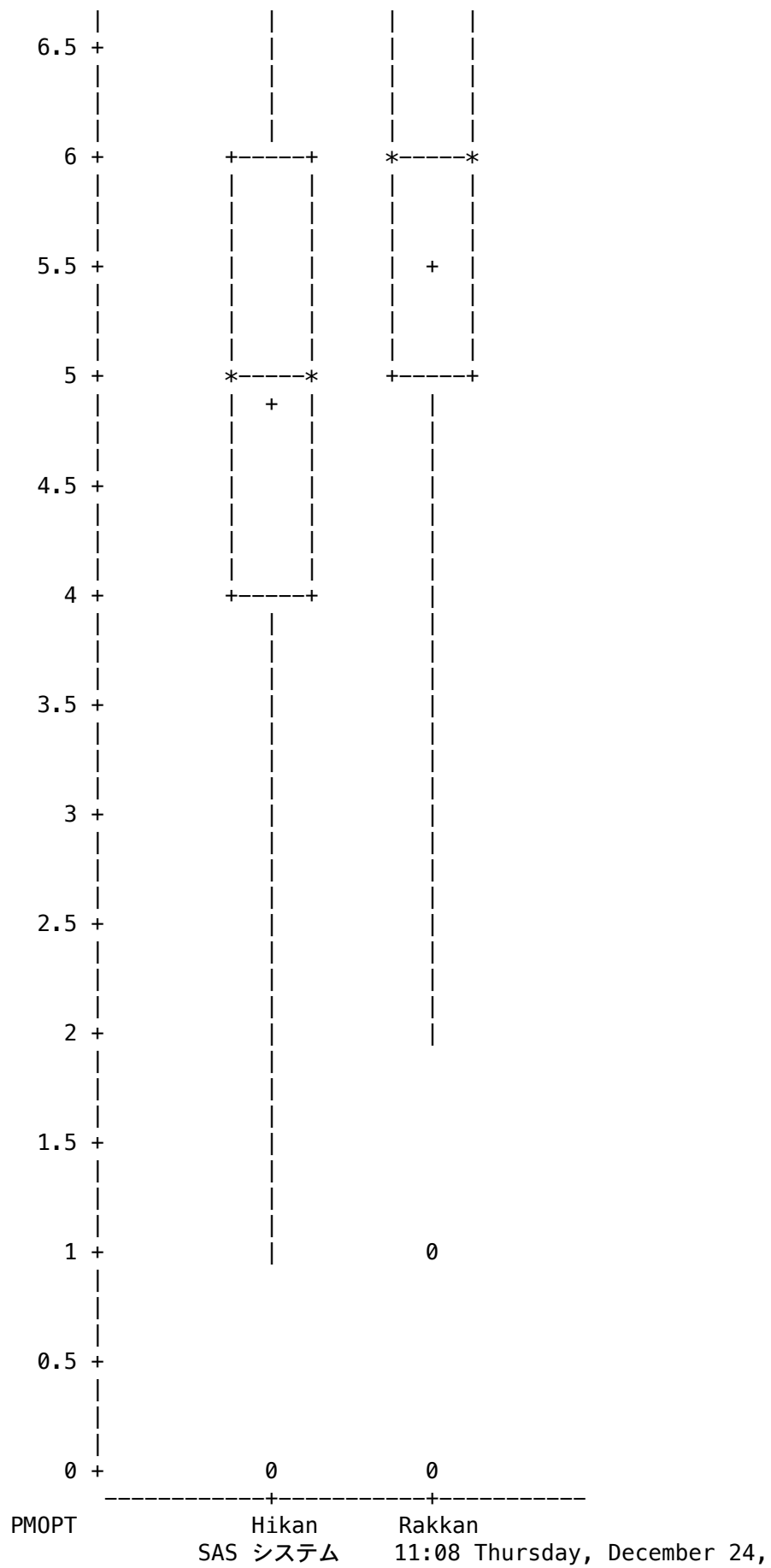
PMOPT Hikan Rakkan
 SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

1998 90

Univariate Procedure
 Schematic Plots

Variable=SD

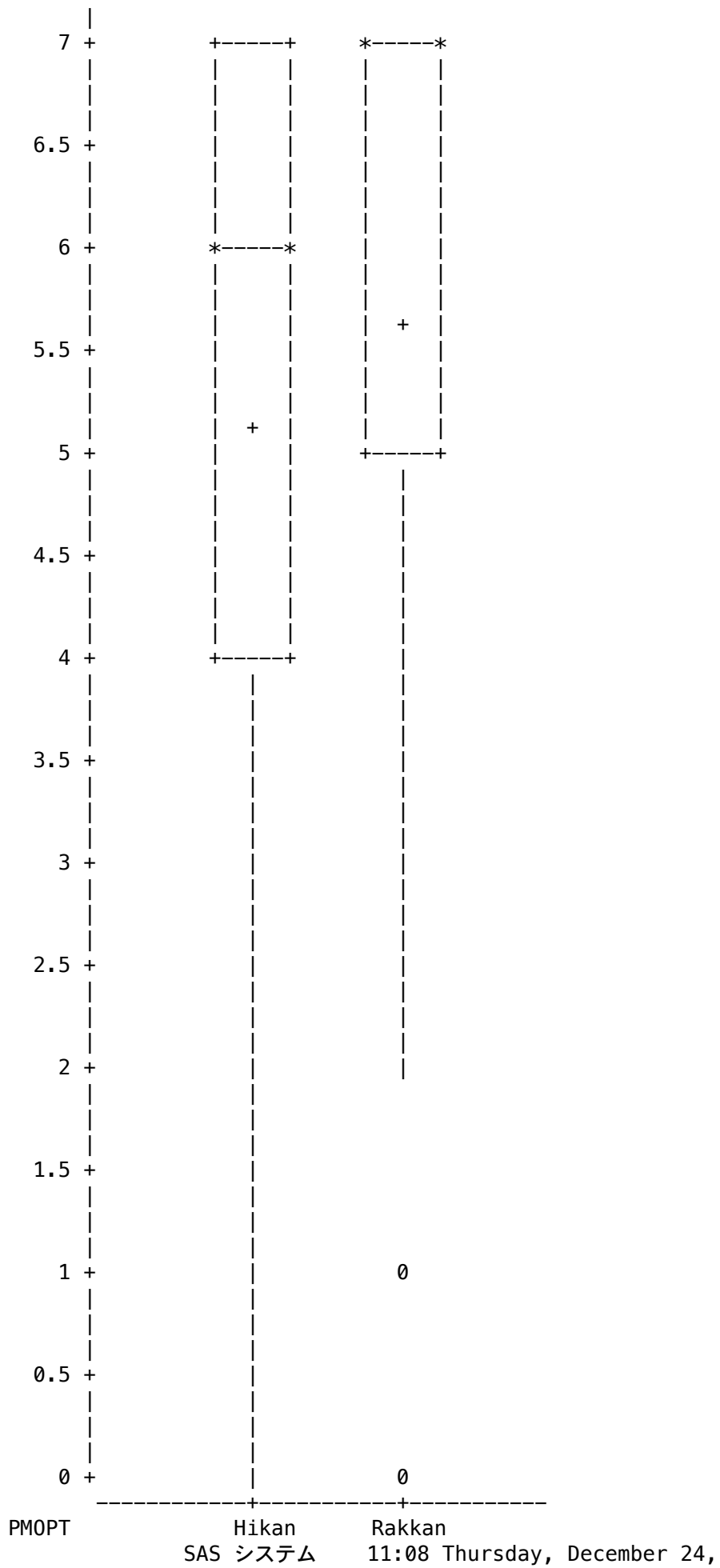




1998 91

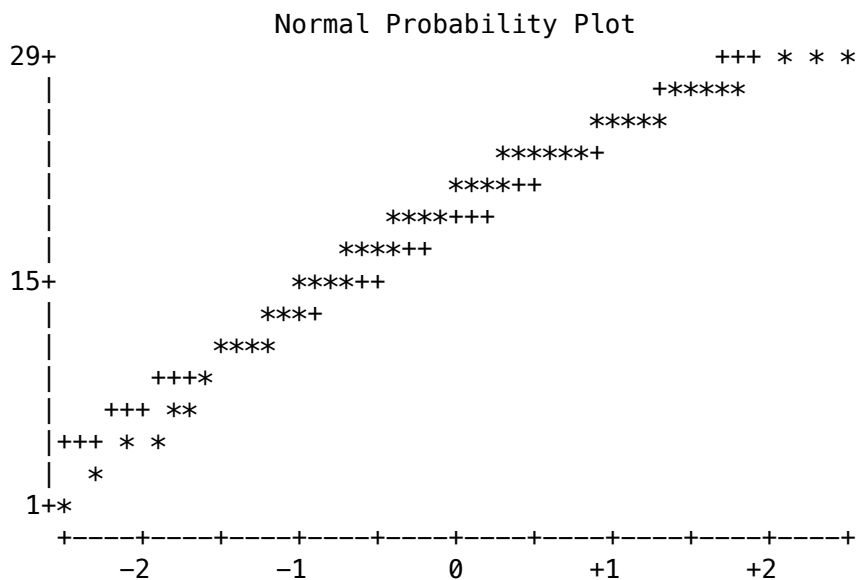
Univariate Procedure
Schematic Plots

Variable=DE



Univariate Procedure

Variable=GHQ



1998 94

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

OPTPES=Hikan

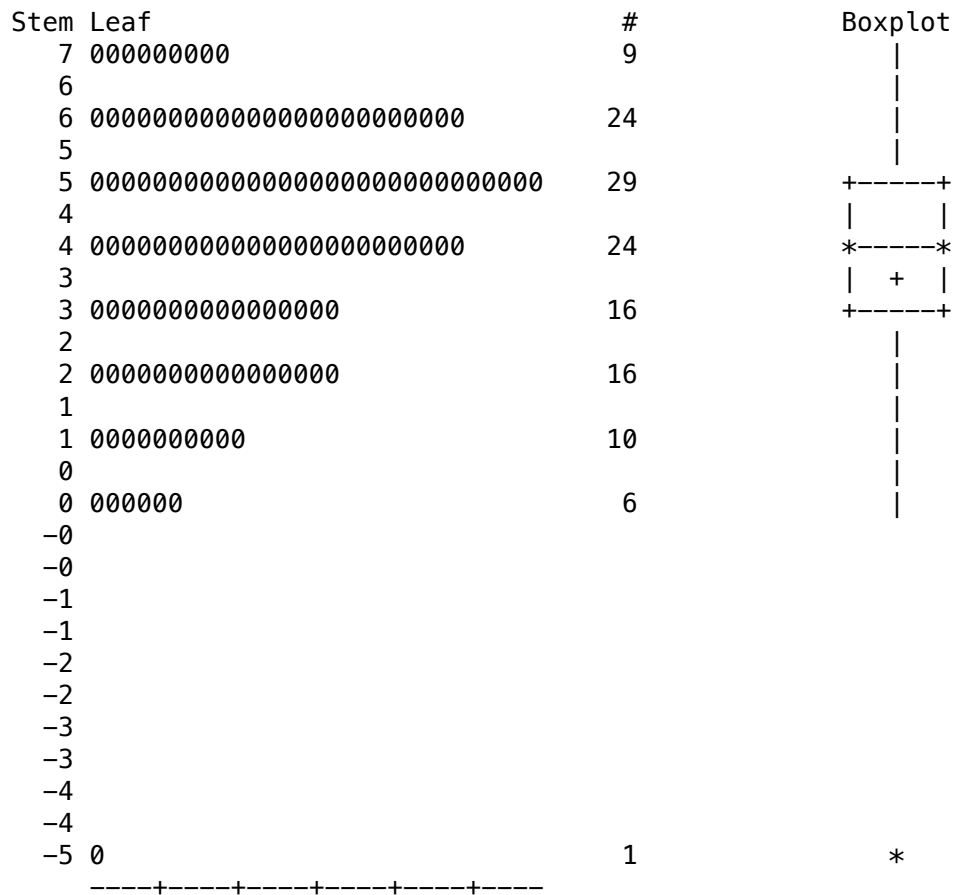
Univariate Procedure

Variable=SS

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|----|-----|
| N | 135 | Sum Wgts | 135 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 3.948148 | Sum | 533 | 75% Q3 | 5 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 2.030802 | Variance | 4.124157 | 50% Med | 4 | 90% |
| 6 | | | | | | |
| Skewness | -0.88364 | Kurtosis | 1.570378 | 25% Q1 | 3 | 10% |
| 1 | | | | | | |
| USS | 2657 | CSS | 552.637 | 0% Min | -5 | 5% |
| 0 | | | | | | |
| CV | 51.43683 | Std Mean | 0.174784 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 22.58878 | Pr> T | 0.0001 | Range | 12 | |
| Num ^= 0 | 129 | Num > 0 | 128 | Q3-Q1 | 2 | |
| M(Sign) | 63.5 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 5 | |
| Sgn Rank | 4111 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| -5(| 82) | 7(| 42) |
| 0(| 129) | 7(| 45) |
| 0(| 119) | 7(| 52) |
| 0(| 99) | 7(| 78) |
| 0(| 89) | 7(| 120) |



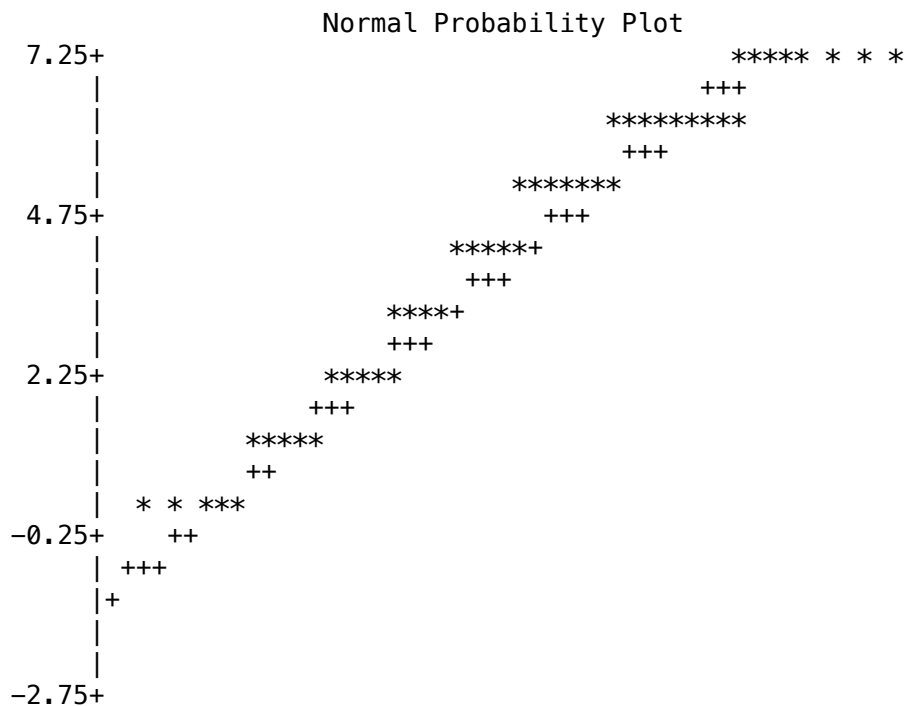
1998 95

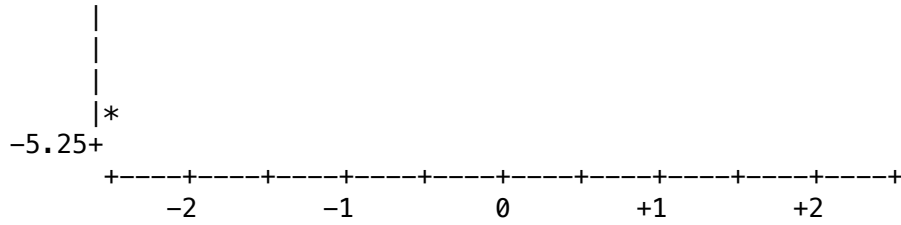
SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- OPTPES=Hikan

Univariate Procedure

Variable=SS





----- OPTPES=Hikan

Univariate Procedure

Variable=AI

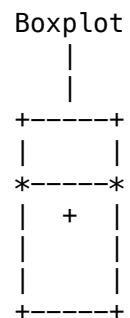
| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|---|-----|
| N | 133 | Sum Wgts | 133 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 4.451128 | Sum | 592 | 75% Q3 | 6 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 1.932443 | Variance | 3.734336 | 50% Med | 5 | 90% |
| 7 | | | | | | |
| Skewness | -0.57697 | Kurtosis | -0.45571 | 25% Q1 | 3 | 10% |
| 2 | | | | | | |
| USS | 3128 | CSS | 492.9323 | 0% Min | 0 | 5% |
| 1 | | | | | | |
| CV | 43.41468 | Std Mean | 0.167564 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 26.56374 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| Num ^= 0 | 128 | Num > 0 | 128 | Q3-Q1 | 3 | |
| M(Sign) | 64 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 5 | |
| Sgn Rank | 4128 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 129) | 7(| 105) |
| 0(| 83) | 7(| 108) |
| 0(| 72) | 7(| 110) |
| 0(| 10) | 7(| 120) |
| 0(| 9) | 7(| 122) |

Missing Value .
Count 2
% Count/Nobs 1.48

| Stem | Leaf | # |
|------|--------------------------------|----|
| 7 | 00000000000000000000 | 21 |
| 6 | | |
| 6 | 00000000000000000000 | 23 |
| 5 | | |
| 5 | 000000000000000000000000000000 | 29 |
| 4 | | |
| 4 | 0000000000000000000000000000 | 25 |
| 3 | | |
| 3 | 0000000000 | 10 |



| | | | | | |
|----------|------|---------|--------|-------|---|
| Num ^= 0 | 132 | Num > 0 | 132 | Q3-Q1 | 2 |
| M(Sign) | 66 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 6 |
| Sgn Rank | 4389 | Pr>= S | 0.0001 | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 113) | 7(| 111) |
| 0(| 72) | 7(| 116) |
| 0(| 70) | 7(| 120) |
| 1(| 134) | 7(| 121) |
| 1(| 129) | 7(| 122) |

| Stem | Leaf | # | Boxplot |
|------|--|----|---------|
| 7 | 00000000000000000000000000000000 | 27 | |
| 6 | | | |
| 6 | 00000000000000000000000000000000000000 | 38 | +-----+ |
| 5 | | | |
| 5 | 00000000000000000000000000000000 | 24 | *-----* |
| 4 | | | |
| 4 | 00000000000000000000000000000000 | 24 | +-----+ |
| 3 | | | |
| 3 | 0000000000 | 9 | |
| 2 | | | |
| 2 | 000000 | 6 | |
| 1 | | | |
| 1 | 0000 | 4 | |
| 0 | | | |
| 0 | 000 | 3 | 0 |

-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----

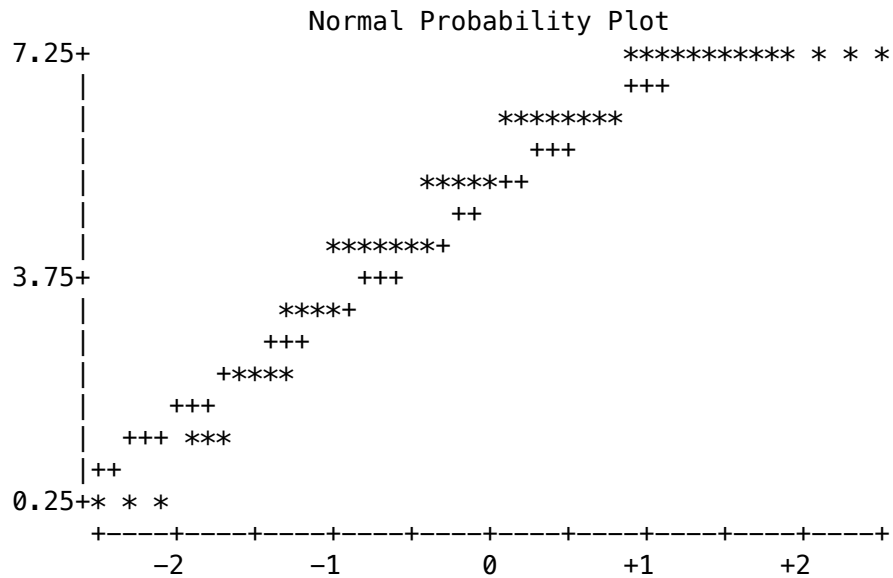
1998 99

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- OPTPES=Hikan -----

Univariate Procedure

Variable=SD



----- OPTPES=Hikan

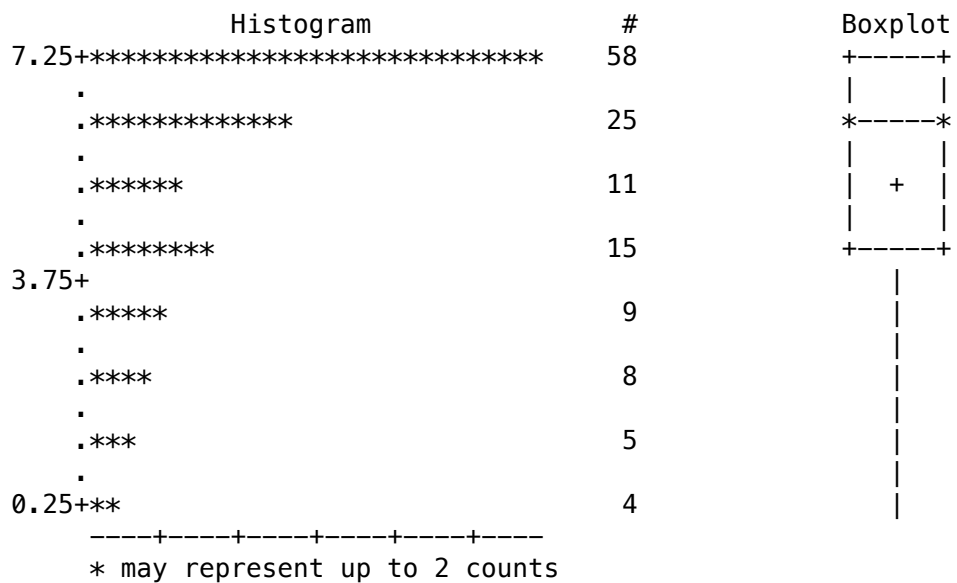
Univariate Procedure

Variable=DE

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|---|-----|
| N | 135 | Sum Wgts | 135 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 5.325926 | Sum | 719 | 75% Q3 | 7 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 2.017941 | Variance | 4.072084 | 50% Med | 6 | 90% |
| 7 | | | | | | |
| Skewness | -1.08058 | Kurtosis | 0.093978 | 25% Q1 | 4 | 10% |
| 2 | | | | | | |
| USS | 4375 | CSS | 545.6593 | 0% Min | 0 | 5% |
| 1 | | | | | | |
| CV | 37.88901 | Std Mean | 0.173677 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 30.66575 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| Num ^= 0 | 131 | Num > 0 | 131 | Q3-Q1 | 3 | |
| M(Sign) | 65.5 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 7 | |
| Sgn Rank | 4323 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

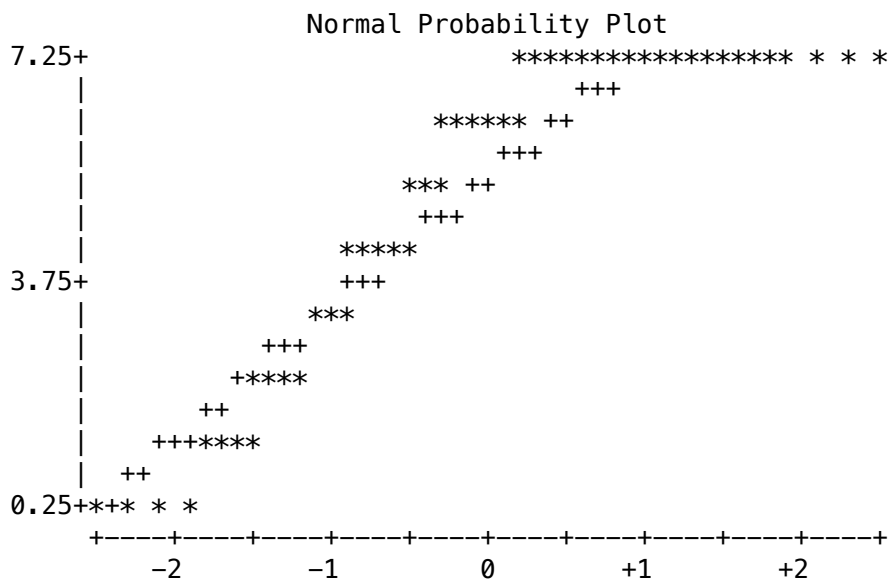
| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 107) | 7(| 120) |
| 0(| 72) | 7(| 122) |
| 0(| 70) | 7(| 126) |
| 0(| 21) | 7(| 128) |
| 1(| 92) | 7(| 131) |



----- OPTPES=Hikan

Univariate Procedure

Variable=DE



SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

1998 102

----- OPTPES=Rakkan

Univariate Procedure

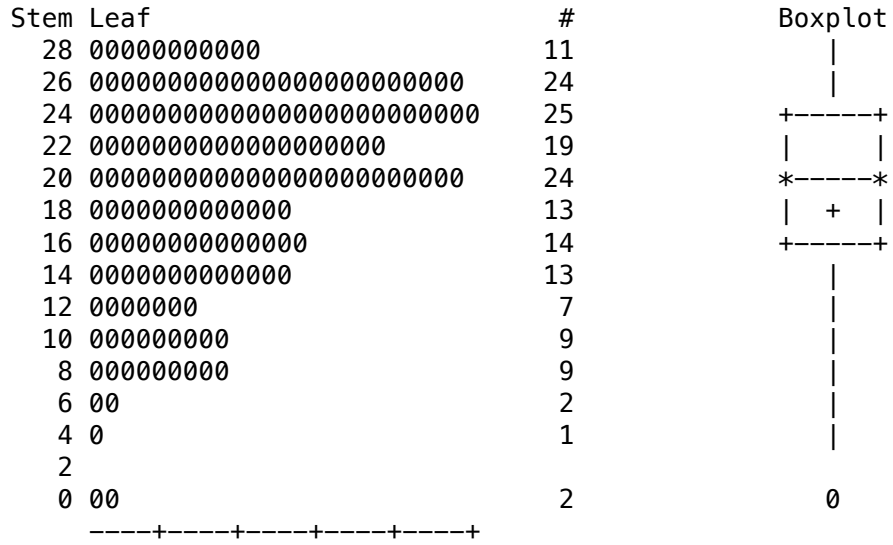
Variable=GHQ

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|----|-----|
| N | 173 | Sum Wgts | 173 | 100% Max | 28 | 99% |
| 28 | | | | | | |
| Mean | 19.69364 | Sum | 3407 | 75% Q3 | 25 | 95% |
| 28 | | | | | | |
| Std Dev | 6.263016 | Variance | 39.22537 | 50% Med | 21 | 90% |
| 27 | | | | | | |
| Skewness | -0.73531 | Kurtosis | -0.0308 | 25% Q1 | 16 | 10% |
| 10 | | | | | | |
| USS | 73843 | CSS | 6746.763 | 0% Min | 0 | 5% |
| 9 | | | | | | |
| CV | 31.80222 | Std Mean | 0.476168 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 41.35858 | Pr> T | 0.0001 | Range | 28 | |
| Num ^= 0 | 171 | Num > 0 | 171 | Q3-Q1 | 9 | |
| M(Sign) | 85.5 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 24 | |
| Sgn Rank | 7353 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 173) | 28(| 125) |
| 0(| 120) | 28(| 127) |
| 4(| 23) | 28(| 134) |
| 6(| 34) | 28(| 158) |
| 7(| 36) | 28(| 163) |

Missing Value .
 Count 3
 % Count/Nobs 1.70



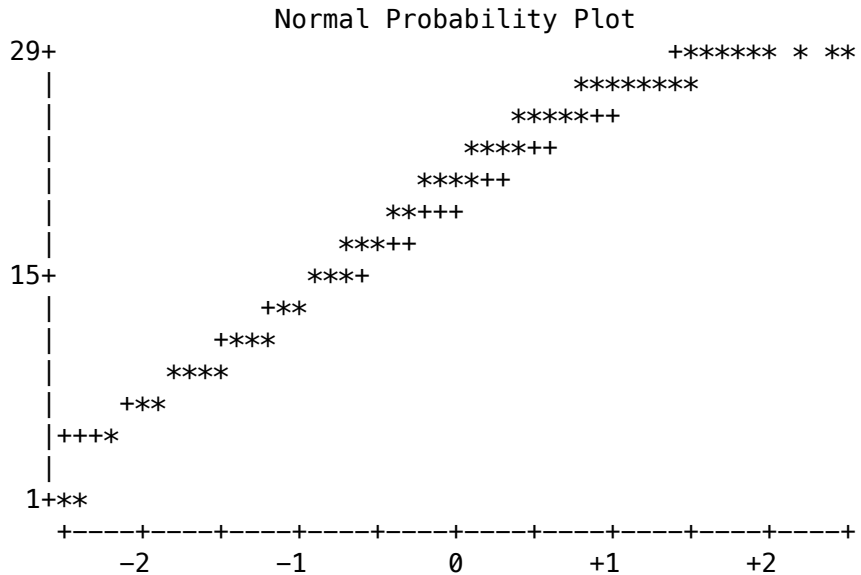
1998 103

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- OPTPES=Rakkan

Univariate Procedure

Variable=GHQ



1998 104

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- OPTPES=Rakkan

Univariate Procedure


```

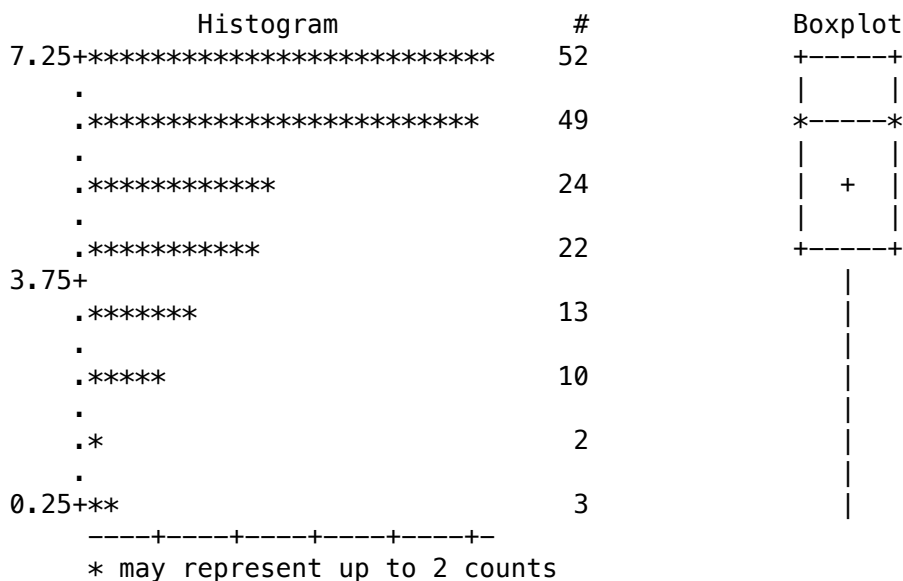
7
Skewness -1.02974 Kurtosis 0.443641 25% Q1 4 10%
3
USS 5423 CSS 512.5486 0% Min 0 5%
2
CV 32.40046 Std Mean 0.12974 1%
0
T:Mean=0 40.82891 Pr>|T| 0.0001 Range 7
Num ^= 0 172 Num > 0 172 Q3-Q1 3
M(Sign) 86 Pr>=|M| 0.0001 Mode 7
Sgn Rank 7439 Pr>=|S| 0.0001

```

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 173) | 7(| 168) |
| 0(| 120) | 7(| 170) |
| 0(| 34) | 7(| 171) |
| 1(| 36) | 7(| 172) |
| 1(| 28) | 7(| 176) |

Missing Value .
Count 1
% Count/Nobs 0.57



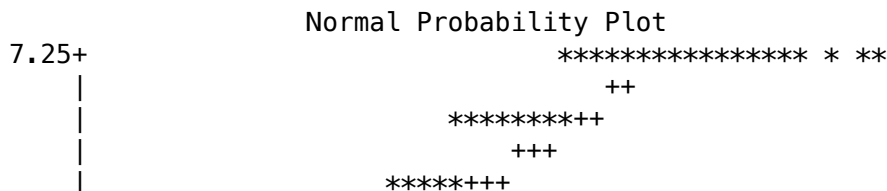
1998 109

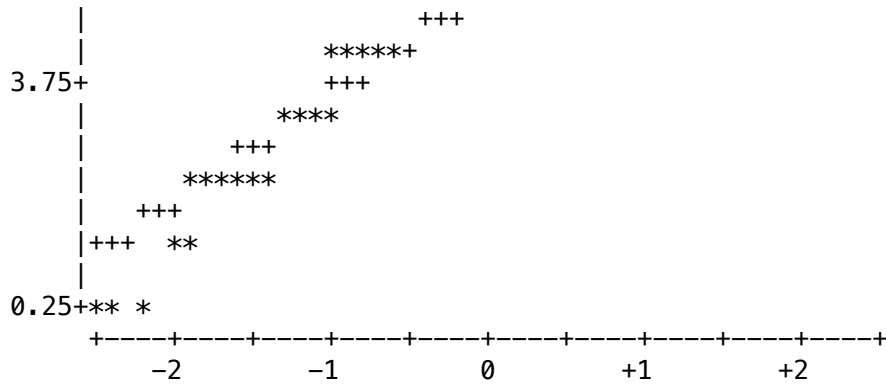
SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- OPTPES=Rakkan

Univariate Procedure

Variable=SD





SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

1998 110

----- OPTPES=Rakkan

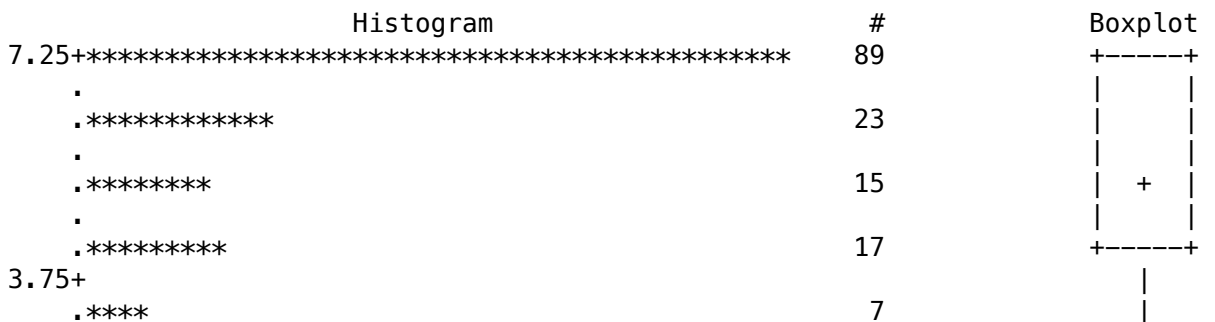
Univariate Procedure

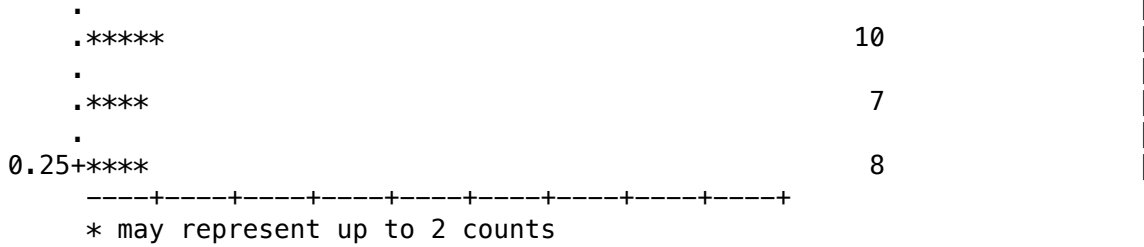
Variable=DE

| Moments | | | | Quantiles(Def=5) | | |
|----------|----------|----------|----------|------------------|---|-----|
| N | 176 | Sum Wgts | 176 | 100% Max | 7 | 99% |
| 7 | | | | | | |
| Mean | 5.409091 | Sum | 952 | 75% Q3 | 7 | 95% |
| 7 | | | | | | |
| Std Dev | 2.133469 | Variance | 4.551688 | 50% Med | 7 | 90% |
| 7 | | | | | | |
| Skewness | -1.21757 | Kurtosis | 0.293356 | 25% Q1 | 4 | 10% |
| 2 | | | | | | |
| USS | 5946 | CSS | 796.5455 | 0% Min | 0 | 5% |
| 1 | | | | | | |
| CV | 39.44228 | Std Mean | 0.160816 | | | 1% |
| 0 | | | | | | |
| T:Mean=0 | 33.63523 | Pr> T | 0.0001 | Range | 7 | |
| Num ^= 0 | 168 | Num > 0 | 168 | Q3-Q1 | 3 | |
| M(Sign) | 84 | Pr>= M | 0.0001 | Mode | 7 | |
| Sgn Rank | 7098 | Pr>= S | 0.0001 | | | |

Extremes

| Lowest | Obs | Highest | Obs |
|--------|------|---------|------|
| 0(| 173) | 7(| 170) |
| 0(| 169) | 7(| 171) |
| 0(| 159) | 7(| 172) |
| 0(| 155) | 7(| 174) |
| 0(| 124) | 7(| 176) |





10
7
8

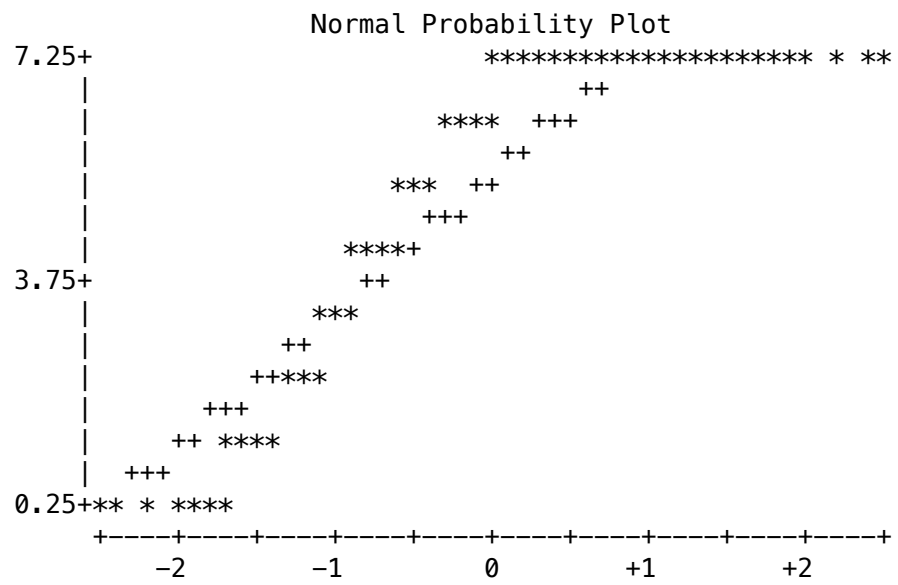
1998 111

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

----- OPTPES=Rakkan

Univariate Procedure

Variable=DE

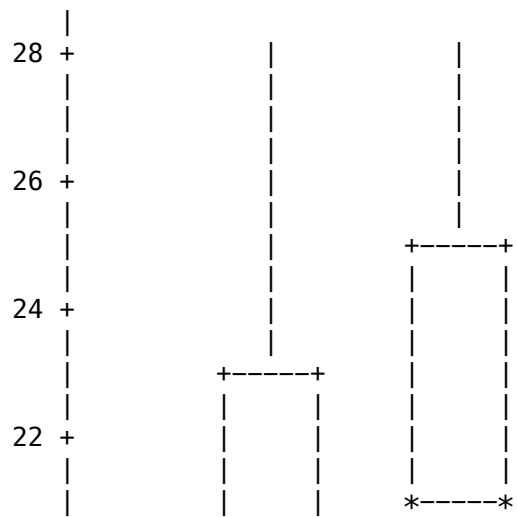


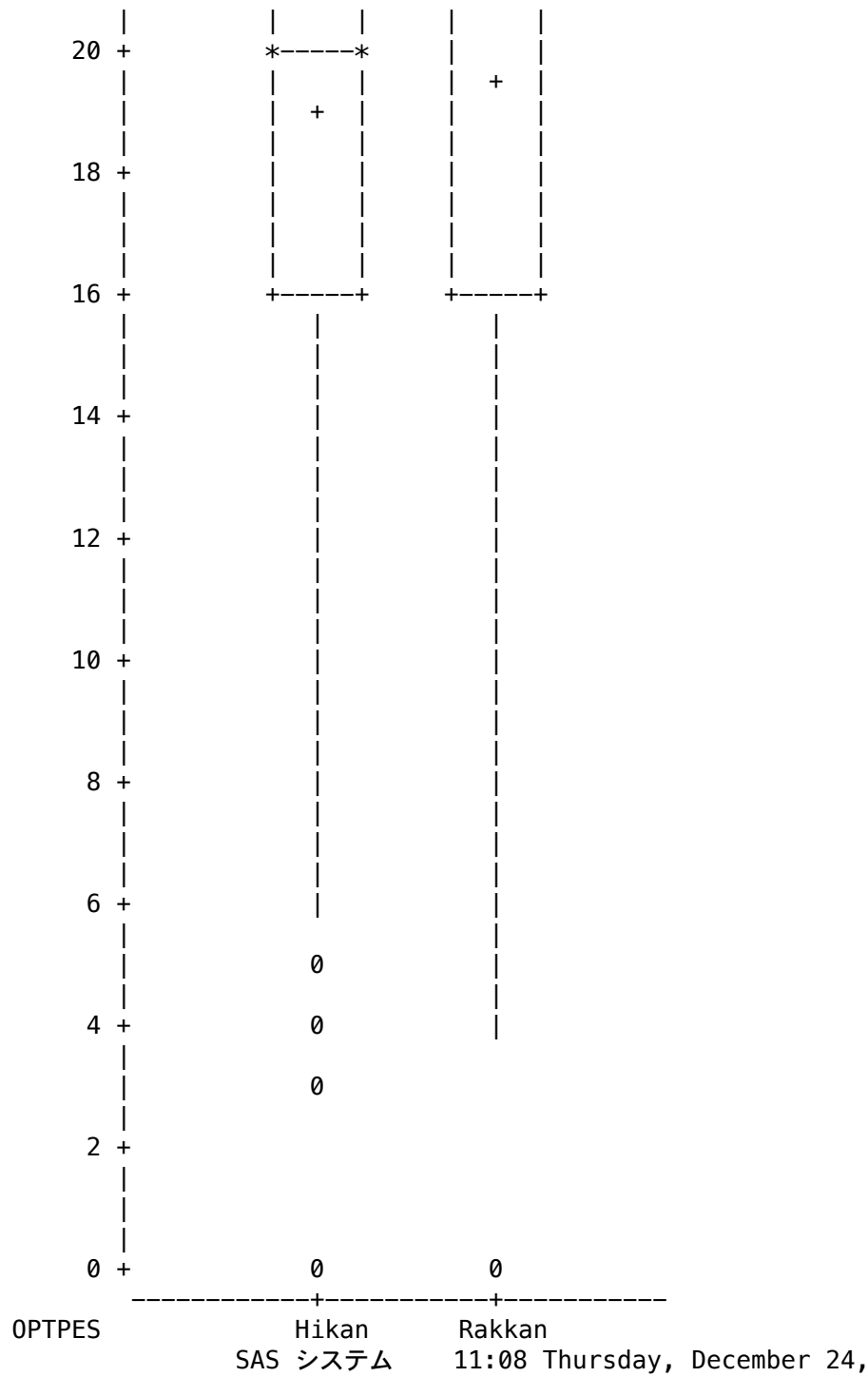
1998 112

SAS システム 11:08 Thursday, December 24,

Univariate Procedure
Schematic Plots

Variable=GHQ

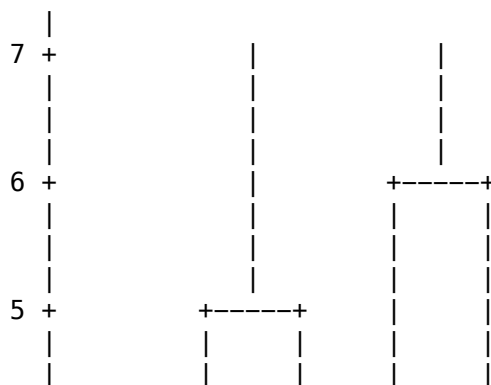


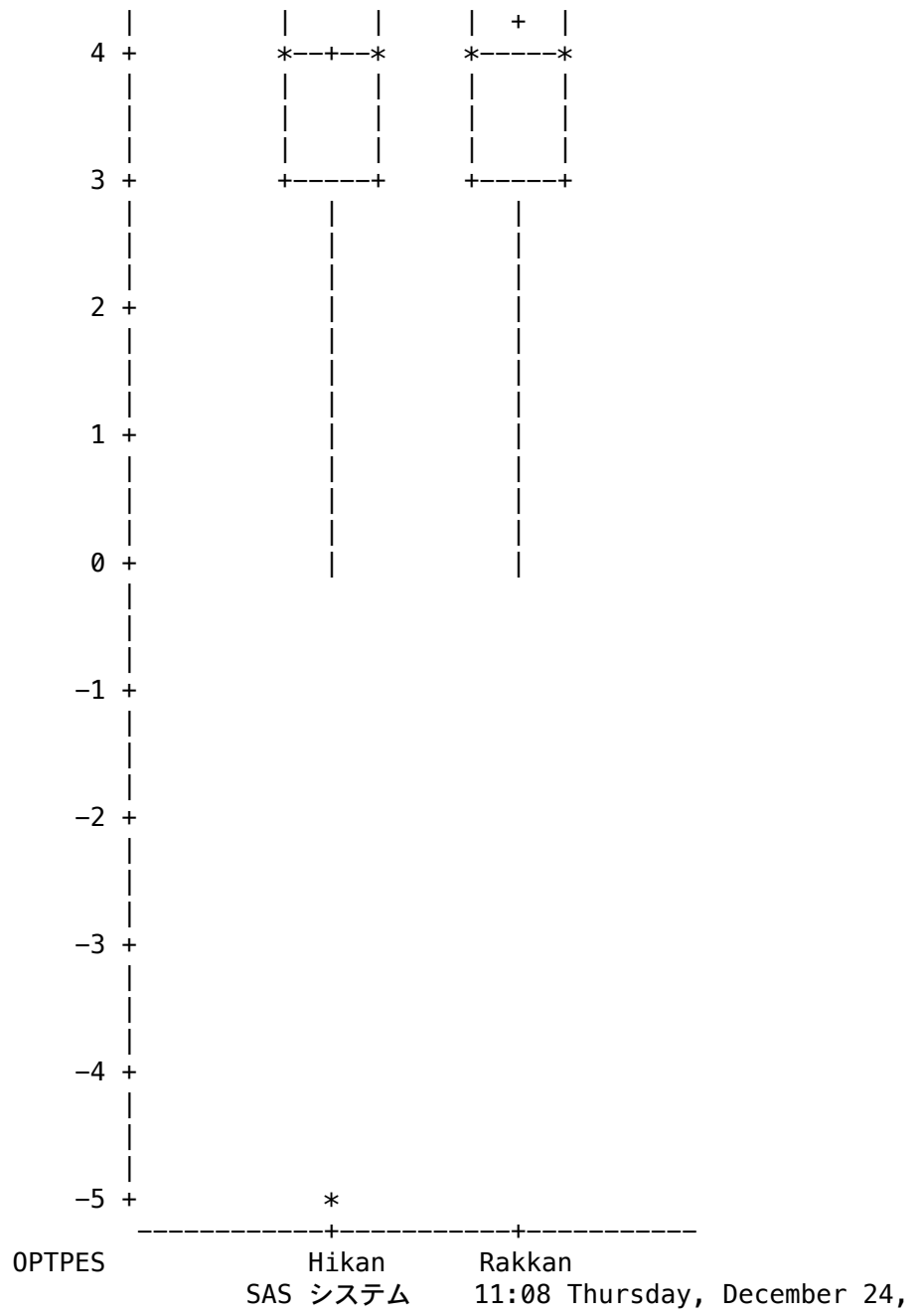


1998 113

Univariate Procedure
Schematic Plots

Variable=SS

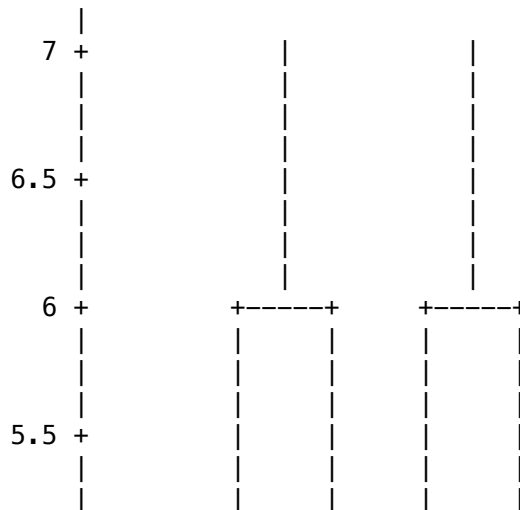


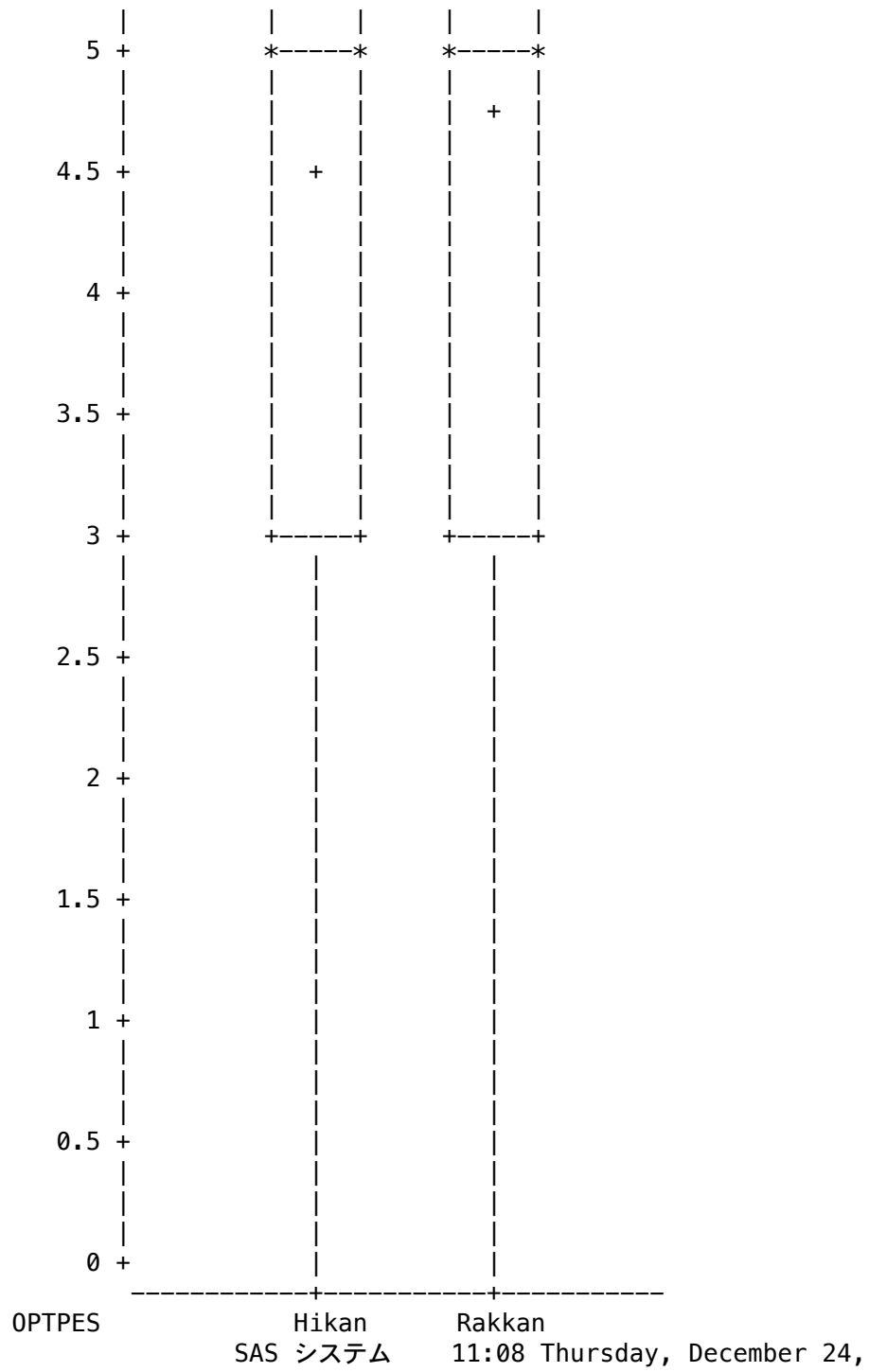


1998 114

Univariate Procedure
Schematic Plots

Variable=AI

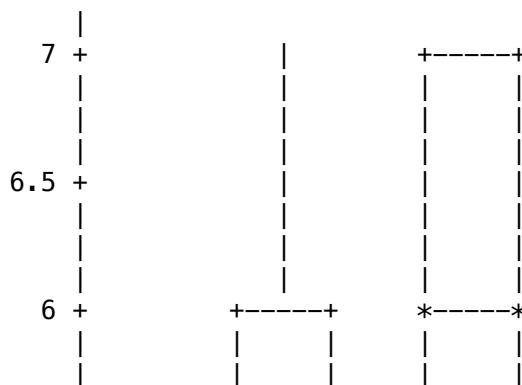


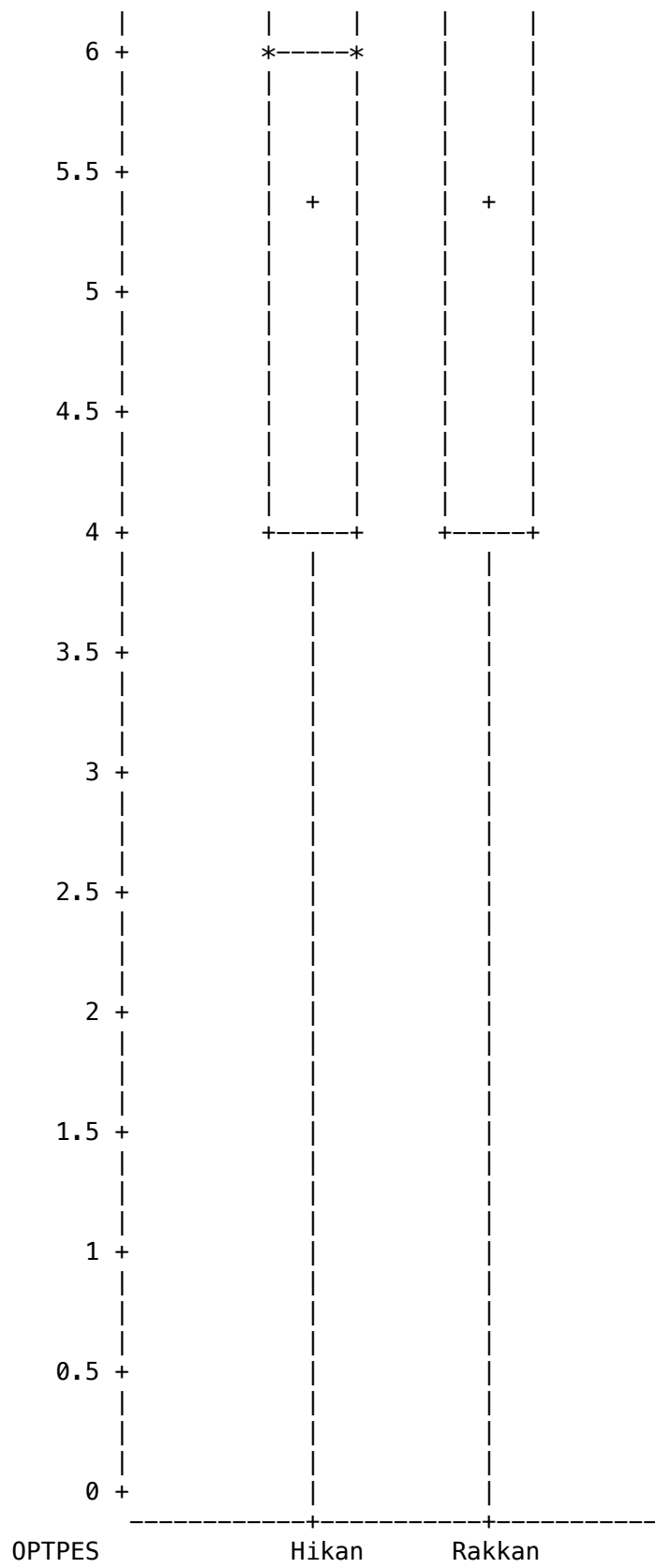


1998 115

Univariate Procedure
Schematic Plots

Variable=SD





学年（ 年生） 性別（男 / 女）

もし次のようなことが起きたら、あなたはア・イのどちらのことを考えますか。

近いと思う方の記号に○をつけて下さい。どちらを選んでもまちがいということはありません。全部の質問にもれなく答えてください。

1. 友達とトランプをして勝った。

ア. 自分が強いからだ。

イ. 友達が下手だからだ。

2. 発表会で指揮者をして成功した。

ア. 自分に実力があったからだ。

イ. 他のみんなの協力のおかげだ。

3. 好きな野球チームが優勝する。

ア. あのチームは強いからだ。

イ. 相手チームの調子が悪かったからだ。

4. 新しいクラスでみんなと仲良くなれた。

ア. 自分は人に好かれやすい。

イ. 今度のクラスメイトは良い人ばかりだ。

5. 担任の先生が最近優しくしてくれる。

ア. 先生はきげんのよいときは優しい。

イ. 先生は優しい人だ。

6. 大切にしていた動物に子どもが生まれた。

ア. 自分が上手に世話をしたからだ。

イ. 大きくなったから当然のことだ。

7. 学校で仲はずれにされる。

ア. 仲間はずれにするみんなが悪い。

イ. 自分が悪い子だから嫌われたんだ。

8. 友達から急に口をきいてもらえなくなる。

ア. 自分が何か友達の気にさわることをしたからだ。

イ. 自分のことが、きれいになったからだ。

9. 難しいゲームで勝った。

ア. 自分は近頃ゲームを上手にできる。

イ. 自分は人よりゲームがうまい。

10. 答えをまちがい、大恥をかく。

ア. 自分の勉強不足が原因だ。

イ. あんな問題、誰もわかるはずがない。

11. 最近、学校生活が楽しい。

ア. 良いことが起きると学校は楽しい。

イ. 学校は楽しいところだ。

12. 学校の運動会で自分のクラスが優勝する。

ア. 自分のクラスはすごいクラスだ。

イ. 自分のクラスはスポーツがよくできる。

13. カッターで指を切ってしまう。

ア. 自分はカッターを使うことに慣れていなかった。

イ. カッターが切れにくかったからだ。

14. 友達のゲームを壊してしまう。

ア. 自分が不注意だったからだ。

イ. そのゲームは壊れかけていた。

15. 仲の良い友人が転校してしまう。

ア. 転校はよくあることだ。

イ. 仕方のない事情があるからだ。

16. がんばって、きれいだった食べ物を食べられるようになった。

ア. 自分は好き嫌いをなおすことができる。

イ. 自分は何でもやればできる。

17. 修学旅行でケガをした。

ア. 修学旅行でははめを外してしまう。

イ. 自分はよくケガをする。

18. 初対面の人と話して、とても楽しかった。

ア. 自分はその人と気が合う。

イ. 自分は誰とでも楽しく話せる。

19. 計算ミスで答えをまちがえた。

ア. あの時はうっかりしていた。

イ. 自分はおっちょこちょいだ。

20. まちがい電話をしてしまう。

ア. 自分は電話番号を覚えるのが苦手だ。

イ. 今回は押しまちがえたのだ。

21. 階段でつまづいた。

ア. 階段は危ない。

イ. あの階段はつまづきやすい。

22. 大切な友人と大げんかをして、長い間仲直りができない。

ア. その友人とは性格が合わない。

イ. その友人は、いじっぱりだ。

23. 授業で分からないところがある。

ア. 私はいつも理解することが苦手だ。

イ. 今日の授業はむずかしすぎる。

24. 今日、学校でよいことがたくさん起こった。

ア. 今日はたまたま偶然が重なった。

イ. 学校はたいてい楽しいところだ。

では次に、以下の質問を読んで、最も近いと思う答えを○で囲んでください。この質問は、ずっと前のことではなく、この数週間の状態についてです。全部の質問にもれなく答えてください。

1 気分や健康状態は
非常に

| | | |
|------|------|---------|
| よかった | いつもと | 悪かった |
| | | 変わらなかった |
| 悪かった | | |

2 疲労回復剤 (ドリンク、ビタミン剤)
たびたび

を飲みたいと思ったことは

| | | |
|------|------|-----|
| まったく | あまり | あった |
| なかった | なかった | |
| あった | | |

3 元気がなく疲れたと感じたことは
たびたび

| | | |
|------|------|------|
| まったく | あまり | あった |
| | なかった | なかった |
| あった | | |

4 病気だと感じたことは
たびたび

| | | |
|------|------|------|
| まったく | あまり | あった |
| | なかった | なかった |
| あった | | |

5 頭痛がしたことは
た

| | | |
|------|------|------|
| まったく | あまり | あつ |
| | なかった | なかった |
| あった | | |

6 頭が重いように感じたことは
たびたび

まったく

あまり

あった

あった

なかった

なかった

7 体がほてったり、
あった たびたび

まったく

あまり

寒気がしたことは

あった

なかった

なかった

8 心配ごとがあって、
た たびたび

まったく

あまり

あつ

よく眠れないようなことは

あった

なかった

なかった

9 夜中に目を覚ますことは
たびたび

まったく

あまり

あった

あった

なかった

なかった

10 いつもより、いそがしくて
まったく

たびたび

いつもと

なかった

活動的な生活を送ることが

なかった

あった

変わらなかった

11 いつもより、何かをするのに
たびたび

まったく

いつもと

あった

よけいに時間がかかることが

あった

なかった

変わらなかった

12 いつもより、すべてが

たびたび

いつもと

なかつ

た まったく

うまういっていると感じることが
なかった

あった 変わらなかった

13 毎日している勉強は
まったくうまく

とても いつもと うまく

うまういった 変わらなかった い

かななかった いかななかった

14 いつもより、自分のしていることに
まったく

あった いつもと なかった

生きがいを感じることに
なかった

変わらなかった

15 いつもより、かんたんに
かった まったく

できた いつもと できな

ものごとを決めることが
できななかった

変わらなかった

16 いつもよりストレスを感じることに
たびたび

まったく あまり あった

なかった なかった

あった

17 いつもより、ふだんの生活を
まったく

できた いつもと できななかった

楽しく送ることが

変わらなかった

できななかった

18 いろいろして、おこりっぽく
た たびたび

まったく あまり あっ

なることは なかった なかった

あった

19 たいした理由がないのに、何か
たびたび

まったく

あまり

あった

こわくなったり取り乱すことは
あった

なかった

なかった

20 いつもより、いろいろなことを
たびたび

まったく

いつもと

あった

重荷と感じたことは

なかった

変わらなかった

あった

21 自分は役に立たない人間だと
たびたび

まったく

あまり

あった

考えたことは

なかった

なかった

あった

22 人生にまったく望みを失ったと
たびたび

まったく

あまり

あった

感じたことは

なかった

なかった

あった

23 不安を感じ、緊張したことは
たびたび

まったく

あまり

あった

なかった

なかった

あった

24 生きていることに意味がないと
たびたび

まったく

あまり

あった

感じたことは

なかった

なかった

あった

25 この世から消えてしまいたいことが
たびたび

まったく

なかった

一瞬あった

あった

なかった

26 ノイローゼ気味で何もすることが
たびたび

まったく

あまり

あった

できないと考えたことは
あった

なかった

なかった

27 死んだ方がましだと考えたことは
たびたび

まったく

あまり

あった

あった

なかった

なかった

28 自殺しようと考えたことが
あった たびたび

まったく

あまり

あった

なかった

なかった

ありがとうございました。

ご協力ありが

参考文献

- ◆ 甲賀正總 1990 [子どもの病気・新時代](#) 中央法規
- ◆ デボラ・J・スティベック 1990 [子どものモチベーション](#) 二瓶社
- ◆ 石田一宏 1998 [キレル子、キレない子](#) 大月書店
- ◆ ドン・ティンクマイヤー, ルドルフ・ドレイカース 1985 [子どものやる気](#) 創元社
- ◆ 成田健一 1996 [General Health Questionnaire 28項目の因子構造](#) 東京学芸大学紀要 第1部門, 47-54.
- ◆ 新名理恵 1984 [ASQ日本版による大学生の原因帰属スタイルの検討](#) 日本心理学会第48回大会発表論文集, 619.
- ◆ 森尾博昭 1993 [失敗の原因帰属における自尊心及び公的自己意識の影響](#) 日本社会心理学会第34回大会発表論文集, 82-85.
- ◆ Yates,S.M., Yates,G.C.R., & Lippett,R.M. 1995 [Explanatoly style, ego-orientation and primary school mathematics achievement.](#) *Educational-Psychorogy*,**15**,1,23-34.
- ◆ Mannarino,A.P., & Cohen,J.A. 1996 [Abuse-related attributions and perceptions, general Attributions, and locus of control in sexually abused girls](#) *Journal of InterpersonalViolence*,**11**,162-180.
- ◆ Gladstone,Tracy-R.G., Kaslow,N.J., Seeley,J.R., & Lewinsohn,P.M. 1997 [Sex differences, Attributional style, and depressive symptoms among adolescents.](#)*Journal of Abnormal Child Psychology*,**25**,297-305.
- ◆ Thompson,M., Kaslow,N.J., Weiss,B., & Nolen-Hoeksema,S. 1998 [Children's Attributional Style Questionnaire-Revised: Psychometric examination.](#) *Psychological Assessment*,**10**,1,166-170.
- ◆ Dueder,M.A.F. 1992 [Factorial components and psychometric feature of the hopelessness scales for children.](#) *Derasat-Nafseyah*,**2**,2,25-55
- ◆ Franklin,K.M., Janoff-B,R., & Roberts,John-E. 1990 [Long-term impact of parental Divorce on optimism and trust: Changes in general assumptions or narrow beliefs.](#)*Journal of Personality and Social Psychology*,**59**,743-755.
- ◆ Schneider,Mary-J., & Leitenberg,H. [1989 A comparison of aggressive and withdrawn Children's self-esteem, optimism and pessimism, and causal attributions for success](#)

[and failure](#). *Journal of Abnormal Child Psychology*,**17**,133-144.

- ◆ Thomas,Sandra-P. 1995 [Psychosocial correlates of woman's health in middle adulthood](#). *Issues in Mental Health Nursing*,**16**,285-314.
- ◆ Seligman,Martin-E.P., Reivich,K. Jaycox,L., & Gillham,J. 1995 [The Optimistic Child](#). Houghton Mifflin Co.
- ◆ Vagnerova,M. 1995 [Self-esteem and assessment of the achievements of 4th - grades](#). *Psychologia a Patophycologia Dietata*,**30**,5-9.
- ◆ Browne,J. 1992 [Illusions in social cognition: A means of investigating post -formal cognition](#). *Irish Journal of Psychology*,**13**,210-222.
- ◆ Henniger,Michael-L. 1995 [Play: Antidote for childhood stress](#). *Early Child Development and care*,**105**,7-12.
- ◆ Chang,P., & Tang,Catharine-So-Kum. 1995 [Coping and psychological distress of Chinese parents of Children with Down Syndrome](#). *Mental Retardation*,**33**,10-20.
- ◆ Bird,J.E. 1988 [Optimism in Parental predistions of children's future behavior](#). *Early Child Development and Care*,**35**,29-38.
- ◆ Sloper,P., & Turner,S. 1992 [Service needs of families of children with severe psychological disability](#). *Child: Care, Health, and Development*,**18**,259-282.
- ◆ Johnson,Sylvia-T. 1992 [Extra-School factors in achievement, attainment, and aspiration among junior and senior high school-age African American youth](#). *Journal Negro Education*,**61**,99-119.
- ◆ 成田健一 1994 [データベースによるGeneral Health Questionnaireに関する研究の展開—PsycLITとMedlineを用いて—](#) 東京学芸大学紀要 第1部門, **45**, 185—203.
- ◆ 成田健一 1995 [General Health Questionnaireに関する因子分析的研究の展開—データベース \(PsycLIT, Medline\) を用いて—](#) 東京学芸大学紀要 第1部門, **46**, 155—169.
- ◆ Kessler,Ronald-P. 1984 [Quality of Affectional Bonding, Learned Helplessness, and Clinical Depression](#).*Paper presented at the Annual Convention of the American Psychological Association*,**143**,35.
- ◆ Atkinson,L. et al. 1987 [Factor Analysis of the Attributional style Questionnaire: Attributions, Outcomes, Events](#).*Paper presented at the Annual Convention on the American Psychological Association*,16.
- ◆ Richardson,John-T.E. 1990 [Reliability and Replicability of the Approaches to Studying Questionnaire](#).*Studies in Higher Education*,**15**,155-168.
- ◆ Mikulincer,M. 1990 [Joint Influence of Prior Beliefs and Current Situational Information](#)

[on Stable and Unstable Attributions.](#)*Journal of Social Psychology*,**130**,739-753.

- ◆吉川肇子・久保真人 1987 [自己評価の維持に果たす社会的比較と維持的比較の役割](#) 日本心理学会第51回大会発表論文集, 618.
- ◆強矢秀夫・青柳肇・細田一秋・高島直子 1987 [Helplessnessに関する研究](#) 日本心理学会第51回大会発表論文集, 589.
- ◆村上裕恵 1989 状況の変化に伴う帰属様式の変化に関する実証的研究 慶應義塾大学文学部社会学研究科紀要, **29**, 25-32.
- ◆厚生省 1997 [平成10年度厚生白書](#) ぎょうせい
- ◆厚生省 1996 [平成9年度厚生白書](#) 厚生問題研究会
- ◆渡辺弥生 1990 [クラスの学習目標の認知が生徒の学業成績に及ぼす影響について](#) 教育心理学研究, **38**, 198-204.
- ◆谷島弘仁・新井邦二郎 1995 [中学生におけるクラスの動機づけ構造の認知に関する探索的検討](#) 教育心理学研究, **43**, 74-84
- ◆Yiping Pan・塗師斌 1989 [学業達成場面における原因帰属と学習意欲—中国と日本の比較—](#) 横浜大学紀要, **29**, 149-175
- ◆児童研究会(編) 1986 [ほめ方・叱り方の心理学](#) 金子書房
- ◆榎本博明 1996 [性格の見分け方](#) 創元社
- ◆沢宮容子・田上不二夫 1997 [楽観的帰属様式尺度の作成](#) 教育心理学研究, **45**, 355-362.
- ◆大坊郁夫・中野星 1987 [日本版ASQ短縮版の有効性](#) 日本心理学会第51回大会発表論文集, 737.
- ◆桜井茂男 1983 Harterの内発的-外発的動機付け尺度の検討 日本教育心理学会第25回総会発表論文集, 368-369.
- ◆桜井茂男 1987 大学生の絶望感および抑うつに及ぼす原因帰属の影響 日本心理学会第51回大会発表論文集, 591.
- ◆桜井茂男 1989 [児童の絶望感と原因帰属との関係](#) 日本心理学研究, **60**, 304-311.
- ◆桜井茂男 1991 [社会的不適応に関する原因帰属モデルの検討](#) 日本心理学会第55回大会発表論文集, 444.
- ◆樋口一辰・鎌原雅彦・大塚雄作 1983 児童の学業達成に関する原因帰属モデルの検討 教育心理学研究, **31**, 18-27.
- ◆Abramson,L.Y., Metalsky,G.I., & Alloy,L.B. 1989 Hopelessness depression: A theory-based subtype of

depression. *Psychological Review*, **96**, 358-372.

- ◆ M. セリグマン (山村宜子 訳) 1991 オプティミストはなぜ成功するか 講談社
 - ◆ 中川泰彬・大坊郁夫 1985 日本版GHQ精神健康調査票〈手引き〉 日本文化科学社
 - ◆ 長根光男 1991 [学校生活における児童の心理的ストレスの分析—小学4, 5, 6年生を対象として—](#) 日本教育心理学研究39, 182-185
 - ◆ 西由布子・山中はるひ 1998 ストレスへの対処スタイルに関する研究—BASIC-Ph理論に基づいて 関西学院大学社会学部卒業論文
 - ◆ 岡安孝弘・島田洋徳・丹羽洋子・森俊夫・矢富直美 1991 [中学生における学校ストレスの研究](#) 日本心理学会第55回大会発表論文集
 - ◆ 阿部恒之・互惠子・寺下裕美・大須賀美恵子・下野太海 1991 [ストレス反応の定量的評価を目指して](#) 日本心理学会第55回大会発表論文集
 - ◆ 三浦正江・坂野雄二 1996 [中学生が学校ストレスに対して行うコーピングが認知的評価に及ぼす影響](#) 日本心理学会第60回大会発表論文集
 - ◆ 木島恒一・成田猛・久米稔 1998 [ストレス・コーピング・スキル・尺度 \(SCSS\) 作成の試み](#) 日本心理学会第62回大会発表論文集
 - ◆ Martin.E.P.Seligman 1974 [Helplessness](#) W.H.FREEMAN AND COMPANY
 - ◆ 溝上慎一 1997 [自己評価と人との関連性 \(1\)](#) 日本心理学会第61回大会発表論文集
 - ◆ 石田梅男 1997 [教師の自律支持教育が児童の内発的動機付に及ぼす効果](#) 日本心理学会第61回大会発表論文集
 - ◆ 園田明人 1997 [随伴性判断におけるOptimistic Biasの基礎分析](#) 日本心理学会第61回大会発表論文集
 - ◆ 水間玲子 1997 [自己の理想水準設定について \(1\) 自己成長性意識との関連](#) 日本心理学会第61回大会発表論文集
-